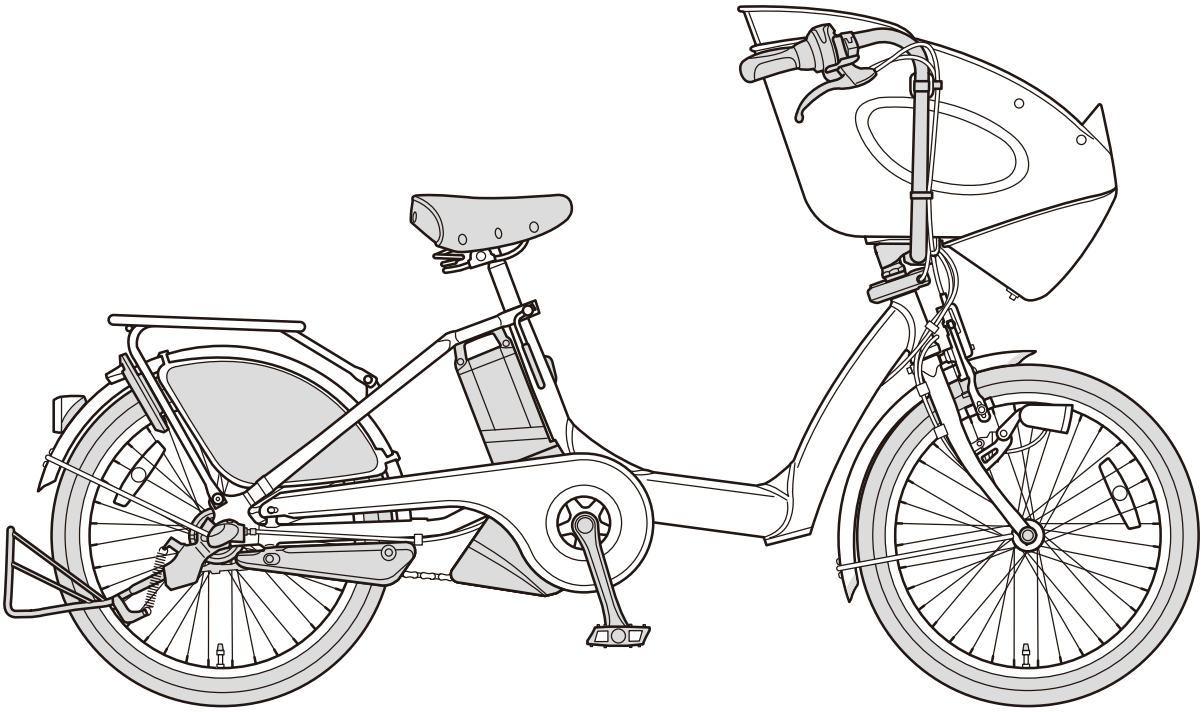
BRIDGESTONE

電動アシスト自転車
取扱説明書
（幼児二人同乗用自転車）

お願い

- 納車時に販売店から、電動アシスト自転車の使用方法について充分に説明を受けてください。
- 本書と保証書／点検・整備の記録は、紛失しないよう大切に保管し、ご活用ください。
- 盗難補償には加入手続きが必要です。盗難補償書に記載の期日（購入後20日）を目途に、ホームページからオンライン登録するか、またはロビンフッド手帳（保証書・盗難補償書）に記載のQRコードから携帯電話でオンライン登録する、またはロビンフッド手帳のブリヂストンサイクル盗難補償カード（ハガキ）に必要事項を記入の上、投函してください。
- 電動アシスト自転車を他の人にお譲りになる場合は、取扱説明書も一緒にお渡しください。
- 保証書は「販売店名、お買い上げ日」などの記入を確かめて販売店からお受け取りください。
  記入がもれている場合は、販売店にご請求ください。



この自転車は一般用として設計されています。新聞配達などの業務用としてご使用にならないようお願いします。
仕様変更などによりイラストや内容が一部実車と異なる場合があります。

もくじ

はじめに
前書き……4

安全運転のために
安全に使用するために……5
自転車の交通ルールについて……18

電動アシスト自転車について
電動アシスト自転車のしくみ……21
各部の名称……22

バッテリーについて
バッテリーの特徴……23
バッテリーの交換について……24
バッテリーや充電器を使うとき……26

充電しましょう
充電に適した環境……31
バッテリーの脱着……32
充電のしかた……34
充電状態の見かた……35
充電時間の目安……36

乗る前に
乗車前点検……38
バッテリー残量の確認……51
走行モードについて……54

乗りましょう
発進のしかた……57
チャイルドシートの使い方……60
テモトデロックの操作方法……68
安全な使いかた……71
ブレーキ操作のしかた……80
変速のしかた……81
グリップ式ベルの使い方
（グリップ式ベル装着車のみ）……83
メインスイッチのメーターについて……84
前照灯について……86
荷物の積載……88
チャイルドシートについて……90
アシストが作動しない環境……92
駐輪のしかた……93
後輪錠の使いかた……94
S.P.E.C.3／
スピード（車速）センサーについて……95

お手入れと保管
お手入れのしかた……96
保管のしかた……99

ごぞんじですか？
もしもこんなときは……101
定期点検／
普通自転車点検整備済みTSマーク……110
保証制度／基準適合標章（TSマーク）……111
BAAマーク……112
防犯登録／盗難補償／保険について……113
スペアキーについて……114
点検・整備の記録……115

前書き

このたびは、電動アシスト自転車をお求めいただきまして、まことにありがとうございました。
電動アシスト自転車は電動アシストシステムを搭載している自転車です。自転車に乗れる方なら手軽に乗ることができます。
しかし、自転車とは異なる点もございますので、お乗りいただく前に必ず、本書をお読みいただき、安全かつ軽快にご使用ください。
お子様がお使いになる場合は、保護者の方が本書を必ずお読みいただき、正しい乗りかたをご指導ください。

本書では、正しい取り扱いおよび点検・整備に関する必要な事項を下記のシンボルマークで区分しています。

⚠	**安全にかかわる注意情報を意味しています。**
⚠警 告	**取り扱いを誤った場合、死亡または重傷に至る可能性が想定される場合を示してあります。**
⚠注 意	**取り扱いを誤った場合、傷害に至る可能性または物的損害の発生が想定される場合を示してあります。**
要 点	**正しい操作のしかたや点検整備上のポイントを示してあります。**
⃠	**安全上してはいけない「禁止」内容を意味しています。**
❗強 制	**この表示の欄は、「使用者に必ず実行していただく」内容です。**

自転車に関する法律（一部のみ紹介します）

- 「自転車の安全利用の促進および自転車等の駐輪対策の総合的推進に関する法律」第12条には自転車等の利用者の責務として次の事項が定められています。
  (1) 自転車を利用する者は、道路交通法その他の法令を遵守する等により歩行者に危害をおよぼさないようにする等の安全な利用に努めなければならない。
  (2) 自転車等を利用する者は、自転車等駐輪場以外の場所に自転車等を放置することのないように努めなければならない。
  (3) 自転車を利用する者は、その利用する自転車について、国家公安委員会規則で定めるところにより都道府県公安委員会が指定する者の行う防犯登録を受けなければならない。
- 「道路交通法」第62条には整備不良車両の運転禁止が定められています。
- 「道路交通法」第63条の11には次の事項が定められています。
  (1) 自転車の運転者は、乗車用ヘルメットをかぶるよう努めなければならない。
  (2) 自転車の運転者は、他人を当該自転車に乗車させるときは、当該他人に乗車用ヘルメットをかぶらせるよう努めなければならない。
  (3) 児童又は幼児を保護する責任のある者は、児童又は幼児が自転車を運転するときは、当該児童又は幼児に乗車用ヘルメットをかぶらせるよう努めなければならない。

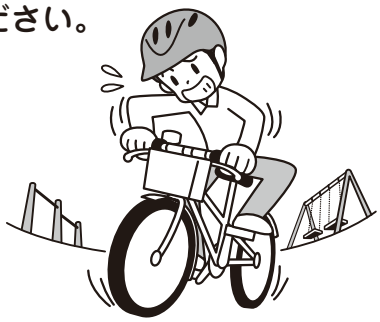
安全に使用するために

電動アシスト自転車の使用について

⚠警　告

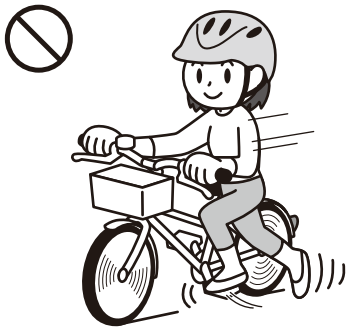
電動アシスト自転車の発進に慣れるまでは、車や人の多い道で乗らない

- 電動アシスト自転車は普通の自転車より軽く発進できます。普通自転車と同じようにペダルを踏むと、電動アシストが作動して普通自転車以上に加速するので、驚いて転倒や衝突のおそれがあります。
- まずは安全な場所で練習して電動アシストの感覚に慣れましょう。
- 練習の時は「標準モード」で発進しましょう。
- 危険な走行（高速走行、急坂登坂）はせず、年齢や体力に合った走り方をしてください。



けんけん乗りは行わない

走りだす前に必ずサドルに座ってから、発進してください。けんけん乗りをすると、電動アシストが作動することで自転車だけが前に進み、体が取り残される場合があり、転倒や接触事故につながるおそれがあります。

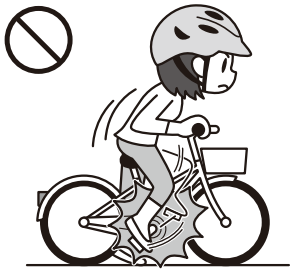


凹凸の差が大きい場所は走らない
（歩道の段差や、溝など）

- 車体や車輪、電動アシストシステムが損傷することで転倒し、けがをするおそれがあります。
- タイヤが溝にはまり転倒するおそれがあります。
- 凹凸の差が大きいところは自転車から降り、押して歩いてください。

発進時はペダルを強く踏み込みすぎない

- 思わぬ急発進により転倒や衝突事故によるけがのおそれがあります。
- 一般の自転車のように強く踏み込まなくても、楽に発進することができます。

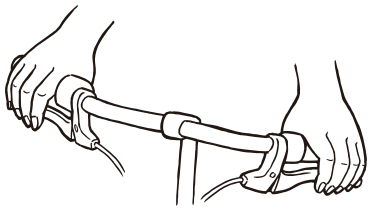


安全に使用するために

電動アシスト自転車の使用について（つづき）

⚠警　告

止まっている時は、前と後の両方のブレーキをかけ、ペダルに足を乗せない

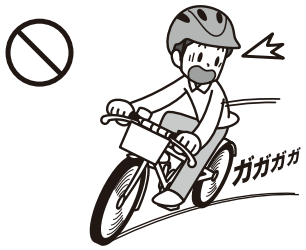


- ペダルに足を乗せると、電動アシストが作動する場合があります。
- 止まっている時は、前と後の両方のブレーキをかけ、ペダルには足を乗せないようにしてください。

夜走る前に、必ずバッテリー残量をチェックする

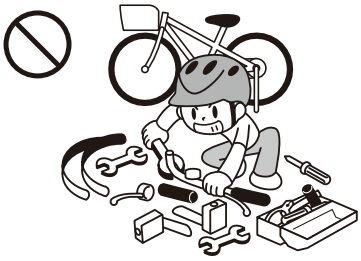
- バッテリーによって前照灯（ライト）は点灯しています。バッテリーが減少し、アシストができなくなった場合、しばらく経つと消灯します。その状態で乗車すると衝突や転倒のおそれがあります。
- 無灯火走行は法令により禁止されていますので夜の走行時に前照灯が消えた場合は、自転車を押して歩いてください。

異常を感じた場合は乗らない



- 事故や転倒によってけがをするおそれがあります。
- 異常表示や異常点滅（P105）など、異常な状態を発見した場合はすぐに購入したお店に相談してください。

電動アシストシステムの分解や電動アシストシステムへの注油はしない



- 故障や誤動作が発生し、事故や転倒によりけがをするおそれがあります。
- 電動アシストシステム、バッテリーなどは精密な部品により構成されているため、分解、注油は行わないでください。
- 故障したと思われる時は、「もしもこんなときは」（P101～P109）を参照の上、購入したお店にご相談ください。

自転車を改造しない

- 部品の破損や、故障により、けがのおそれがあります。
- 修理及び、パーツの取り付けは購入したお店にご相談ください。

純正部品以外は使用しない（アクセサリー、交換部品）

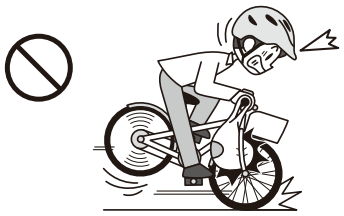
- 部品の破損や故障により、けがのおそれがあります。
- タイヤなどの消耗品、アクセサリーなどの部品は、購入したお店にご相談の上、必ず純正部品を取り付けてください。それ以外の市販品を使用した場合は思わぬ事故、故障の原因になります。また保証の適用が受けられない場合もありますのでご注意ください。

安全に使用するために

乗車される前に

⚠警 告

手やハンドルにバッグや荷物をかけたり、ペットをつないだりしないまた、傘やステッキなどを車体に差し込んだりしない



- 車輪に巻き込んだり、他の人や物にぶつけて転倒し、事故・けがをするおそれがあります。
- 荷物は、バスケットやリヤキャリヤに積んでください。

傘をさしながらの運転はしない

- バランスがとりにくくなり、転倒によるけがのおそれがあります。
- 合図する時以外は両手でしっかりハンドルを握って運転してください。

滑りやすい靴（サンダルなど）や、かかとの高い靴などを履いて乗らない

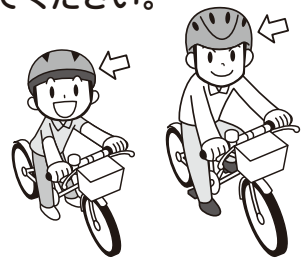
足がペダルから外れて、靴（サンダルなど）が前輪に接触するとハンドル操作ができなくなったり、前輪に靴（サンダルなど）が巻き込まれて転倒するおそれがあります。

車輪やチェーンに巻き込まれやすい服装は避ける
（長いスカートや長いマフラーなど）

- 転倒によるけがのおそれがあります。
- すそが広がっているズボンはバンドやゴムで留めるようにしてください。

自転車に乗車する時は自転車用ヘルメットを着用してください

自転車を運転するすべての人がヘルメットをかぶることに努めなければならないのはもちろんのこと、同乗する方にもヘルメットをかぶらせるように努めてください。
また、保護者等の方は、児童や幼児が自転車を運転する際は、ヘルメットをかぶらせるよう努めてください。



飲酒時やかぜ薬など服用時、および体調が優れないときは乗らない

運動機能が低下し、衝突などによるけがのおそれがあります。

安全に使用するために

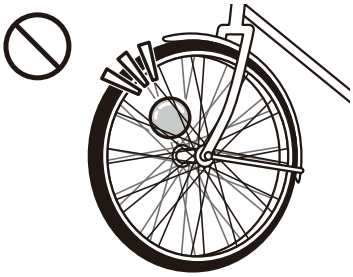
乗車される前に（つづき）

⚠警　告

積載条件から外れる荷物を積まない（P88）

バランスを崩し、転倒によるけがのおそれがあります。

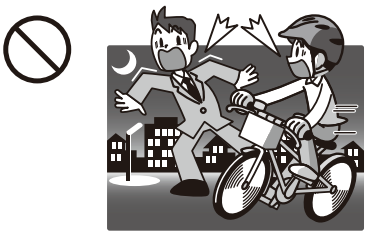
スポークの間にボールなどを入れて走らないこと



車輪とフレーム、前ホークなどのすき間にはさまって転倒するおそれがあります。

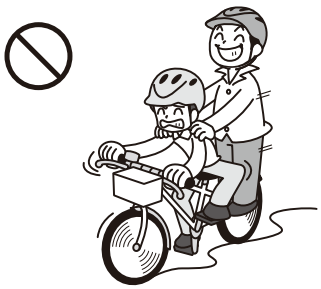
⚠ 夜間使用する時は、前照灯の点灯を確認すること
リヤリフレクターに自動点滅ソーラーテール（リヤリフレクター）を装着している車両は、自動点滅ソーラーテール（リヤリフレクター）の点滅を確認すること

視界の悪いときは、無灯火で乗らない
（夜間やトンネル内や霧など）



- 見通しが悪くなり、また他の通行者から見えづらくなり、衝突や転倒によるけがのおそれがあります。
- 夜間道路を走るとき、及びトンネル内を走るときには必ず前照灯を点灯してください。もし前照灯がつかないときは、押して歩いてください。
- 夜間道路を走るとき、及びトンネル内を走るときには必ずバスケットやバスケット内の荷物が、前照灯の光を遮っていないことを確認してください。

二人乗りはしない
（チャイルドシート（幼児用座席）を使用して幼児を乗せる場合を除きます。）

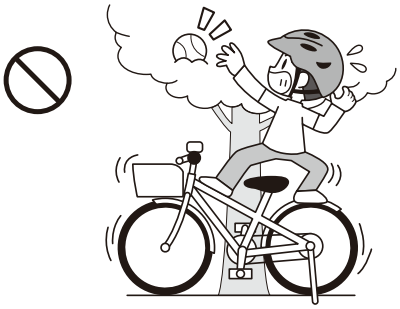


自転車の二人乗りは道路交通法で禁止されています。転倒や落車などによるけがのおそれがあります。

乗車される前に（つづき）

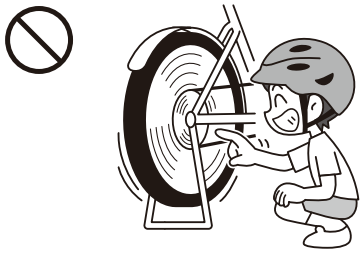
⚠警　告

踏み台代わりなど走行以外に使わない



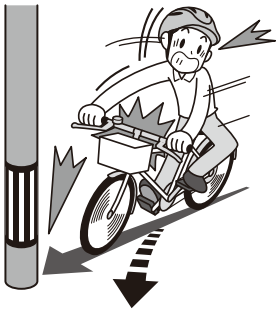
転倒によるけがのおそれがあります。

車輪・チェーンなどの回転部に手や足、ものなどを近づけない
また、子供を近づけさせない



車輪やチェーンに巻き込まれ、けがをするおそれがあります。

テモトデロックのハンドルロック部の本体が割れていたり、ハンドルの操作にひっかかりがある状態で乗らない



走行中にハンドル操作ができなくなり、事故・ケガのおそれがあり危険です。
（テモトデロック：P68～P70）

⚠注　意

乗る前に必ず乗車前点検をする

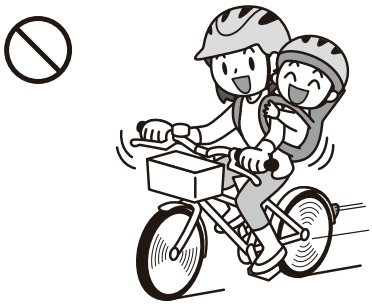
- 乗る前には必ず点検を行ってください。（P38～P50）
- 不明な点がありましたら販売店にご相談ください。

安全に使用するために

乗車中に

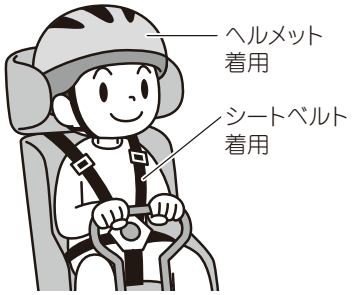
⚠警 告

幼児はチャイルドシート（幼児用座席）を使用せずに乗せない



- 安定が悪くなり転倒によるけがのおそれがあります。
  （一部市販品で取り付けられない場合がありますので、ご購入前に必ず販売店にご相談ください。）
- 16才未満の方は、幼児を乗せて使用することは法令で禁止されています。
- ご使用に際しては、確実にチャイルドシートが取り付けられているか（特に取り付け金具やボルトなど）を必ず確認してください。
- リヤチャイルドシートを使用する場合は、確実にリヤキャリヤ、スタンドが取り付けられている（ネジやボルトなど）ことと、リヤキャリヤとスタンドの取り付けにガタつきがないことを必ず確認してください。
- チャイルドシートを使用する場合は、両立スタンドを使用してください。
- 使用中は、幼児の足や手が可動部にはさまれないよう注意してください。
- チャイルドシートを使用する場合は、転倒による事故のおそれがありますので、幼児にシートベルトを着用させてください。
- リヤチャイルドシート（後幼児用座席）を使用する場合は、リヤキャリヤを必ずご使用ください。あわせて、フットガードを必ず装着してください。
- 幼児を乗せたまま駐輪しないでください。

幼児をチャイルドシート（幼児用座席）に乗せるときは必ず、幼児にシートベルトと自転車用ヘルメットを着用させなければなりません



- これらを着用していないと、自転車が転倒したとき、幼児が頭部を強打して大きな危害につながるおそれがあります。
- ヘルメットは、JIS T 8134（自転車用ヘルメット）と同等以上の性能を持つ、幼児用ヘルメットを着用させてください。

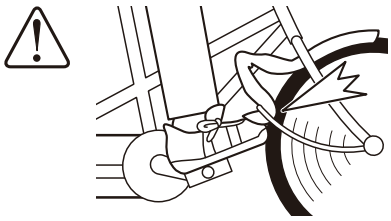
幼児をチャイルドシート（幼児用座席）に乗せたまま放置しない

安定が悪くなり転倒によるけがのおそれがあります。

乗車中に（つづき）

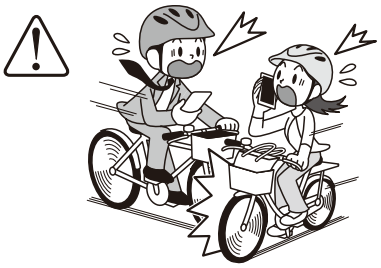
⚠警　告

走行中、くつ先が前輪や前ドロヨケに接触しないようにする
（つま先でペダルを踏む）



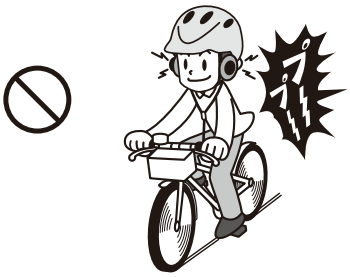
前輪の回転により、足やドロヨケが巻き込まれて、事故を起こす危険があります。

走りながら携帯電話をかけたり、メール操作などをしながら走行することは道路交通法で禁止されています



片手運転と前方不注意により、衝突・転倒のおそれがあります。

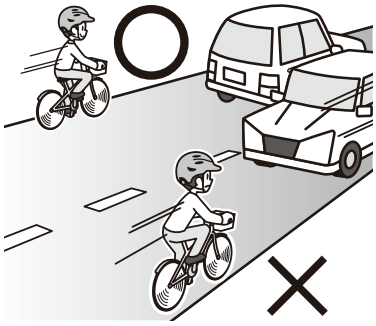
イヤホン・ヘッドホンを使用しながら乗車することは道路交通法で禁止されています



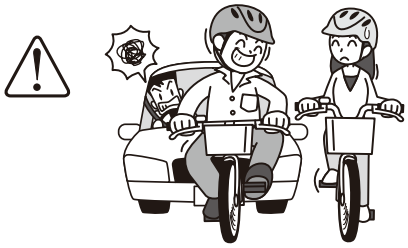
周囲の音が聞こえず、事故を起こすおそれがあります。

⚠ 車道を通るときは、左側に沿って通行します。

車道の右側通行は道路交通法で禁止されています



2人以上で通行するとき、横に並んで通行しない



自転車の並進は道路交通法で禁止されています。他の交通の妨げになったり、接触して、事故を起こす危険があります。
1列で通行しましょう。

乱暴な乗りかたはしない
（アクロバット的な乗りかたや急発進、急旋回など）

転倒や落車などによるけがのおそれがあります。

安全に使用するために

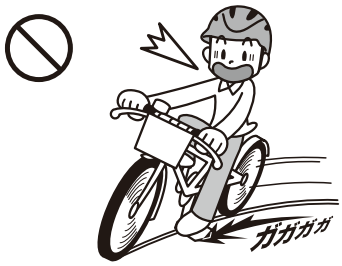
乗車中に（つづき）

⚠警　告

滑りやすいところでは乗らない
（積雪や凍結した道、濡れている鉄板やマンホール、ぬかるみ、歩道の点字ブロックなど）

- スリップして、転倒によるけがのおそれがあります。
- 自転車から降りて、押して歩いてください。

カーブで曲がる側のペダルを下げない



ペダルが地面と接触し、転倒によるけがのおそれがあります。

強制

衝突や転倒したときは必ず点検を行い、異常を発見したら使用せずに販売店に相談すること。

片側だけのブレーキ操作はしない

- スリップして、転倒によるけがのおそれがあります。
- ブレーキをかける時は、必ず前後ブレーキを併用し、後ブレーキを先にかけてから前ブレーキをかけてください。
- 前ブレーキを強くかけると、車輪がロックし、自転車が前方に転倒するおそれがあります。

急な登り坂では、自転車から降り押して歩く

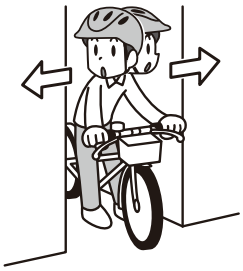
登り坂では前輪が浮いたり、ハンドルがとられやすくなり、転倒し事故・けがをするおそれがあります。

自転車が完全に止まってから降りる
自転車が完全に止まる前に飛び降りるようにして降りると、バランスを崩して転倒やけがのおそれがあります。

乗車中に（つづき）

⚠注 意

**危険な場所では
一時停止して周囲を確認する**



交差点では信号を必ず守り、一時停止の標識のある場所や、狭い道から広い道へ出る時は必ず一時停止して安全を確認してください。
（信号無視、一時不停止は、3ヶ月以下の懲役または5万円以下の罰金となります）

雨天時の坂道走行では、タイヤがスリップしたりブレーキのききが悪くなり、転倒や衝突事故を起こす危険性が高まります

前後ブレーキを併用し速度を落として走行してください。特に雨、風、雪がひどいときや視界が悪いときは、自転車から降りて押して歩いてください。

雨などでブレーキが濡れた場合は、乾燥させた後ご利用ください

雨が上がってもブレーキが濡れているとブレーキのききが悪くなります。特に、大雨に当たった場合やブレーキが水に浸かった場合は、必ずブレーキのききを確認し、異常があれば使用を中止してください。

いつでもブレーキレバーを握れるように注意してご乗車ください。

急ブレーキはかけないように、常に前方に注意し、スピードを控えめにご乗車ください

下り坂では、前後ブレーキを併用し安全な速度で走行してください

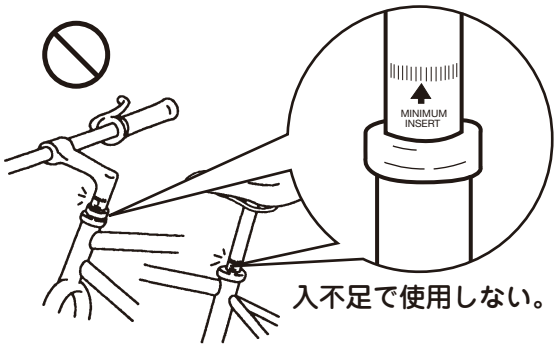
特に長い下り坂を前後どちらかのブレーキだけを使って走行すると、制動部が非常に熱くなり、ブレーキの効きが大幅に低下し危険です。

安全に使用するために

自転車の点検・整備について

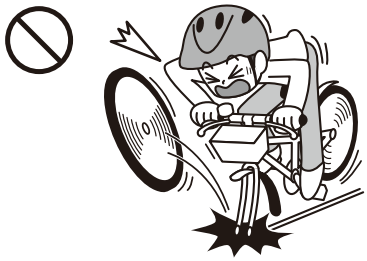
⚠警 告

サドルやハンドルは引き上げ限界線が見える状態で乗らない



サドルやハンドルの折れや抜けにより事故・けがのおそれがあります。

車輪の脱着やハンドル、サドルの調整後、締め付けを確認せずに乗らない

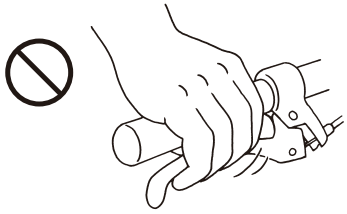


- 車輪やサドルが外れて転倒によるけがのおそれがあります。
- 必ず乗る前に点検してください。

整備不充分のブレーキのままで走行しない（P39、P107）

- 赤さびになったケーブル、ほつれたケーブル、大きく摩耗したブレーキシューなどは制動力を低下させ、衝突・転倒のおそれがあります。速やかに販売店で、点検・交換をしてください。
- 乗る前には安全な広い場所で、前後のブレーキが正しく作動するか必ず確認してください。
- ブレーキレバーの握りしろについては「乗車前点検」の項目を参照してください。
- 雨天のときは、晴天のときより制動距離が長くなります。スピードを控えて、早めの滑らかなブレーキ操作をしてください。
- 後輪のローラーブレーキには専用グリスの補給が必要です。1年毎、またはブレーキをかけたときに音鳴りの発生や制動力に異常を感じたら、販売店でグリスを補給してください。

ブレーキレバーの遊びが大きくないこと



ブレーキレバーの遊びが大きいものは、ブレーキが効かなくなることがあり、危険ですので、すぐに販売店で点検を受けてください。

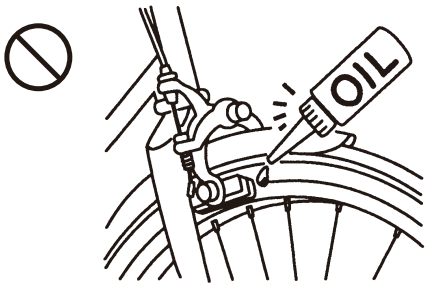
⚠ **リムのブレーキ面に磨耗による変形、ふくれ、キズ、ひび、きれつ、振れ、汚れがあるまま使用しないこと**

走行中にリムが破損し、転倒して事故・けがをするおそれがあります。

自転車の点検・整備について（つづき）

⚠警　告

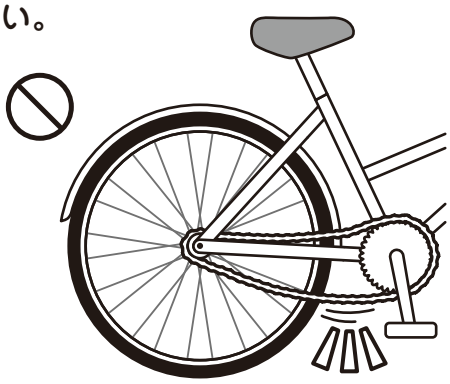
ブレーキの制動面やタイヤ、リムに注油しない



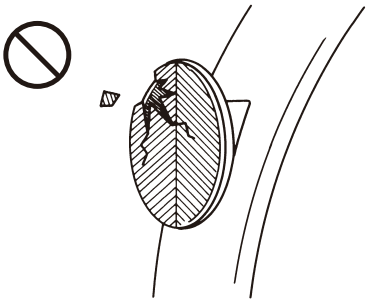
ブレーキが効かなくなり、衝突によるけがのおそれがあります。

チェーンが大きくたるんでいないこと

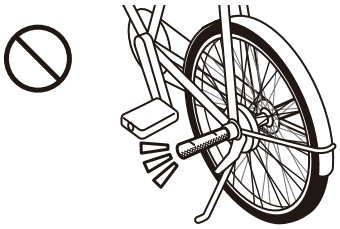
チェーンのたるみが大きくなると、走行時にチェーンが外れやすくなり、危険ですので、すぐに販売店で調整を受けてください。



リフレクタが破損したり、汚れたまま使用しないこと

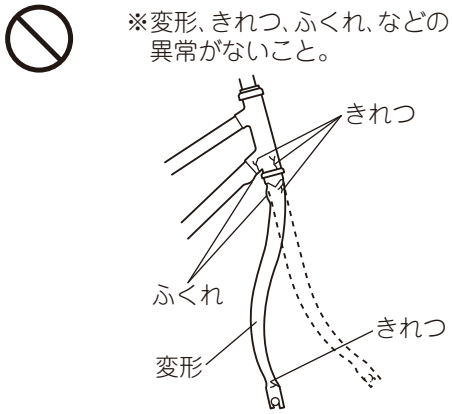


ハブステップを使用しないこと



後ハブ軸にハブステップを取り付け、2人乗りで使用すると、ハブステップが破損して転倒したり、事故を起こす危険があります。

フレーム、前ホークに異常がある場合は乗らない



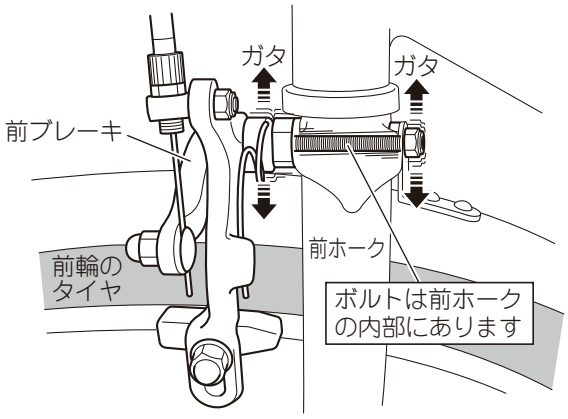
- 走行中にこわれて、事故・けがのおそれがあります。
- 前ホークには、交通事故などで衝突した時に、前ホーク自体が変形することで、乗員や車体に加わる衝撃を吸収する機能があります。このため、前ホークはむやみに高い強度には設計されていません。衝突や転倒などで、自転車に強い衝撃が加わった後は、特に前ホークにきれつや変形などの異常がないか確認してください。

安全に使用するために

自転車の点検・整備について（つづき）

⚠注　意

前ブレーキの取り付け部のネジがゆるんで、前ブレーキがガタガタしたままで走行しない



前ブレーキが破損して、正常なブレーキができなくなり、事故・ケガのおそれがあり危険です。

歩行者に危害を及ぼすおそれのある突起物を装着しないこと。

変形したり破損した部品はすぐに交換すること

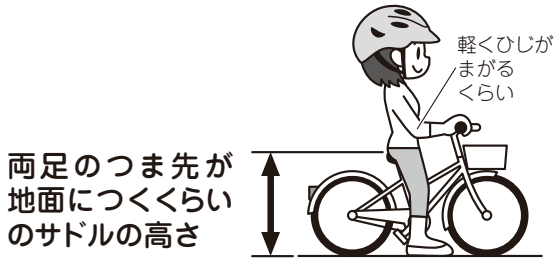
未組み立て及び未調整の自転車を使用しないこと
部品が外れたり、操作ができなくなり、転倒や事故・けがのおそれがあります。必ず販売店でも点検・組み立てをおこなってください。

正しい姿勢で走行できるよう調整する

お買い求めの販売店でサドルやハンドルの位置などを自分に合った高さに調整してもらいましょう。

通常の場合

幼児2人同乗の場合



日常点検や定期点検を行ってください

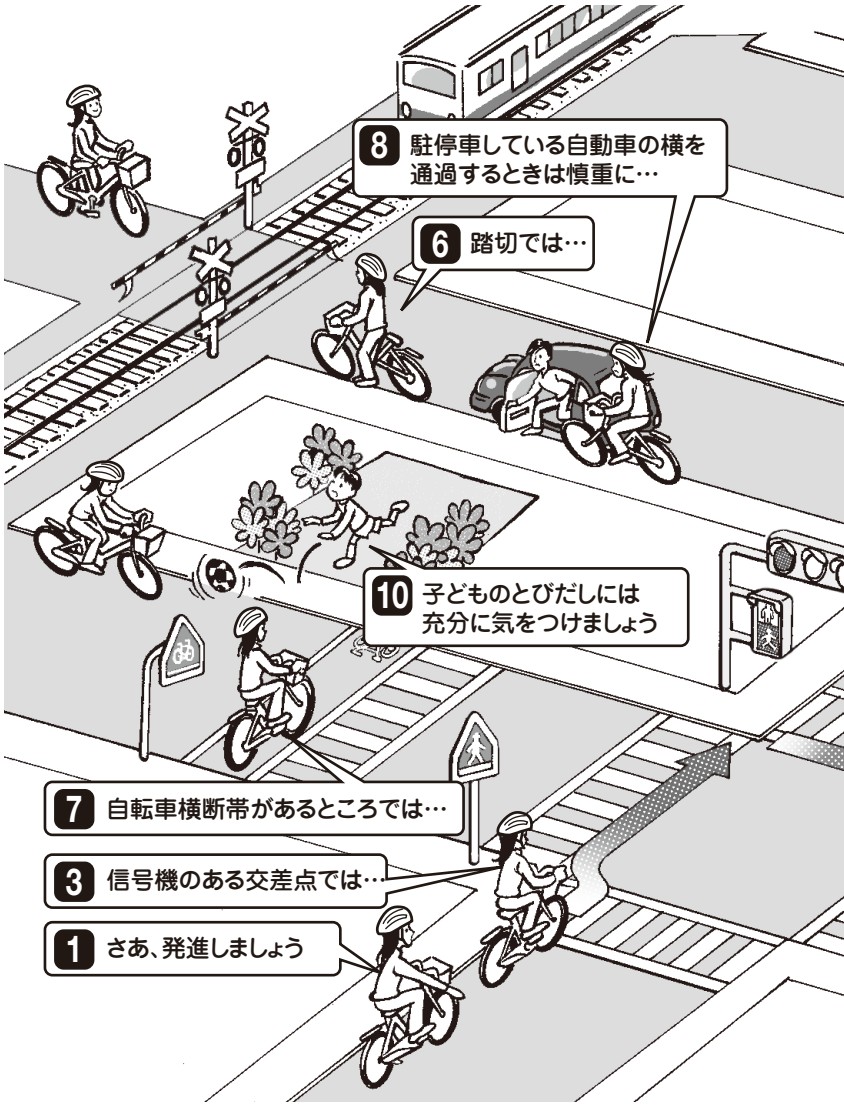
故障したままの整備不良車の運転は禁止されています。

サイクルショップ
どこ行
日の丸デパート
コーヒー

自転車の交通ルールについて

⚠警 告

自転車をより快適に、そして安全に乗るため交通ルールを守って安全運転を心がけましょう。安全に運転するために以下のようなことに気をつけてください。
守らないと衝突や転倒などによるけがのおそれがあります。



1 さあ、発進しましょう

- 走りだすときは、道路の左側から発進します。
- 周囲の安全確認を忘れずに。
- 後方から来る車にスタートの合図をします。
- スタートの合図のしかた
  右手を地面と平行に真横にだします。

2 道路の左側を走りましょう

自転車は左側通行が原則です。また、歩道のない道路では、つねに歩行者優先を心がけましょう。

3 信号機のある交差点では…

信号をしっかり守り、横断しましょう。

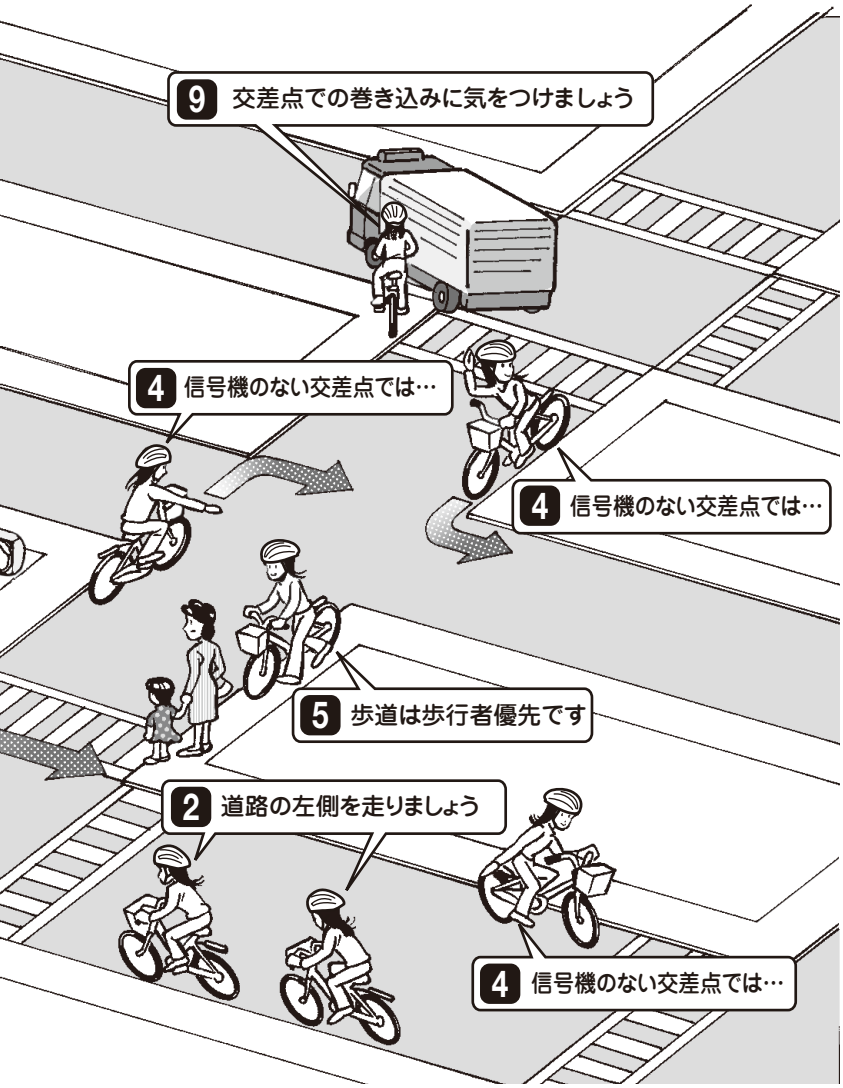
- 正面の信号が青のとき、直進、左折ができます。
- 右折するときは、2段階右折をしてください。
- 2段階右折のしかた
  正面の信号が青になったら一旦向こう側までわたり、止まります。次に右側の信号が青になってから進みます。

4 信号機のない交差点では…

信号機のない、見通しの悪い交差点では、周囲の安全を充分に確かめてから進みます。

- 曲がるときは合図をしましょう。右折・左折とも、30mくらい手前から合図をだします。
- 右折／右手を地面と平行に真横にだします。
- 左折／右手を地面と平行に真横にだし、さらにひじを直角に上に曲げます。
- 停止／右手を斜め下にだします。

自転車の交通ルールについて



5 歩道は歩行者優先です

自転車の通行が許可されている歩道でも、歩行者の迷惑となる場合は、一旦自転車から降りて車道寄りを押して歩くようにしましょう。

6 踏切りでは…

一旦自転車から降りましょう。
踏切りをわたるときは、踏切りの手前で停車し、自転車の左側に降りてください。
遮断機が上がっている場合も、安全を確認してからわたるように心がけましょう。

7 自転車横断帯があるところでは…

自転車横断帯の表示がある横断帯ではそこを通行しなければなりません。

8 駐停車している自動車の横を通過するときは慎重に…

駐停車している自動車や、渋滞などで止まっている自動車は、急にドアが開くおそれがあります。あらかじめスピードを充分に落としてから通過するようにしましょう。

9 交差点での巻き込みに気をつける

交差点はいちばん事故が起こりやすいところです。特に左折時の大型車による巻き込み事故には充分に気をつけましょう。左折時は周囲の安全を確かめてから曲がるようにしましょう。

10 子どものとびだしには、充分に気をつけましょう

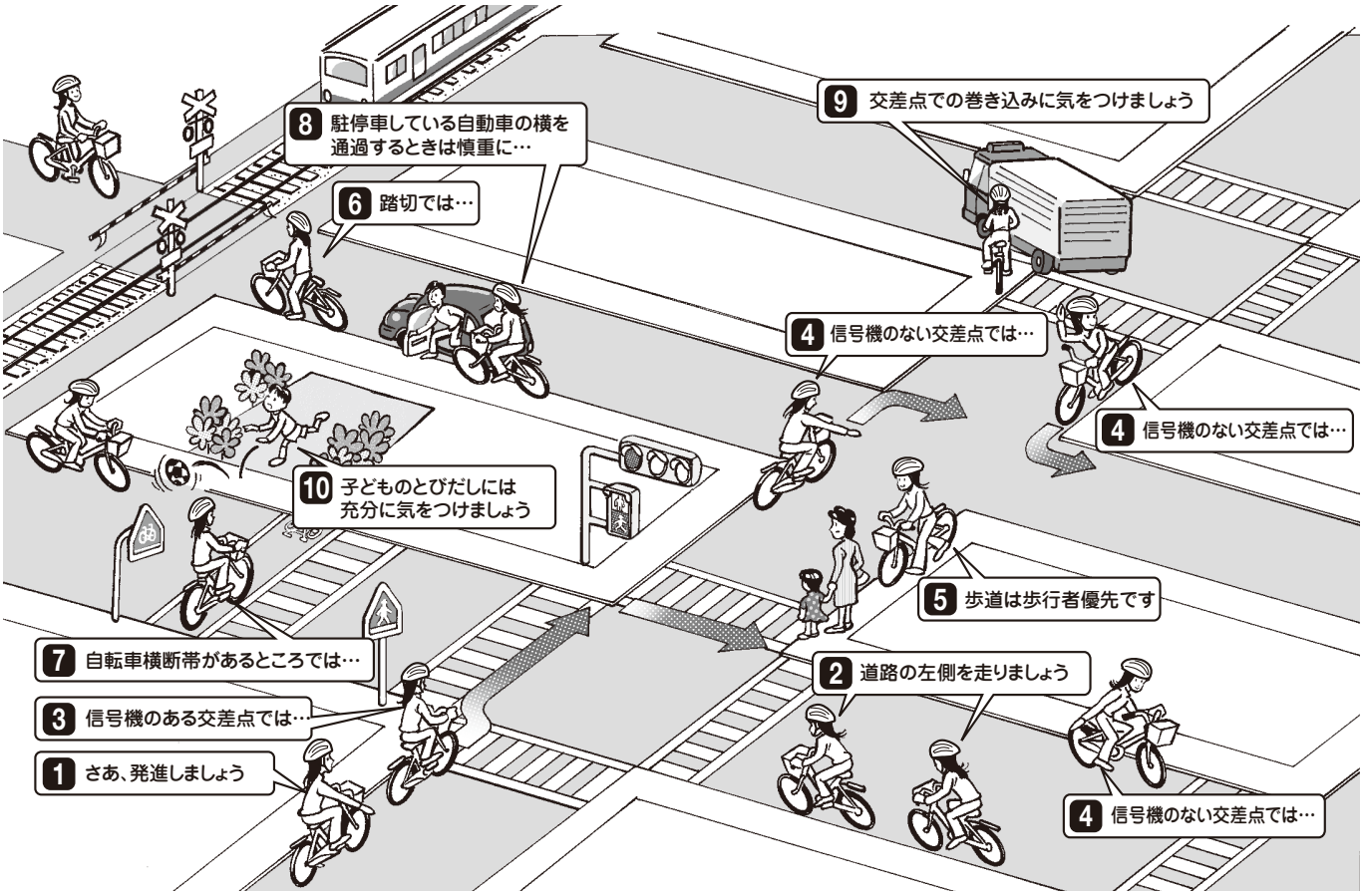
近くの公園や学校があるような道路では、とくに子どものとびだしに気をつけましょう。

11 自転車は車道通行が原則です

道路交通法上、自転車は軽車両と位置づけられています。したがって、歩道と車道の区別のあるところでは車道通行が原則です。
但し、次の場合には歩道を通行することができます。

- 道路標識等で指定された場合
- 運転者が児童、幼児等の場合
- 車道または交通の状況からみてやむを得ない場合

自転車の交通ルールについて



自転車のルールを守って、安全走行

●止まって確認、らくらく発進
●ライトをつけて、らくらく走行

スピードのだしすぎや急ブレーキはやめましょう

スピードのだしすぎや急ブレーキは転倒や追突のもと。特に下り坂や雨の日、ぬれた路面などはすべりやすいので、ブレーキ操作に気をつけましょう。
また、カーブや交差点などではスピードを充分に落とし、ゆとりあるブレーキ操作で安全運転を心がけましょう。

●ブレーキをかけるときは…
ブレーキは、後ろブレーキ（左レバー）を早めに必ず前後ともにかけます。片側だけのブレーキ操作は転倒や横すべりの原因になります。

●長い下り坂でのブレーキ操作は…
長い下り坂でブレーキをかけっぱなしにすると、ブレーキシューが加熱してブレーキが効かなくなるおそれがあります。ブレーキは小刻みにかけましょう。

の標識があるところでは…

必ず一旦停車し、周囲の安全を確認してから走りだしましょう。

横断歩道をわたるときは一時停止を忘れずに！

横断歩道の手前で一旦停車し、安全を確認してから進みましょう。

の標識・表示があるところでは…

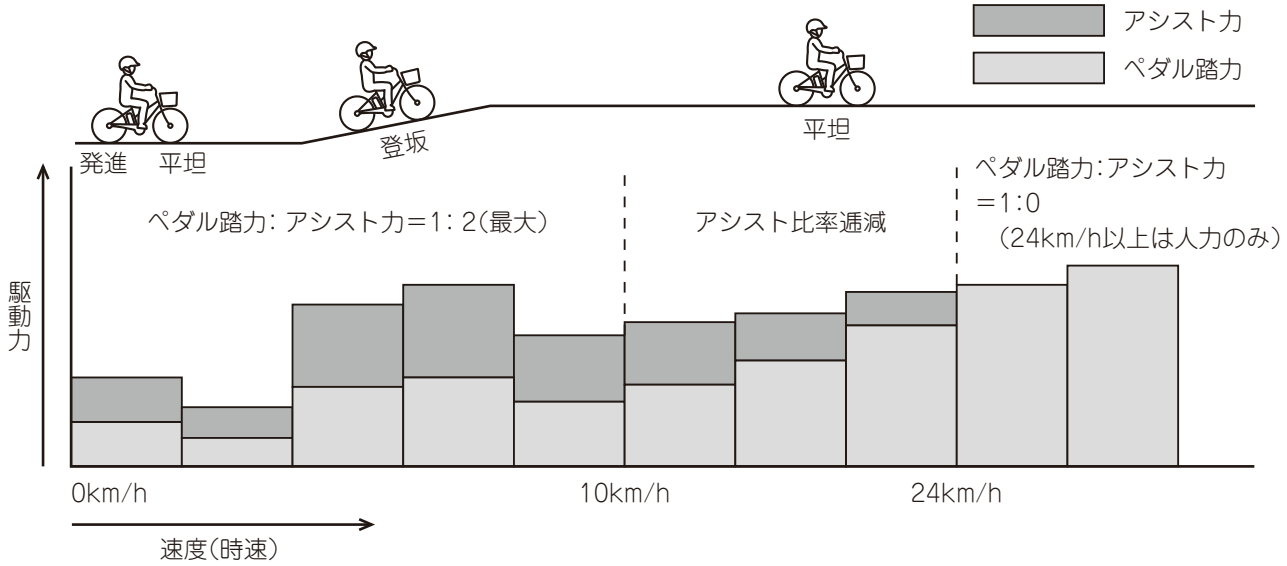
歩道の中央から車道よりを、または標識や表示に指定されているところを通行することができます。
ただし、歩行者の迷惑にならないようにつねに周囲の状況に気を配り、場合によっては一時停止をしましょう。

電動アシスト自転車のしくみ

● ペダル踏力とアシスト力の比率

要　点

ここでは、アシストの法令基準について説明しています。電動アシスト自転車はこの基準の範囲内で、ペダルを踏む力や走行速度、変速位置などに応じてアシストをします。

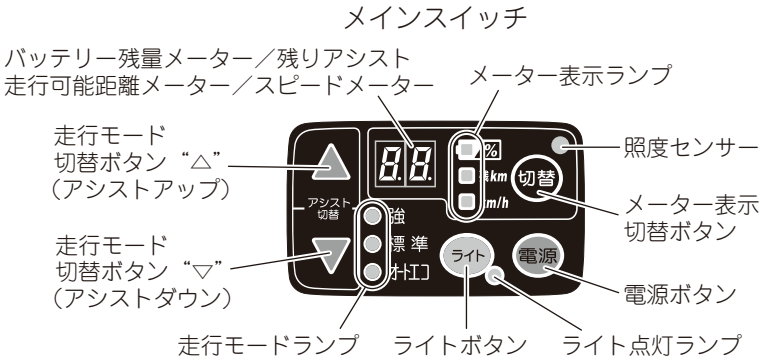


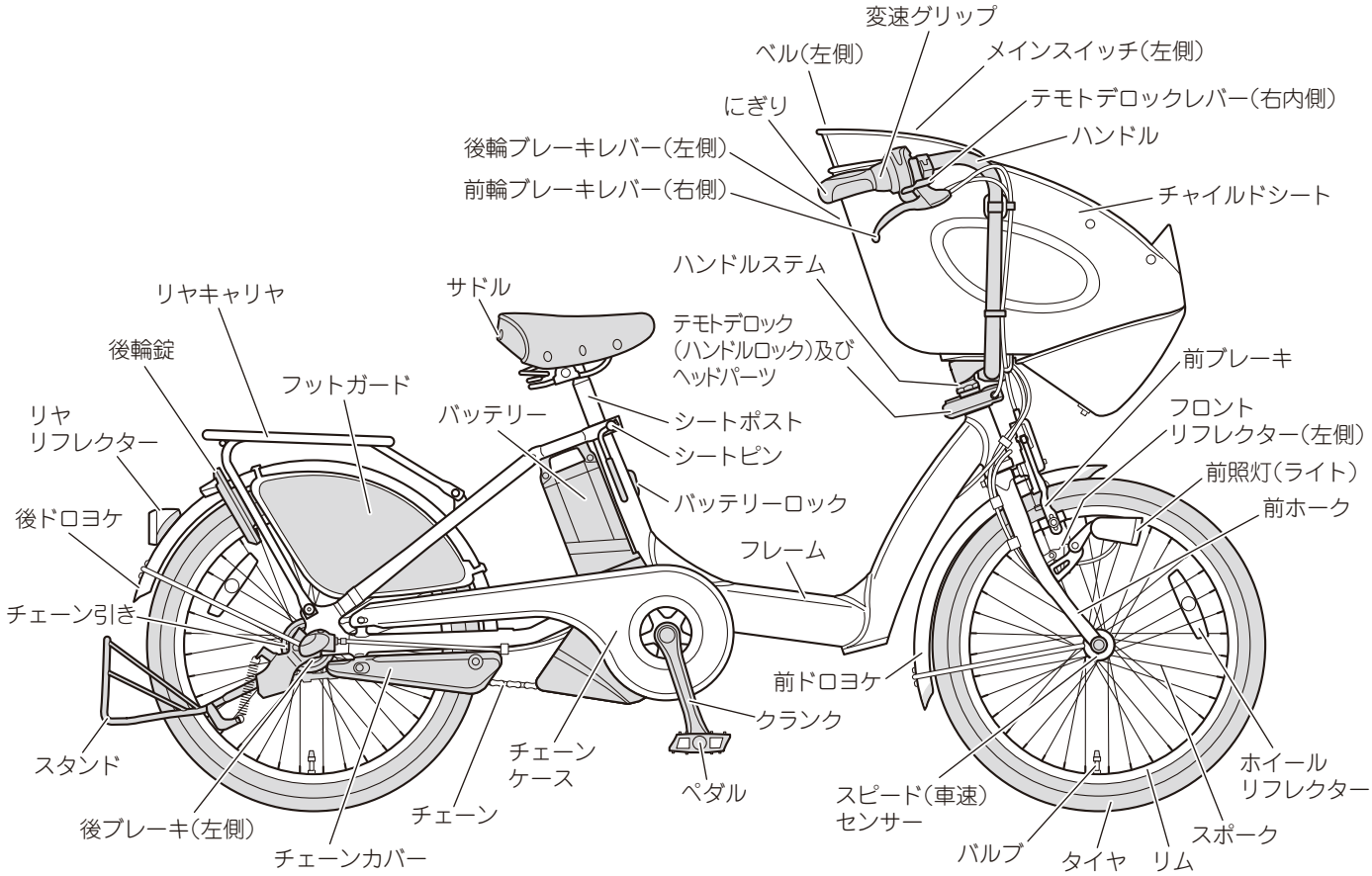
電動アシスト自転車のアシストシステムは、ペダルを踏む力に補助的な力を加えて走行を助けてくれるシステムです。
モーターのアシスト力には法令基準により制限がありますが、2008年12月より法令改正があり、それまでよりもペダルを踏む力の負担が軽減されるようになりました。
新しい法令基準では、
・スタート～走行速度 10km/h … ペダル踏力：アシスト力 ＝ 1：2（最大）
・走行速度 10km/h～24km/h … 走行が速くなるにつれてアシスト力は徐々に弱まります。
・走行速度 24km/h以上 … アシスト力はゼロになり通常の自転車走行になります。

● 電動アシスト自転車の健康増進効果

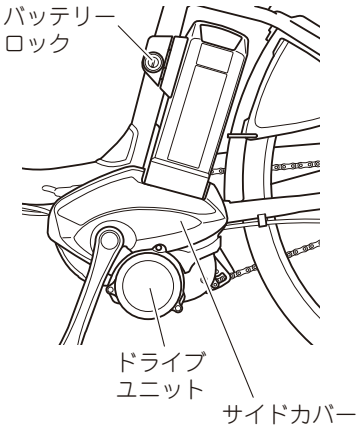
電動アシスト自転車は普通の自転車よりも坂道などの影響を受け難いため、負荷が軽い運動を長時間持続しやすいという特長があります。
つまり酸素を身体に取り入れながら運動をする、「有酸素運動」の格好な手段です。
有酸素運動はエネルギー源として、主に脂肪を燃焼・消費するため、ダイエット効果が見込まれます。
電動アシスト自転車は移動をしながら、気軽にかつ持続的に有酸素運動ができ、健康に良いということが言えます。

各部の名称

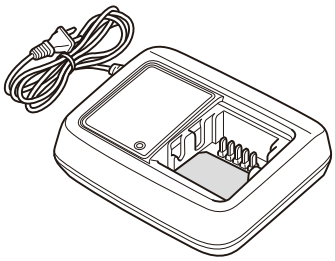




車体左側から見た図



専用充電器



キーを失くしたときは

裏表紙の［キー番号記入欄］にキー番号を控えておいてください。
万一、キーを紛失した場合、番号を控えておくことにより、キーの作製が可能です。
キーの作製については、ご購入店にご相談ください。（有料）

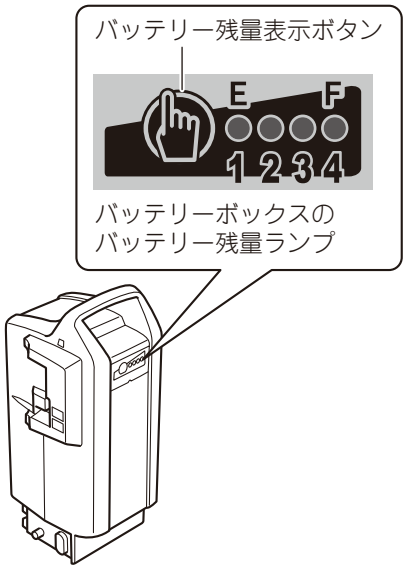
バッテリーの特徴

電動アシスト自転車のバッテリー

電動アシスト自転車はリチウムイオンバッテリーを装備しています。装備されるバッテリーの種類は、お買い求めいただいた電動アシスト自転車によって異なります。

リチウムイオンバッテリーは軽量で電池容量に優れたバッテリーですが、以下の特性があります。

- 過度に暑い環境／寒い環境で性能が低下する。
- 使用していなくてもわずかずつ放電する。
- 新品は性能が安定するまで数回使用する必要がある。



また、電動アシスト自転車のバッテリーは、コンピューターを内蔵しており、バッテリー残量の目安や異常の発生をバッテリー残量ランプでお知らせします。
バッテリー残量は、バッテリー残量表示ボタン“ ”を押すことで約5秒間点灯してお知らせします。
バッテリー残量の目安については「バッテリー残量の確認」をご参照ください。（P52）異常点滅については「もしもこんなときは」をご参照ください。（P101～P109）

要　点

駐輪時、バッテリーを取り外した状態で接続端子が雨水にぬれていてもご使用いただけます。

バッテリーの特性

- バッテリーの温度が上がると、アシスト力が低下することがありますが、システム保護制御が作動したためであり故障ではありません。バッテリーの温度が下がると回復します。また、シフト位置を通常使用しているシフト位置よりシフトダウンしてご利用いただくと、回避することができます。（たとえば<2>→<1>速にする、など）
- バッテリーの温度が下がると、一充電当たりの走行距離が短くなったりアシスト力が低下することがありますが、リチウムイオンバッテリーの特性であり故障ではありません。温度が上がると回復します。また、バッテリーを温度15～25℃の室内で保管してからご使用いただくと、症状を軽減することができます。
- 使用していなくても、わずかずつ放電します。ご使用いただく前に充電することで回復します。
- 新品時は走行距離が短いときがありますが、数回ご使用いただき充電すると、本来の性能になります。

バッテリーの交換について

バッテリーの寿命と交換

バッテリー容量は、充放電を繰り返し（700～900サイクル※1）行うと、新品のときの約半分にまで低下します。また、長期間保管しているときも、わずかずつですがバッテリー容量は低下します。バッテリー容量が低下すると一充電当たりの走行距離が短くなり、アシスト力が弱く感じることがあります。充電しても回復する兆しがなければバッテリーの交換時期です。できるだけ早めにバッテリーを交換してください。なお、この場合の交換は有料になります。

※1　充放電の「1サイクル」とは、満充電にしたバッテリーをバッテリー残量が0（ゼロ）になるまで使用し、再び満充電にする一連の工程をいいます。

長期使用お知らせ機能

長期間の使用によりバッテリー容量の低下が想定されるため、バッテリー交換時期の目安として長期使用をお知らせする機能を備えています。
お知らせ開始年数※2またはお知らせ開始総充電容量※3のいずれか一方に達すると、バッテリーを充電器に接続してから約2秒間、バッテリー残量ランプが4灯同時に速く点滅（約0.1秒間隔）してお知らせします。

長期使用をお知らせする条件は、バッテリーの種類（容量）によって異なります。
お買いあげいただきました電動アシスト自転車に標準装備されているバッテリーのお知らせ開始年数、およびお知らせ開始総充電容量については諸元表をご参照ください。

※2　お知らせ開始年数とは、新品時、最初に充電したときからバッテリー内コンピューターが積算を始めて現在までの累積期間です。

※3　お知らせ開始総充電容量とは、新品時、最初に充電したときから現在までの充放電を繰り返した結果、充電された容量の総和です。

要　点

- 長期使用のお知らせを約2秒間表示したのち、自動的に充電が始まります。
- 長期使用お知らせ機能が作動しても引き続きお使いいただけますが、一充電当たりの走行距離が短く、アシスト力が弱く感じる場合はバッテリーの交換時期です。バッテリーの交換については、販売店にご相談ください。

バッテリーの交換について

バッテリーの交換に関するお願い

● バッテリーの不調を感じたら、販売店にご相談ください
バッテリーに不調を感じたら、まず「もしもこんなときは」（P101～P109）をお読みください。
それでも回復、改善しない場合は、販売店にご相談ください。

● バッテリーの保証について
リチウムイオンバッテリーには、一定期間内における著しい劣化および故障に対して、保証が付帯しています。保証に関する詳細は、保証書をご覧ください。

使用済みバッテリー
（回収リサイクルへ）

リサイクルマーク

● バッテリーのリサイクルにご協力ください
リチウムイオンバッテリーは、「資源の有効な利用の促進に関する法律（資源有効利用促進法）」で、次の2つが義務付けられています。
- 使用後の回収
- 再資源化

使わなくなったバッテリーはご購入店にお持ち込みいただくか、JBRCに加盟するバッテリーリサイクル協力店へバッテリー回収のご相談をお願いいたします。

JBRCホームページ
（https://www.jbrc.com/general/recycle_kensaku/）では、お客様のお近くのJBRCに加盟するバッテリーリサイクル協力店を検索することができます。

バッテリーはリサイクル可能な材料を多く含んでいます。環境保護のため、バッテリーの回収およびリサイクルにご協力お願いいたします。

バッテリーや充電器を使うとき

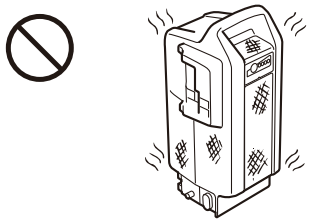
バッテリーの取り扱い中　感電や火災を防ぐために

⚠警　告

バッテリーケースに破損や傷つきがあるとき、または異臭がするときは使用しない

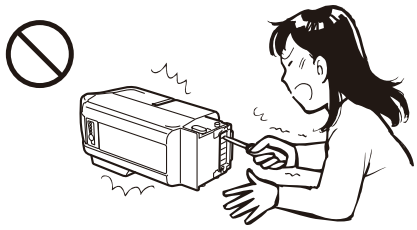
液漏れなどにより、やけどやけがなどのおそれがあります。

- 異常を感じたときは、すぐに販売店にご相談ください。



バッテリー底部の接点を短絡（ショート）させない

発熱、発火、感電の原因となります。



バッテリーを落としたり、衝撃を与えない

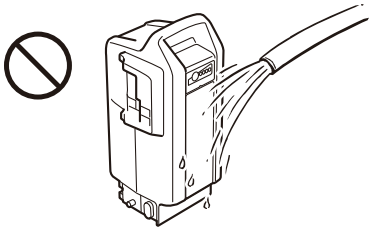
発熱、発火、破損、故障の原因となります。

バッテリーの分解や改造をしない

発熱、発火、破損、故障の原因となります。

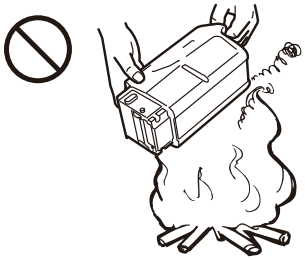
バッテリーに水をかけたり、水の中に入れない

発熱、発火、破損、故障の原因となります。



バッテリーを火中に投入したり、過熱しない

発熱、発火、破損、故障の原因となります。



専用充電器を使用する

発熱、発火、破損、故障の原因となります。

改造・加工などをしたバッテリーパックは使用しない

発熱、発火、破損、故障の原因となります。

⚠注　意

バッテリーを他の電気機器に使用しない

他の電気機器に使用すると故障の原因となります。

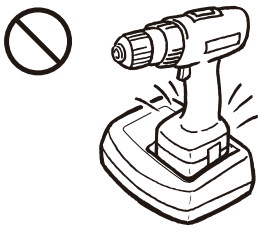
バッテリーや充電器を使うとき

充電器の取り扱い中　感電や火災を防ぐために

⚠警　告

専用充電器は他の電気機器に使用しない

他の電気機器などに使用すると、火災や破裂の原因になります。

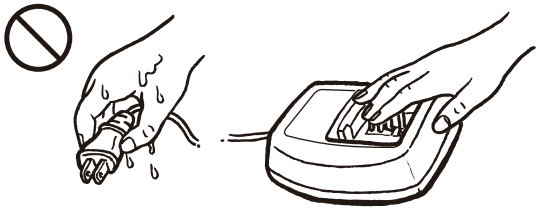


充電端子を金属などで短絡（ショート）させない

発熱、発火、感電の原因となります。

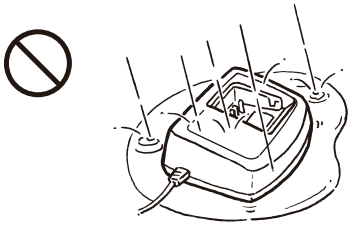
ぬれた手で電源プラグを取り扱ったり、充電端子に触れたりしない

感電するおそれがあります。



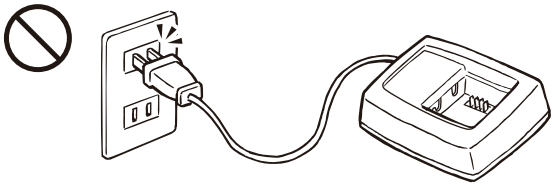
充電器を水でぬらしたり、屋外で使用しない

感電や火災、故障の原因になります。



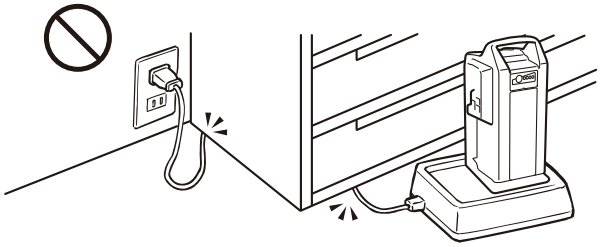
電源プラグは根元まで確実に差し込む

差し込みが不完全ですと、感電や発熱による火災の原因になります。



コードの上に物を乗せたり、はさんで固定しない

感電や火災の原因になります。

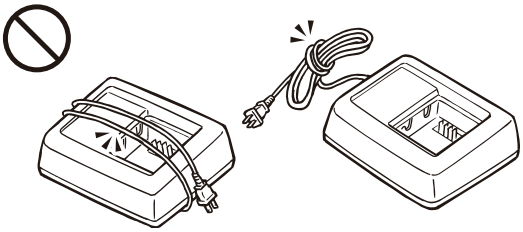


バッテリーや充電器を使うとき

充電器の取り扱い中　感電や火災を防ぐために

⚠警　告

コードを束ねた状態で使用したり、充電器本体に巻きつけて保管しない
コードの損傷により、感電や火災などの原因となるおそれがあります。



充電器を分解したり、改造しない
感電や火災の原因になります。

充電端子にボタン電池や乾電池を接触させない
破裂・発火のおそれがあります。

充電器を踏んだり、落としたり、衝撃を与えない
発熱、発火、破損、故障の原因となります。

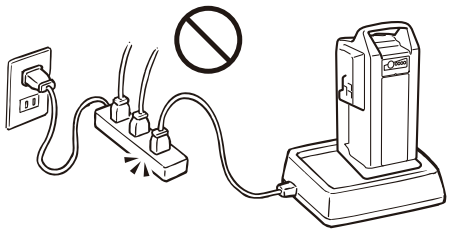
バッテリーや充電器を使うとき

充電中　感電や火災を防ぐために

⚠警　告

コンセントや配線器具の定格を超える使いかたや、家庭用コンセント（AC100V）以外で使用しない

たこ足配線などで定格を超えると、発熱による火災の原因になります。



幼児やペットが触れるところに放置しない

感電や火災、故障の原因になります。

ガソリンなどの引火物や引火性ガスの近くでは充電しない

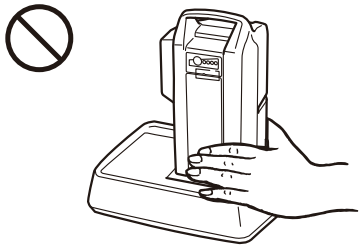
火災や爆発などの原因となることがあります。

電源プラグのほこりなどは定期的に取る

湿気などで絶縁不良となり、火災の原因になります。

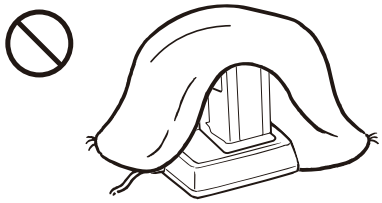
充電中は長時間、皮膚を充電器の同じ場所に触れさせない

充電中は40℃～60℃になる場合があり、低温やけどのおそれがあります。



充電中に周囲にカバーをしたり、燃えやすい物を置かない

内部が発熱し、火災のおそれがあります。



コードが損傷しているときは使用しない

感電や火災のおそれがあります。

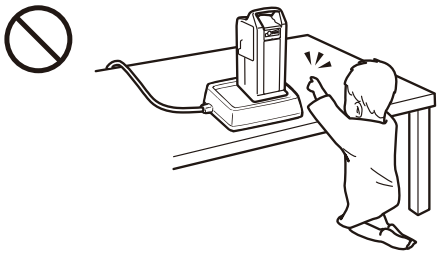
バッテリーや充電器を使うとき

バッテリー・充電器の保管中　事故を防ぐために

⚠警　告

バッテリーや充電器を幼児やお子様の手の届くところに置かない

落下してけがをするおそれがあります。



充電する際は、平坦な場所に置き使用すること

不安定な場所で使用した場合、落下や転倒による破損、故障の原因となります。

⚠注　意

専用充電器を家庭用コンセント（AC 100V）につないだままにしない

落雷などによる故障のおそれがあります。 専用充電器をご使用にならないときは、コンセントからプラグを抜いておいてください。

充電に適した環境

過度に暑い場所や寒い場所では正しく充電できないことがあります。以下の充電に適した環境で行ってください。

- 温度が15～25℃の室内
- 雨や水にぬれないところ
- 直射日光が当たらないところ
- 風通しがよく湿気がないところ
- 平坦で安定するところ
- 幼児やペットが触れられないところ

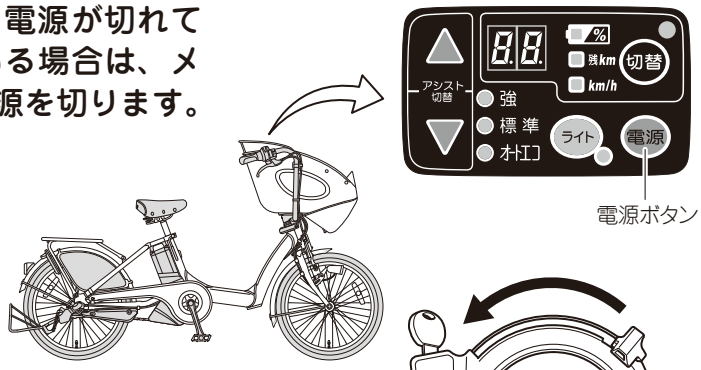
要　点

- テレビやラジオにノイズが発生する場合は、場所を移動して充電を行ってください。
- 充電待ちになったバッテリーが充電できる温度に下がるまで、室内の温度が高いほど時間を要します。室内の温度が30℃の場合、約5時間必要になる場合があります。
- 正常に充電を開始しても、充電途中でバッテリー内部が規定の温度を超えたとき、バッテリー保護のために自動的に充電を中断します。この場合、充分に充電されないことがありますので、しばらくバッテリーを冷ました後、充電に適した環境で再度充電してください。

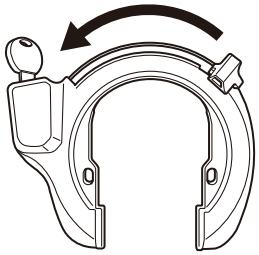
バッテリーの脱着

バッテリーの取り外しかた

1 メインスイッチのランプ類が消灯して、電源が切れていることを確認します。電源が入っている場合は、メインスイッチの「電源」ボタンを押して電源を切ります。

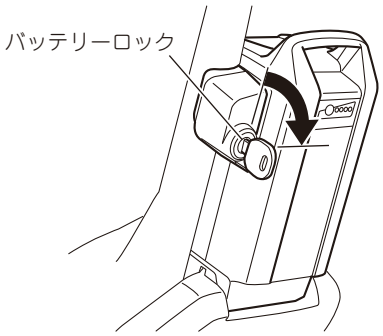


2 後輪錠を施錠して、キーを取り外します。



3 バッテリーロックにキーを差して、時計方向に回します。

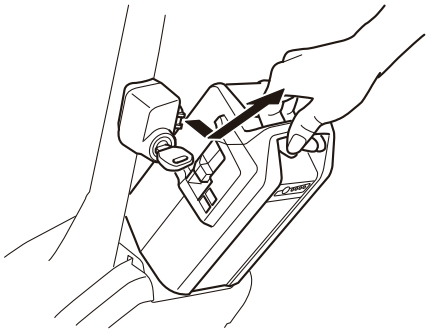
> **⚠注 意**
> バッテリーに手を添えてください。開錠時、バッテリーが手前に倒れ、怪我をするおそれがあります。



4 バッテリーロックが解除されます。

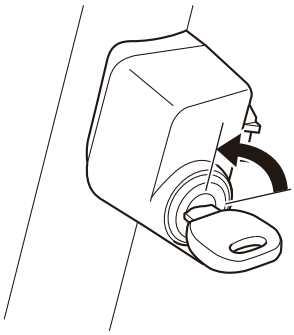
5 バッテリーのグリップを持ち、斜めに倒しながら上へ引き出してバッテリーを取り出します。

> **要 点**
> 駐輪時、バッテリーを取り外した状態で接続端子が雨水にぬれていてもご使用いただけます。



6 バッテリーを取り外した後、反時計方向へ回してロックします。

> **⚠注 意**
> ロックした後、キーを忘れずに抜き取ってください。

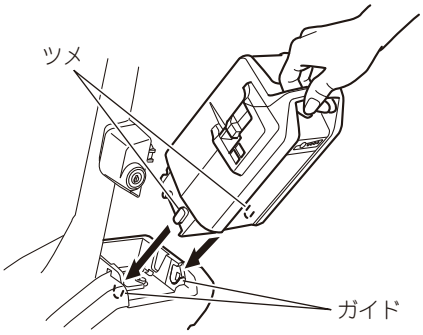


7 充電をします。（P34～P36）

バッテリーの脱着

バッテリーの取り付けかた

1 車両側のガイドにバッテリーのツメを合わせながら、ゆっくりとバッテリーを差し込みます。



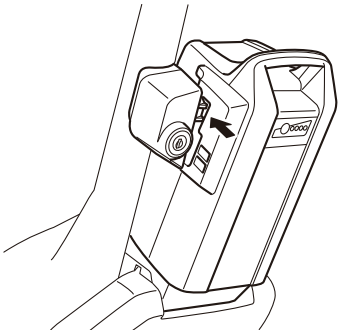
⚠警 告

バッテリー挿入時、指などをはさまないようにしてください。

⚠注 意

車両側のバッテリー装着部にゴミなどが付着していないことを確認してください。

2 バッテリーのグリップ側(上部)をカチッと音がしてロックするまで押し込みます。



要 点

キーをロックに差し込んだ状態でバッテリーを取り付けられますが、バッテリーのグリップ側(上部)を中央まで入れた後、手でバッテリーを軽く押しつけながらキーを反時計方向に回してロックした後に、キーを抜いてください。

⚠警 告

バッテリーが確実に装着されていないと、バッテリーが足の上に落下したり、走行中に脱落し転倒するなど、けがのおそれがあります。

⚠注 意

- バッテリーを取り付けた後は、バッテリーを手前に引いて確実にロックされていることを確認してください。
- 走行前にキーを忘れずに抜き取り、バッテリーロックに差し込んだまま走行しないでください。

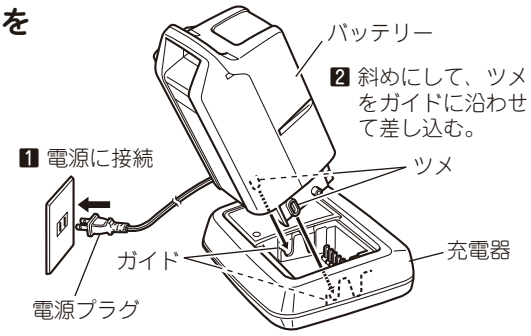
充電のしかた

電動アシスト自転車のバッテリーは車両から取り外し、専用充電器を使用して充電してください。

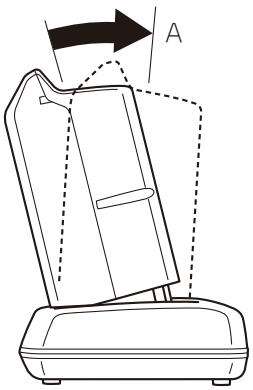
充電器のつなぎかた

1 充電器の電源プラグを家庭用のコンセント（100V）に接続します。

2 バッテリーを斜めにして、バッテリーの2か所のツメを充電器のガイドに沿わせ、充電器に差し込みます。



3 バッテリーの上部をAの方向へ押すようにして、確実に接続します。



要　点

バッテリーにガタがないことを確認してください。

<u>充電器を電源に接続し、バッテリーを充電器に差し込むだけで、自動的に充電できます。</u>

4 充電状態を充電器の充電ランプとバッテリーのバッテリー残量ランプで確認します。
充電状態は「充電状態の見かた」をご参照ください。（P35）

⚠警　告

充電中に異音や異臭がしたり煙がでるなど異常に気がついたら、ただちに充電器の電源プラグを抜き、バッテリーを取り外してください。

5 充電の完了を確かめ、バッテリーを充電器から取り外します。
充電が完了すると、充電器の充電ランプとバッテリーのバッテリー残量ランプが消灯します。
充電器を押さえながらバッテリーのグリップをもって手前に倒し、上側に引き出します。

充電状態の見かた

充電の確認

充電の状態は、充電器の充電ランプとバッテリーのバッテリー残量ランプに表示されます。

充電ランプの表示	バッテリー残量ランプの表示	状態
● 緑ランプ点灯・・・・・充電中 充電完了後に自動消灯 ● 緑ランプ点滅・・・充電待機 ● 赤ランプ点滅・・・・・・異常 **緑色に点滅**	**4 灯同時点滅**	バッテリーの内部が高温のとき、またはバッテリーが過度に冷えているときは、充電器の充電ランプが緑色に点滅し、またバッテリーのバッテリー残量ランプ全てが点滅して、充電待ちの状態をお知らせします。このような場合は、一旦充電を中止し、バッテリーの充電に適した環境で再度行ってください。
● 緑ランプ点灯・・・・・充電中 充電完了後に自動消灯 ● 緑ランプ点滅・・・充電待機 ● 赤ランプ点滅・・・・・・異常 **緑色に点滅**	**充電器接続時 1 灯点滅**	充電開始前の準備状態です。しばらくすると充電が開始されます。
● 緑ランプ点灯・・・・・充電中 充電完了後に自動消灯 ● 緑ランプ点滅・・・充電待機 ● 赤ランプ点滅・・・・・・異常 **緑色に点灯**		正常に充電しているときは、充電器の充電ランプは緑色に点灯します。バッテリーのバッテリー残量ランプは現在の残量分の一番右側のランプが点滅します。 充電が進むと、バッテリーのバッテリー残量ランプが 1 灯ずつ増えていきます。それに伴い点滅するランプも右側に移動します。
● 緑ランプ点灯・・・・・充電中 充電完了後に自動消灯 ● 緑ランプ点滅・・・充電待機 ● 赤ランプ点滅・・・・・・異常 **消灯**	**消灯**	充電が完了すると、充電器の充電ランプとバッテリーのバッテリー残量ランプは消灯します。

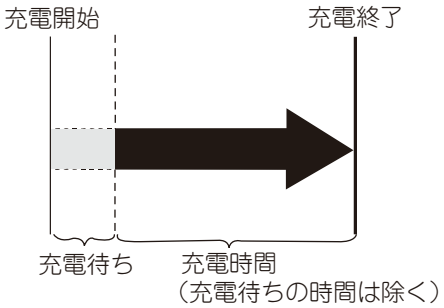
要　点

- 充電待ちになったバッテリーが充電できる温度に下がるまで、室内の温度が高いほど時間を要します。室内の温度が30℃の場合、約5時間必要になる場合があります。
- 正常に充電を開始しても、充電途中でバッテリー内部が規定の温度を超えたとき、バッテリー保護のために自動的に充電を中断します。この場合、充分に充電されないことがありますので、しばらくバッテリーを冷ました後、充電に適した環境で再度充電してください。

充電時間の目安

充電時間は、バッテリー内部の温度により異なります。
また、充電器の種類によっても異なります。

お買いあげいただきました電動アシスト自転車に装備されているバッテリーの種類、およびバッテリーを残量ランプの1灯点滅まで使用したときの満充電までの充電時間は諸元表をご参照ください。



⚠警　告

充電中異常に気づいたら、ただちに充電器の電源プラグをコンセントから抜いて、バッテリーを充電器から取り外してください。

要　点

充電時間の目安は、充電待ち時間（バッテリー内部温度が充電できる温度に下がるまでの時間）は含まれていません。

サイクルショップ
どこ
P
日の丸デパート
コーヒー

乗車前点検

⚠警 告

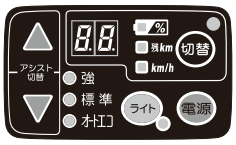
- 乗車前点検を必ず実施してください。
- 点検で異常が認められた場合は、すみやかに販売店で点検してください。
- わからないことや難しいと感じた時は、販売店にご相談ください。

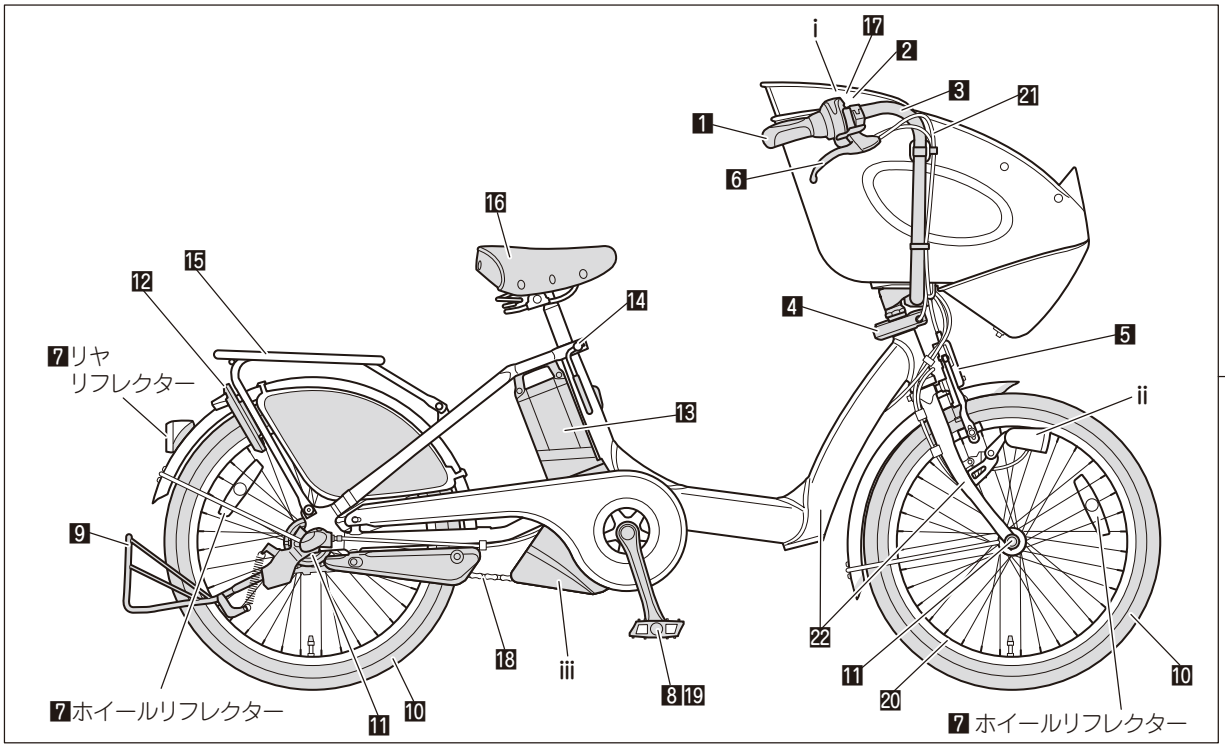
●走行前に確認を行う項目　1～23

●走行開始してすぐに確認する項目　i～iii

要 点

メインスイッチの電源を切った状態で点検してください。

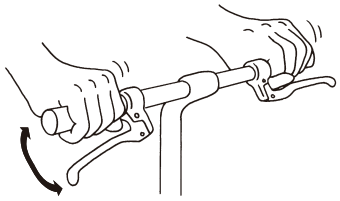




自転車のイラストは代表例です

1 にぎり（グリップ）の固定状態

にぎり（グリップ）に力を入れてもハンドルに対しても回ったり、抜けないことを確認します。



⚠警 告

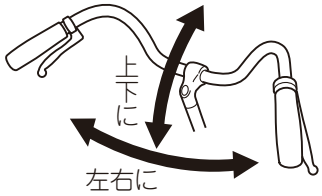
走行中にハンドルがゆるんだり、グリップが外れると、ハンドル操作ができなくなったり、またハンドルを維持できなくなったりして、転倒の恐れがあり危険です。
特にフロントの重い子乗せ車両で発生するケースが多くなっております。

2 ベル（報知器）の作動具合

ベル（報知器）が正常に鳴るか、動きが悪くないかを確認します。

3 ハンドルの状態

前輪を足で固定した状態で、ハンドルを上下・左右・前後方向に力を加えても、がたつかないか確認します。また、ハンドルが前輪に対してほぼ直角に取り付けられているか確認します。
ハンドルの高さは、サドルにまたがった状態でハンドルバーを握ったとき、軽くひじが曲がるくらいが適正な位置です。



4 ヘッドパーツ、ハンドルロック

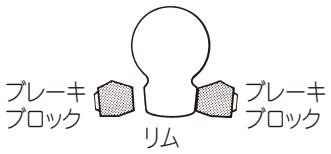
左右のブレーキレバーをにぎり、自転車を前後にゆすり、ヘッド部のゆるみ、ガタがないか確認します。あわせて、施錠、解錠が確実に作動するか確認します。また、ハンドルの動きにひっかかりがないか、確認してください。ハンドルロックの本体が破損していたり、ハンドルの操作にひっかかりがある場合は、自転車には乗らずにお店にご相談ください。

5 前ブレーキ

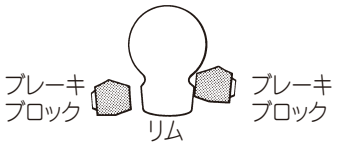
前ブレーキの取り付け部のネジがゆるんで、前ブレーキがガタガタしていないか確認します。また、ブレーキをかけたとき、ブレーキシューが正しくリムに当たることを確認します。

強制 つぎの場合にはお店にご相談ください

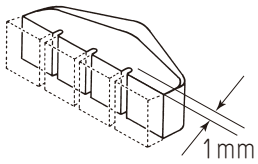
◆ブレーキシューがリムに当たったままになっているとき



◆ブレーキをかけた状態でブレーキシューがリムからズレているとき



◆ブレーキシューが摩耗して、溝の残りが1mmになったとき



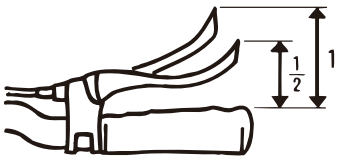
◆アジャストボルトで調整しきれないとき

◆ブレーキの効きが悪くなったとき

6 ブレーキレバーの状態

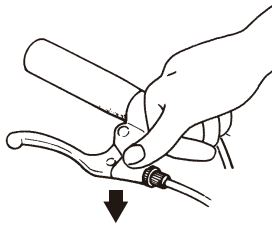
●握りしろ

前後のブレーキレバーを握って、レバーとハンドルグリップとの間が約1/2でブレーキがきくかを確認します。ブレーキレバーの握りしろが大きすぎるときも小さすぎるときも、販売店で点検・調整を受けてください。



●レバーの固定

レバーを指で押して、ズレ動かないことを確認します。



7 フロントリフレクター、リヤリフレクター、ホイールリフレクターのよごれ・破損

リフレクターに汚れや破損がないか点検します。よごれている場合は拭き取ってください。また、破損している場合は交換します。

乗車前点検

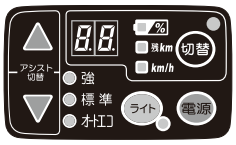
⚠警 告

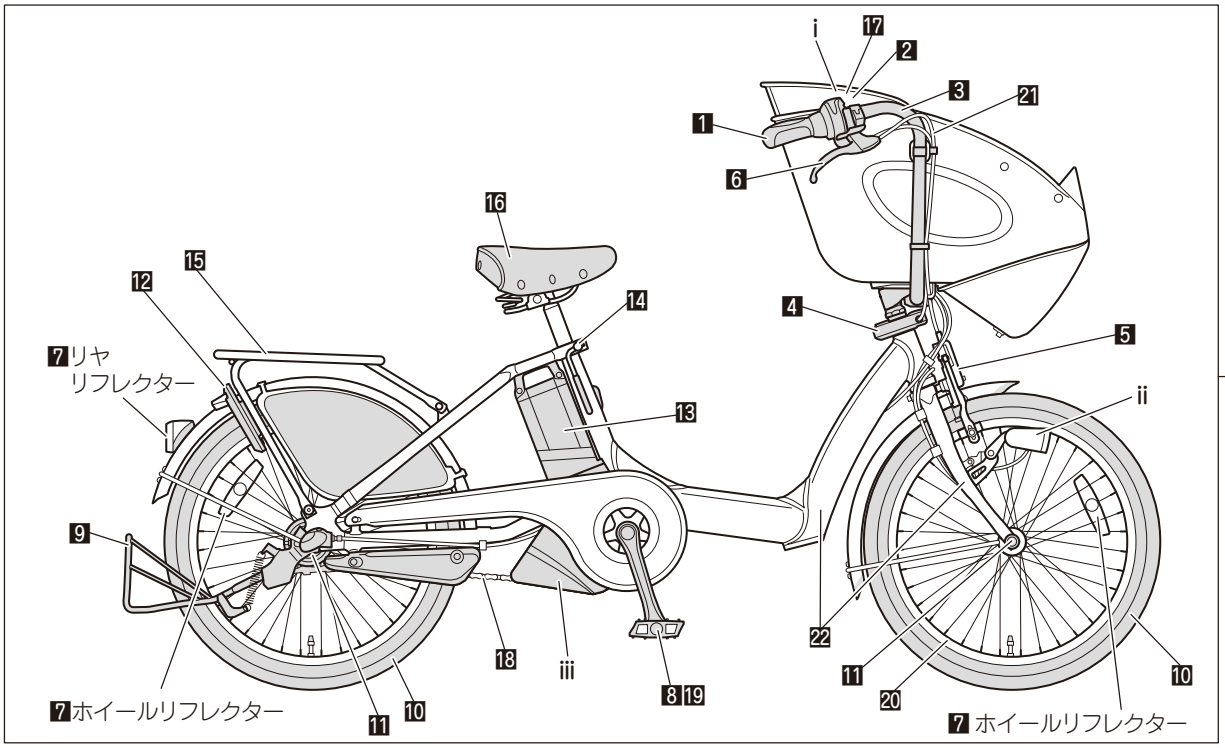
- **乗車前点検を必ず実施してください。**
- **点検で異常が認められた場合は、すみやかに販売店で点検してください。**
- **わからないことや難しいと感じた時は、販売店にご相談ください。**

- **走行前に確認を行う項目　1～23**
- **走行開始してすぐに確認する項目　i～iii**

要 点

メインスイッチの電源を切った状態で点検してください。





自転車のイラストは代表例です

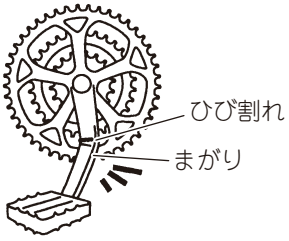
8 ペダル、クランク他、可動部の状態

●ガタつき

ペダルなど可動部に、異常ながたつきがないか、滑らかに回転するか確認します。がたついている場合はボルトなどの増し締めをします。

●ひび、割れ、曲がり

クランクにひび、割れ、曲がりがないことを確認します。



9 スタンドの作動

スタンドが滑らかに作動し、がたつき等がないか確認します。

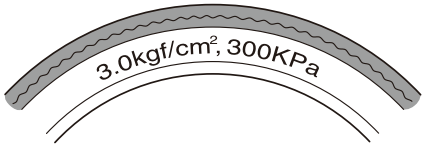
⚠警 告

チャイルドシートを取り付けている場合は、スタンドの組み付けにガタつきがあると、お子様の乗せ降ろしの時に、自転車が転倒することがあります。スタンドの組み付けにガタつきがある場合は、すぐに購入したお店に相談し、点検、調整を受けてください。

10 タイヤの空気圧、摩耗、損傷

①タイヤの空気圧

十分空気が入っていて、タイヤ側面に表示されている推奨空気圧になっているか確認します（図の数値は表示の例です）。空気ミハル君が装備されている場合は、空気ミハル君の赤色サインでも確認が可能です。空気圧が適正値でないと、パンクや車体各部のがたつきの原因になります。



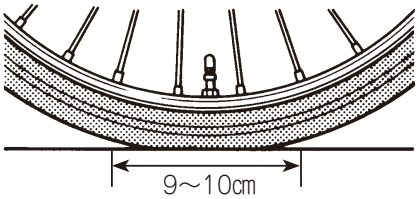
《タイヤ空気圧表示例と換算値》

タイヤサイズ	接地面長さL（cn）
HE 18×2.125 HE 20×1.75 HE 20×1.95	9～12
WO 20×1-3/8	5～8
WO 24×1-3/8 WO 26×1-3/8	9～10
WO 24×1-1/2 WO 26×1-1/2	

一般のシティ車は3kgf/cm²（3気圧）が適正空気圧です

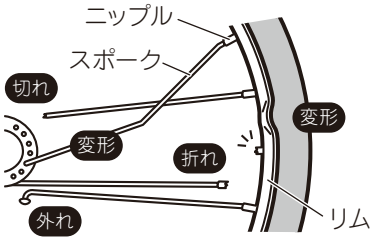
《空気圧の簡易判定のしかた》

自転車に乗車した状態での接地面の長さで空気圧を判定してください。



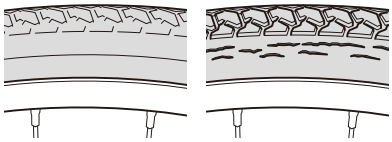
⚠警 告

空気圧が低い状態で走行すると、タイヤ内の空気で路面からの衝撃を吸収出来ず、車体や車輪、部品へ過度な衝撃が加わり、リム、スポーク、ニップルなどが破損し、事故・けがのおそれがあります。
これらの異常を感じたら、自転車には乗らず、販売店に相談してください。



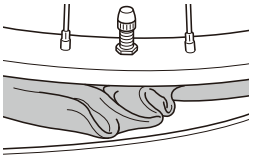
⚠注 意

空気圧が低い状態で自転車を使い続けると、タイヤと道路の接地面が大きくなり、タイヤが摩耗しやすくなります。またタイヤのひび割れの原因にもなってしまいます。



⚠注 意

空気圧が低い状態で走行し続けると、リムとタイヤ間のすべりが生じ、バルブ口付近にチューブが折り重なる場合があり、パンクする原因になります。



⚠注 意

空気圧が低い状態で走行すると、ハンドルを旋回させる際にハンドルを重く感じたり、ペダルを漕ぐ際にペダルが重く感じ、走行が不安定になったり、転倒したりしてケガ・事故の原因になります。

乗車前点検

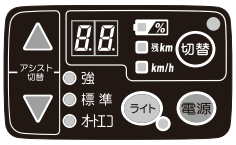
⚠警 告

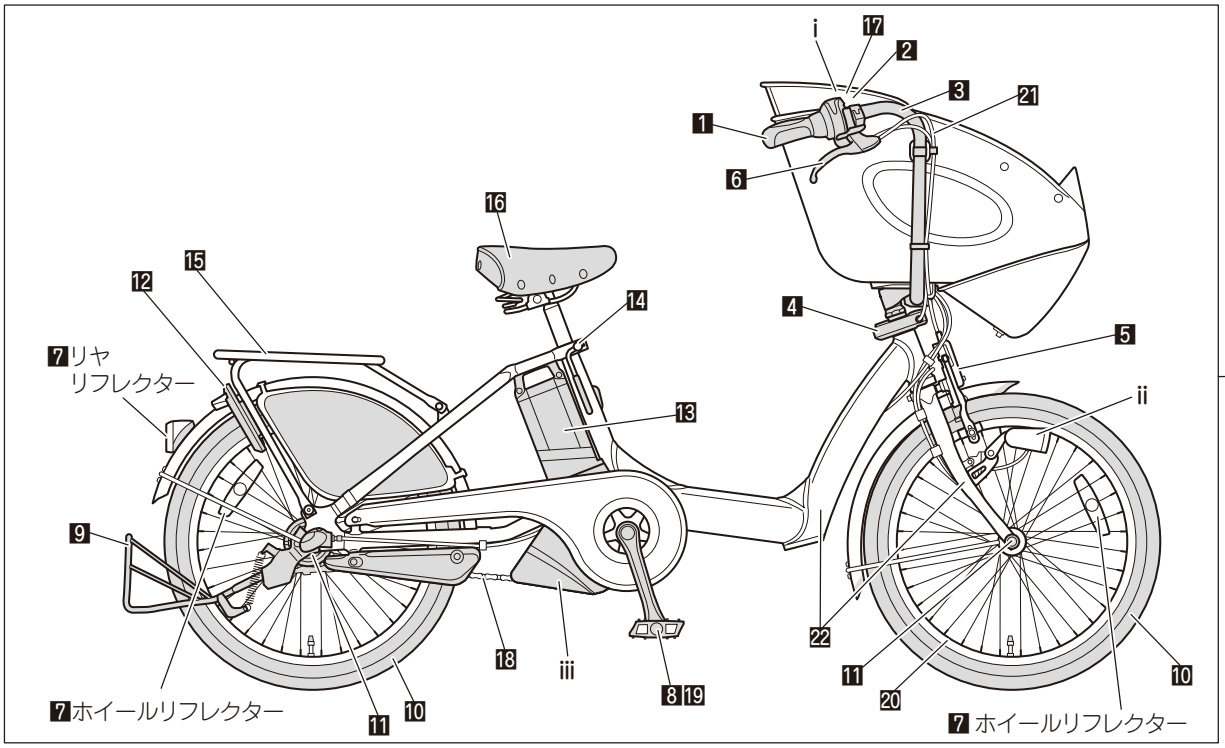
- 乗車前点検を必ず実施してください。
- 点検で異常が認められた場合は、すみやかに販売店で点検してください。
- わからないことや難しいと感じた時は、販売店にご相談ください。

- 走行前に確認を行う項目　1～23
- 走行開始してすぐに確認する項目　i～iii

要 点

メインスイッチの電源を切った状態で点検してください。



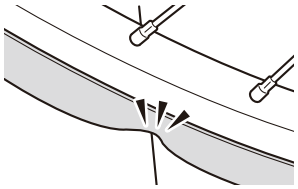


自転車のイラストは代表例です

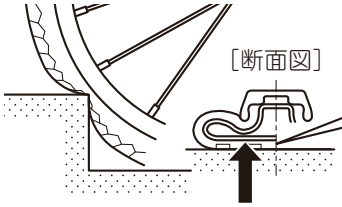
10 タイヤの空気圧、摩耗、損傷（P41からの続き）

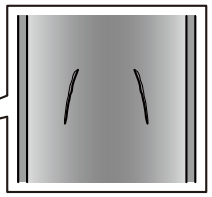
⚠注 意

空気圧が低い状態で段差など障害物を乗り越えると、リムと障害物の間でチューブを挟み、チューブが切れてしまう原因になります。



低内圧で乗り越えた場合





八の字に切れます

⚠注 意

空気圧が低い状態で走行すると、タイヤの転がり抵抗が増加し、アシスト走行可能距離が短くなる場合があります。

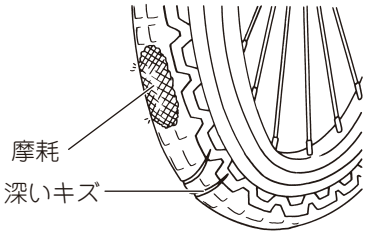
タイヤの空気圧が低い

②タイヤの摩耗、損傷

タイヤが摩耗していないか、深い傷や、釘などの異物がささっていないかを確認します。

⚠警 告

タイヤに深いキズ（コードが見えるような傷）がある状態や、摩耗した状態（模様があるタイヤの場合、模様がない状態）で走行すると、走行中にパンクしたり、タイヤがスリップしたりして事故・ケガのおそれがあり危険です。これらの異常を感じたら、自転車には乗らず、販売店に相談してください。



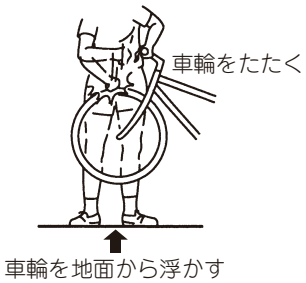
※ コードが見える深いキズがないこと。
※ 接地面の模様が十分残っていること。
（模様があるタイヤの場合）

11 前後車軸とスポークの状態

前後車輪の、固定、振れ、ガタ、回転性と、スポークやニップルの切れ、外れ、変形がないことを確認します。

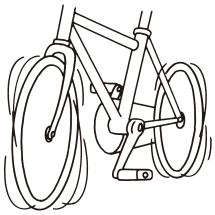
①前後車輪の固定

自転車を持ち上げて車輪を上から強くたたいて、車輪がズレたりガタついたりしないか確認します。



⚠警 告

ズレやガタがあると、走行中に外れて、事故・けがを起こすおそれがあります。

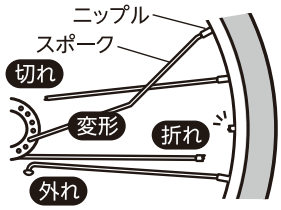


②前後車輪の振れ、ガタ、回転性

自転車を持ち上げて車輪を回してみて、スムーズに回転し大きな振れやガタがないか確認します。

③スポークやニップルの切れ、外れ、変形

スポークやニップルの切れ、外れ、変形を確認し、みつかった場合は早急に交換してください。



⚠警 告

ホイールが変形し、ブレーキと接触して走行性が損なわれ、転倒するおそれがあります。スポークが一本でも外れたまま走行を続けると、他のスポークに大きな負担が繰り返し加わり、スポーク寿命が低下し、スポーク切れが継続して発生する場合があります。スポークは全て交換することをお勧めします。

乗車前点検

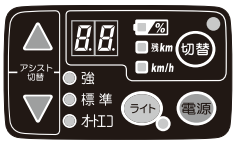
⚠警 告

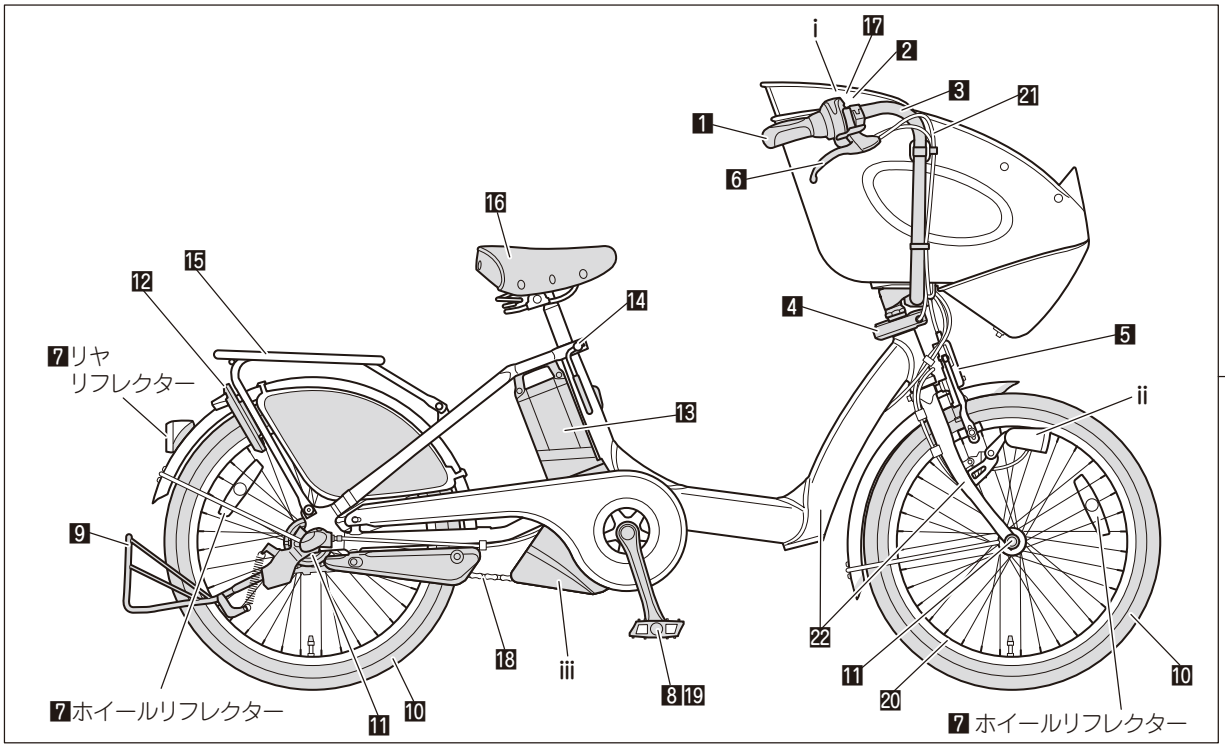
- 乗車前点検を必ず実施してください。
- 点検で異常が認められた場合は、すみやかに販売店で点検してください。
- わからないことや難しいと感じた時は、販売店にご相談ください。

- 走行前に確認を行う項目　1～23
- 走行開始してすぐに確認する項目　i～iii

要 点

メインスイッチの電源を切った状態で点検してください。





自転車のイラストは代表例です

12 後輪錠の作動

後輪錠の施錠、セーフティボタンの作動、解錠を確認します。

13 バッテリーの取り付け

バッテリーが自転車にしっかりと固定されているか確認します。また、バッテリーロックからキーを抜き取っていることを確認してください。

14 サドルの高さを調整するシートピン

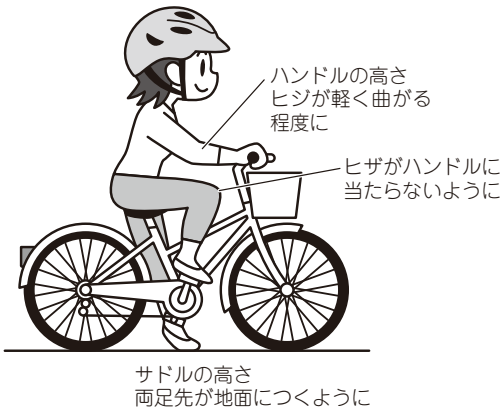
シートピンがゆるんでいないか確認します。

15 リヤキャリヤの状態

リヤキャリヤにゆるみやがたつきがないことを確認します。

16 サドルの状態

適切なサドル高さは、サドルにまたがった状態で両足のつま先がともに地面につくくらいの状態です。また、サドルの固定に異常（ゆるみやがたつき）がないかを確認します。



正しい乗車姿勢

サドルに腰をおろし両手をにぎりにおいた状態で、

①両足先が確実に地面につくこと。

②上半身が少し前に傾き、ヒジが軽く曲がること。

③ペダルをこいだときヒザがハンドルに当たらず、安全にハンドルの操縦操作ができること。

④円滑にペダルをこぐことができ、ブレーキ、シフトレバー、ベルなどが安全に操作できること。

サドルの調整のしかた

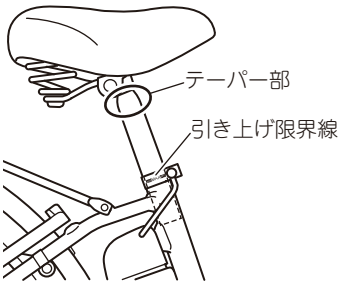
⚠警 告

調整後は、確実に固定されているか確認してください。固定が不十分であると、運転できなくなり、事故・けがのおそれがあります。

サドルの高さ調整

⚠警 告

- **サドルの高さ調整は運転中に行わないでください。**
- **サドルを高くする場合は、引き上げ限界線がフレームからはみださないようにしてください。シートポストが破損したり、脱落するおそれがあります。**
- **サドルを低くする場合は、シートポストのテーパー部（細くなっている部分）をフレームの中に入れないでください。サドルが確実に固定されず、けがをするおそれがあります。**



乗車前点検

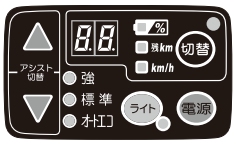
⚠警 告

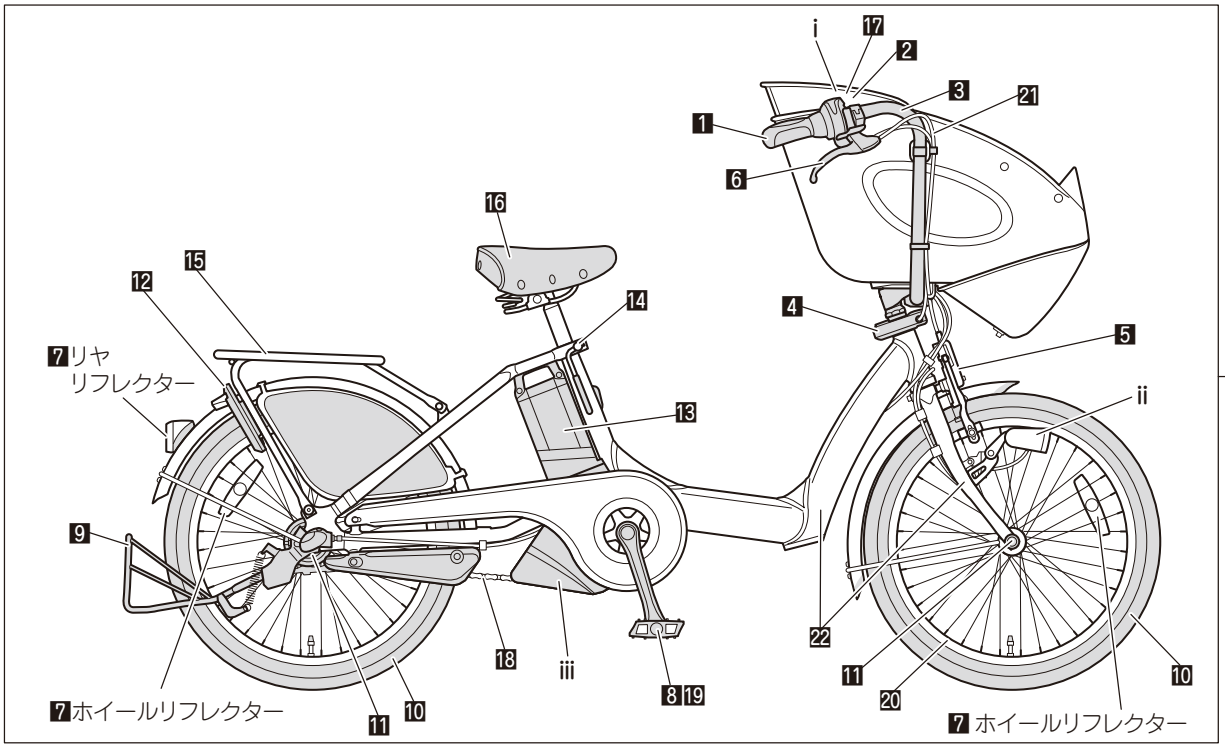
- 乗車前点検を必ず実施してください。
- 点検で異常が認められた場合は、すみやかに販売店で点検してください。
- わからないことや難しいと感じた時は、販売店にご相談ください。

- 走行前に確認を行う項目　1～23
- 走行開始してすぐに確認する項目　i～iii

要 点

メインスイッチの電源を切った状態で点検してください。





自転車のイラストは代表例です

16 サドルの状態（P45からの続き）

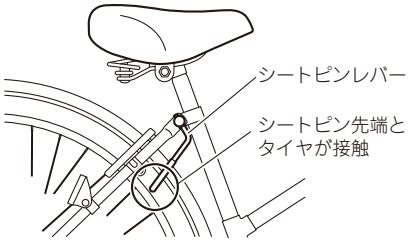
《回転式シートピンの場合》

⚠警 告

シートピンのレバーは、先端がタイヤに干渉する、または足に当たる位置に調整しないでください。事故・けがのおそれがあります。

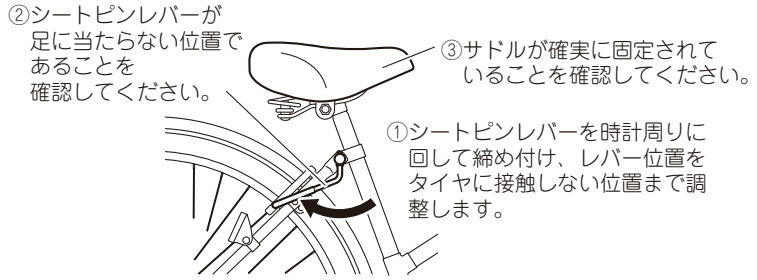
NG

シートピンレバー先端がタイヤと干渉する位置



OK

シートピンレバー先端がタイヤと干渉しないような位置（例）



16 サドルの状態（P45・46からの続き）

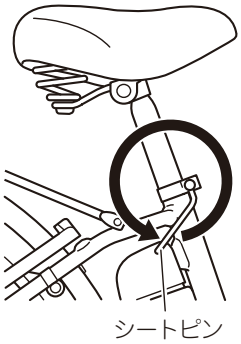
⚠注 意

サドル高さ調整後に、シートピンレバー位置が悪い（タイヤに当たる）場合は、時計回り（締付方向）でレバー位置の微調整をお願いします。逆回転で微調整した場合、サドルが確実に固定されない場合があります。

①シートピンのレバーを矢印の方向に回し、サドルの高さを調節します。

②調整後はシートピンのレバーを確実に締めつけてください。
（締付トルク：10〜12N・m）

③シートピン締め付け後、サドルが確実に固定されていることを確認してください。



《クイックレバー式シートピンの場合》

⚠注 意

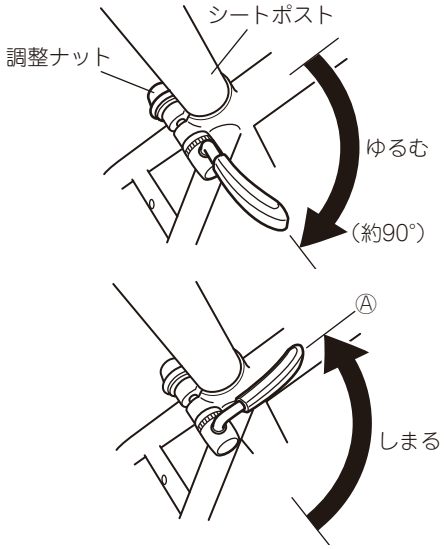
クイックレバー式シートピンは、カムレバーを開閉して「しまる」「ゆるむ」を行います。カムレバーを回して締め付けるものではありません。

①カムレバーを「ゆるむ」の方向に開いて固定をゆるめ、サドルを上下に調整してください。

②固定するときは「しまる」の方向のⒶの位置までカムレバーを閉じて固定します。

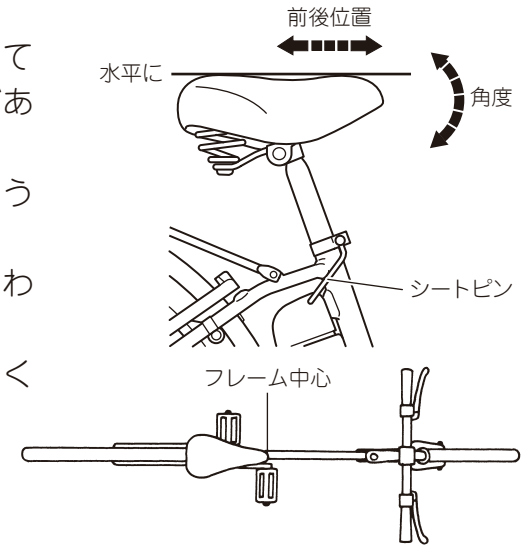
③カムレバーを閉じるときの力は、レバー先端に100N（10kgf）〜160N（16kgf）の力で閉じれるように、調整ナットの締め具合を調整してください。

④シートポストが十分に固定しなかったり途中でレバーが固くて閉じないときは、もう一度調整ナットの締め具合を調整しなおしてください。



サドルの前後調整と取付角度

ペダルをななめ前のいちばん力を入れやすい位置にして足を乗せたとき、ひざの中心の真下にペダルの中心があるのが最適です。
サドルの取付角度は、サドル上面がほぼ水平になるようにしてください。
水平でないとサドル固定部に大きな負担がかかり、こわれやすくなります。
※サドルがフレーム中心と合っていることを確認してください。



乗車前点検

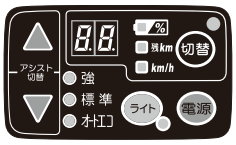
⚠警 告

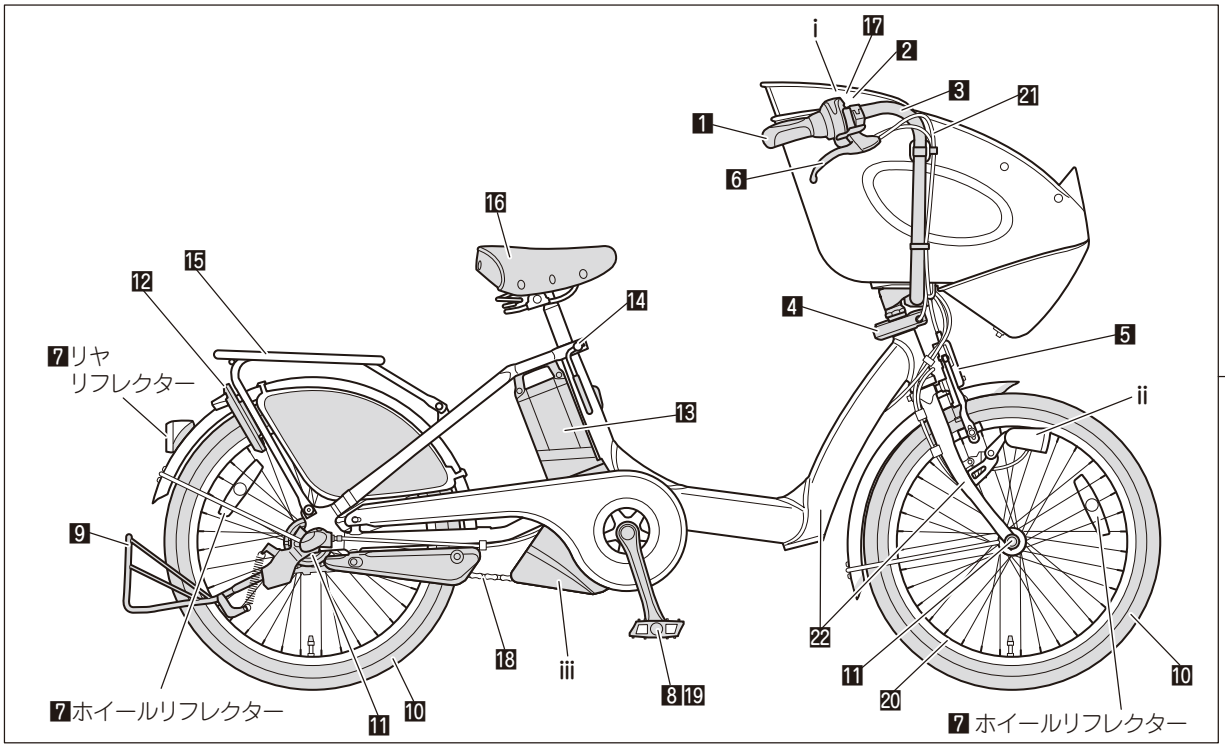
- 乗車前点検を必ず実施してください。
- 点検で異常が認められた場合は、すみやかに販売店で点検してください。
- わからないことや難しいと感じた時は、販売店にご相談ください。

- 走行前に確認を行う項目　1～23
- 走行開始してすぐに確認する項目　i～iii

要 点

メインスイッチの電源を切った状態で点検してください。





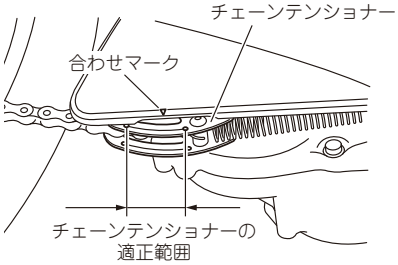
自転車のイラストは代表例です

17 バッテリーの残量

メインスイッチの電源を入れると、バッテリー残量ランプが表示されるので目安を確認します。

18 チェーンのたるみ

ドライブユニットカバーの合わせマークを基準にチェーンテンショナーが適正範囲にあるかを確認します。適正範囲にない場合は、チェーンの調整または交換が必要です。チェーン引きの位置調整をすることで、チェーンの張りを調整することができます。チェーンの調整および交換は、販売店にご相談ください。



19 電動アシストシステムの作動

メインスイッチの電源を入れた状態で、ペダルを踏み込み発進させ、電動アシストシステムが作動するか確認します。

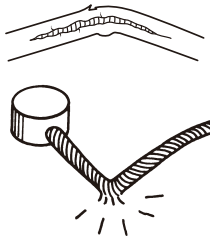
20 リムのブレーキ面磨耗

変形、ふくれ、キズ、ひび、きれつ、振れ、汚れがないことを確認します。

乗車前点検

21 ワイヤーとハーネスの状態

ブレーキワイヤー、シフトワイヤー、スイッチハーネスなどは、転倒時にバスケットやブレーキとフレームの間に挟まり傷が付くことがあります。乗車前に配線が外れたり損傷がないことを確認します。異常がある場合は、自転車には乗らずに販売店にご相談ください。



22 前ホーク・フレームの状態

前ホーク・フレームの状態を確認して、以下のような症状がないかを確認します。

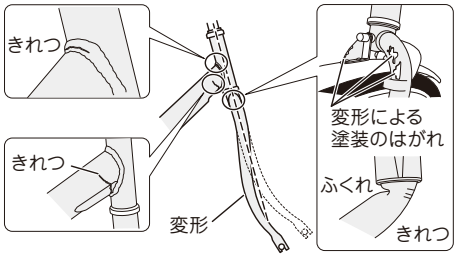
強 制

次の場合にはお店にご相談ください。

- **ハンドルを真直ぐにして、車両の真横から見て、前ホークが変形している**
- **フレームのパイプのつなぎ目にきれつが生じている**
- **前ホークの根元に、ふくれ、きれつ、変形による塗装のはがれがある**

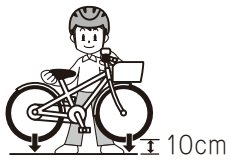
警 告

転倒や衝突による変形、きれつ、ふくれ、塗装のはがれにより、走行中にフレーム、前ホークなどが破損することでバランスをくずし、転倒のおそれがあり危険です。
特に車重の重い電動車や子乗せ車両で発生するケースが多くなっております。



23 ねじの緩み

自転車を10cmほど持ち上げて軽く落とし、異音がしていないことを確認してください。異音がする場合は、販売店にご相談ください。

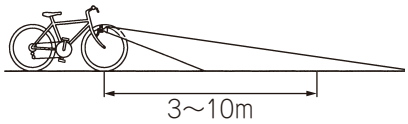


i 変速機の作動

走行時に変速操作をしても変速機が作動しないなど、変速機に異常を感じた場合は購入したお店にご相談ください。

ii 前照灯の点灯／照射角度

※この点検はメインスイッチの電源を入れて行ってください。
前照灯の照射状態は、3〜10m前方の路面部に光軸中心があるか確認します。



注 意

歩行者や対向車がまぶしく感じる恐れがある場合は、3m前方の路面部に光軸中心があるように取り付けてください。

メインスイッチの【ライトボタン】で前照灯（ライト）が点灯、消灯します。
もし点灯しない場合は、購入したお店にご相談ください。

乗車前点検

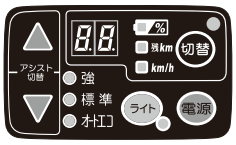
⚠警 告

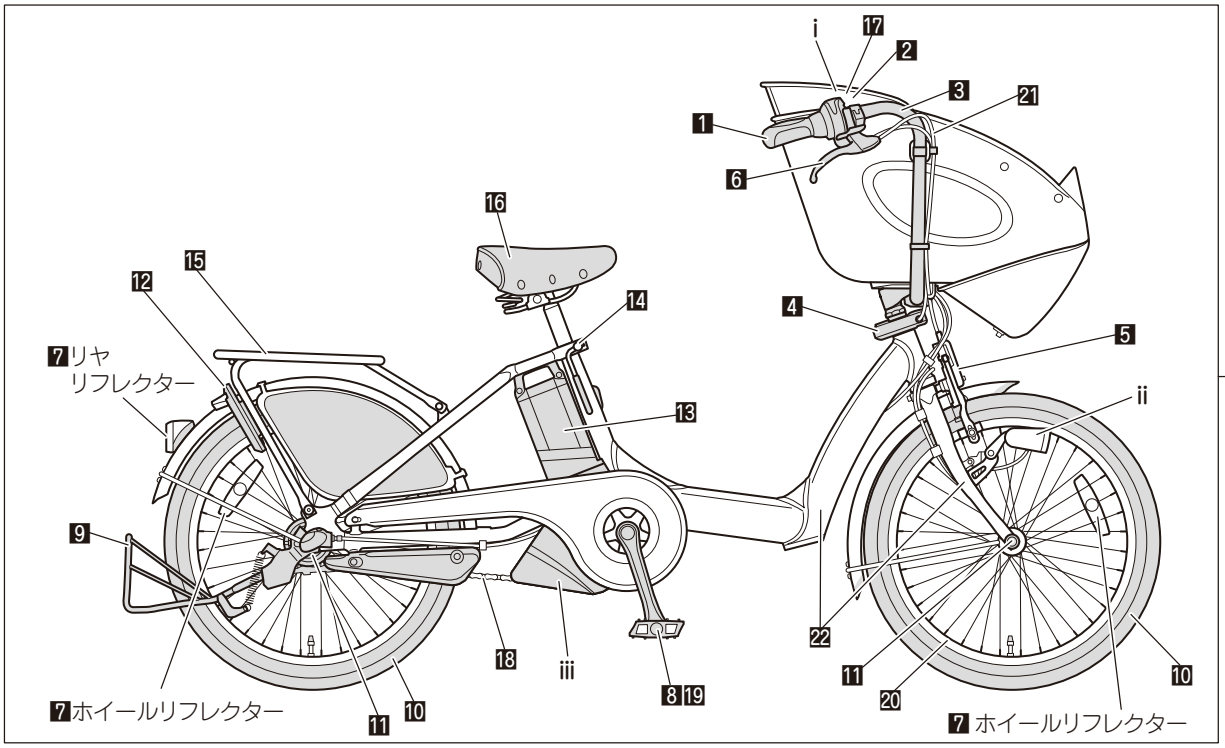
- 乗車前点検を必ず実施してください。
- 点検で異常が認められた場合は、すみやかに販売店で点検してください。
- わからないことや難しいと感じた時は、販売店にご相談ください。

- 走行前に確認を行う項目　1～23
- 走行開始してすぐに確認する項目　i～iii

要 点

メインスイッチの電源を切った状態で点検してください。





自転車のイラストは代表例です

iii 電動アシストシステムの作動

発進時、電動アシストシステムの作動に異常がないか確認します。電動アシストシステムから通常発生しない異音、煙や異臭の発生など異常が認められたときは、ただちに使用をやめ購入したお店にご相談ください。

⚠注 意

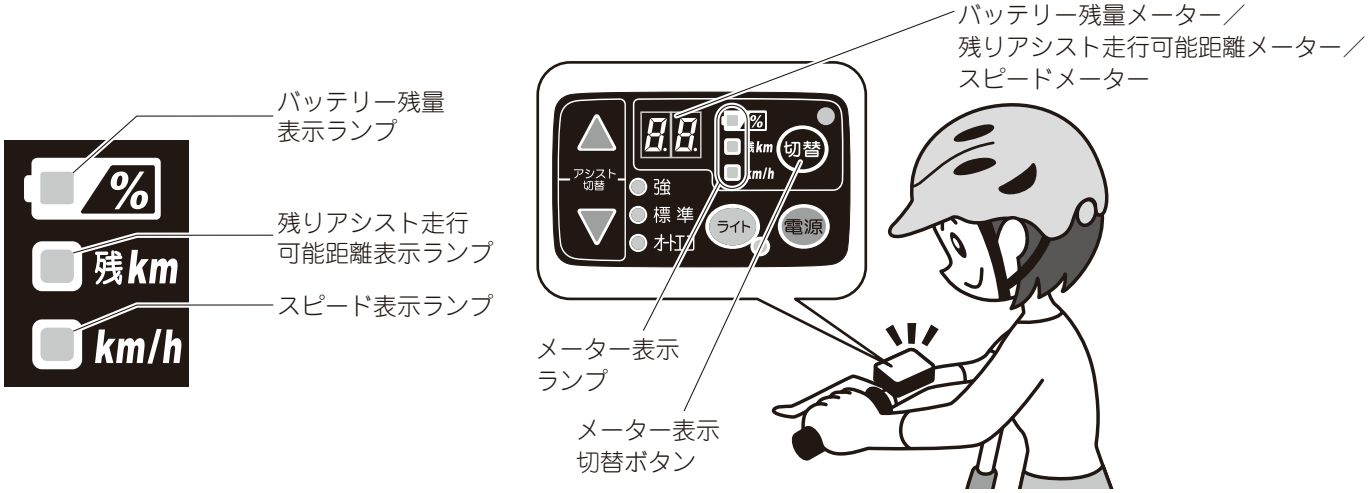
電動アシストシステムは精密部品です。分解などは決して行わないでください。
もし、異常が認められる場合はただちに使用をやめ購入したお店にご相談ください。

バッテリー残量の確認

バッテリー残量の見かた

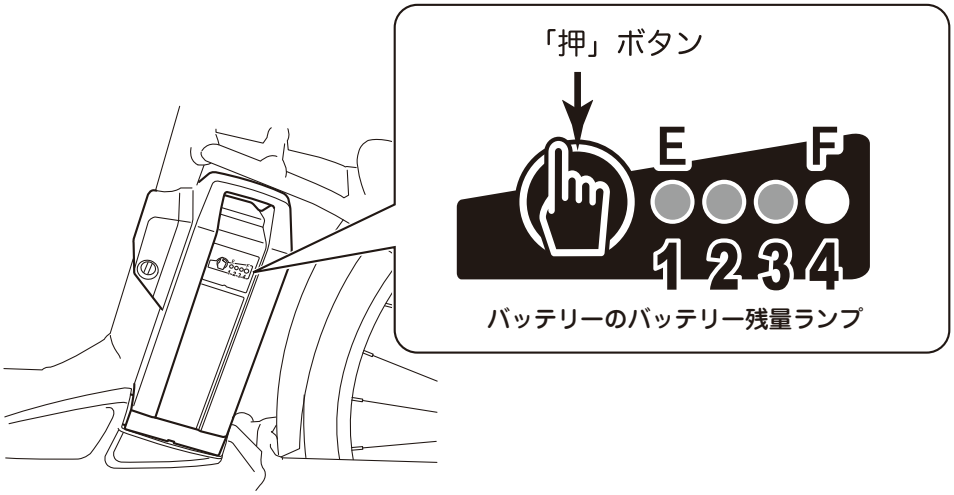
電動アシスト自転車に乗る前には必ず、バッテリーの残量を確かめましょう。

バッテリーにどの程度の容量が残っているか、どの程度充電されているかの目安を確認することができます。確認はメインスイッチのバッテリー残量メーターと、バッテリーのバッテリー残量ランプのいずれかで行うことができます。



メインスイッチメーターに表示されるデジタル数値は、バッテリー残量と残りアシスト走行可能距離の目安を表示します。また、スピードメーターは走行速度（時速）を表示します。
メーター表示切替ボタンを押すごとに、メーターの表示が切り替わり、バッテリー残量表示ランプ、残りアシスト走行可能距離表示ランプまたはスピード表示ランプのいずれかが点灯します。
バッテリー残量表示ランプが点灯しているときに、バッテリー残量をパーセント表示します。

バッテリーのバッテリー残量ランプを確認するときは、ランプ横の残量表示ボタン“ ”を押します。



バッテリー残量の確認

バッテリー残量メーターの表示とバッテリー残量の目安

バッテリー残量メーターの表示	バッテリー残量の目安	適応状態
FL 90 80	100～71%	バッテリー残量が100%（FL）から21%の間は、表示が10%ずつ減少していきます
70 60 50	70～41%	
40 ～ 30	40～21%	
20 ～ 11	20～11%	バッテリー残量が20%から11%の間は、表示が1%ずつ減少していきます。
10 ～ 1 数字の遅い点滅 ＜0.7秒間隔＞	10～1%	バッテリー残量が10%から1%の間は、表示が遅い点滅をしながら1%ずつ減少していきます。 バッテリー残量が残りわずかです。
0 数字の速い点滅 ＜0.3秒間隔＞	0%	バッテリー残量が0（ゼロ）になりました。充電してください。

要　点

- バッテリーの容量が0（ゼロ）になっても普通の自転車として走行することができます。
- 古くなったバッテリーを使用していると、充電直後でも発進時にバッテリー残量メーターが急激に少なく表示することがありますが、故障ではありません。走行が安定し負荷が少なくなれば適切な数値を表示します。

バッテリー残量の確認

バッテリー残量ランプの表示とバッテリー残量の目安

バッテリー残量ランプの表示	バッテリー残量の目安	適応状態
	100 ～ 75%	満充電（F）から1灯ずつ残量ランプが減少していきます。
	74 ～ 50%	
	49 ～ 25%	
	24 ～ 11%	
 1灯目の遅い点滅 <0.5秒間隔>	10 ～ 1%	バッテリー残量が残りわずかです。
 1灯目の速い点滅 <0.2秒間隔>	0%	バッテリー残量が0（ゼロ）になりました。充電してください。

要　点

- バッテリーの容量が0（ゼロ）になっても普通の自転車として走行することができます。
- 古くなったバッテリーを使用していると、充電直後でも発進時にバッテリー残量メーターが急激に少なく表示することがありますが、故障ではありません。走行が安定し負荷が少なくなれば適切な数値を表示します。

走行モードについて

走行モードの使い分けかた

走行状況に合わせて、強モード、標準モード、オートエコモードプラスの走行モードが選べます。
イラストは走行状態の違いによるアシスト力の変化を示しています。

走行モード	特徴	アシスト制御イメージ			
		発進時	平坦路	ゆるい上り坂	きつい上り坂
強 モード	急な坂道などにパワーモード				
標準 モード	パワーも距離も両立通常モード				
オートエコモードプラス	距離を重視エコノミーモード		切（節電）		
		こぎ出しの力をアシスト	平らな道ではアシストを抑える	勢いをつけるためにアシスト力アップ	さらに強いアシスト力でサポート

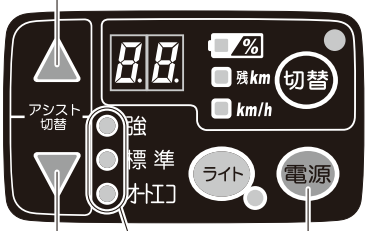
※イラストはイメージであり、実際の走行条件（路面条件・風など）によって変化します。

強モード	常にパワフルなアシストで頼りになるモード	発進時や急な坂道、楽に走行したいときに使います。
標準モード	パワーと距離を両立するお勧めモード	平坦な道や緩やかな坂道などで使います。
オートエコモードプラス	かしこく節電し走行距離を伸ばすモード	できるだけ長い距離を楽に走りたいときなどに使います。
アシストオフモード	アシストをオフにできるモード	メインスイッチの機能を活かしたまま、普通自転車として走りたいときに使います。

走行モードについて

走行モードの表示と切り替え

メインスイッチの電源ボタンを押して電源を入れます。
（電源が入っていると、ランプ類が点灯します。）
走行モードランプは、選択されている走行モードを表示します。



- 走行モード切替ボタンの“△”を押すと、［オートエコ］→［標準］、または［標準］→［強］と走行モードが切り替わります。
- 走行モード切替ボタンの“▽”を押すと、［強］→［標準］、または［標準］→［オートエコ］と走行モードが切り替わります。
- 走行モードが［オートエコ］を表示しているときに走行モード切替ボタンの“▽”を1秒以上押すと、アシストオフモードに切り替わります。
- アシストオフモードのときに走行モード切替ボタンの“△”を押すと、［オートエコ］に走行モードが切り替わります。

⚠警　告

メインスイッチの電源を入れるときは、ペダルに足をかけないでください。

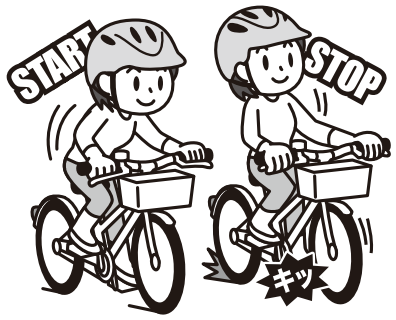
要　点

- アシストオフモードのときは、走行モードランプは消灯します。
- アシストオフモードのときは、残りアシスト走行距離メーターは消灯して使用できません。（バッテリー残量メーターとスピードメーターは使用できます。）
- 走行モードの切り替えは、走行中、停止中にかかわらずいつでもできます。
- 電源を入れると、最初は必ず標準モードとなります。
- 走行モード切替ボタンの“△”または“▽”を押し続けても、走行モードは一巡しません。

走行モードについて

走行距離に影響を与える環境

● 以下の状況で走行した場合は、走行距離が短くなります。



発進・停止の回数が多い

積載重量が重い

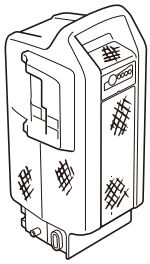
急な坂道が多い

路面の状態が悪い

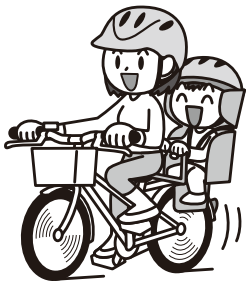
向かい風が強い

気温が低い

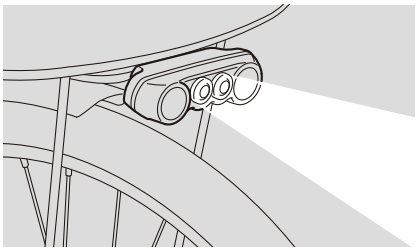
タイヤの空気圧が低下している



バッテリーの性能が低下している



幼児と同乗する



前照灯が点灯している

整備不良の場合も、走行距離が短くなります。
走行距離が短くなる整備不良の例：

● チェーンが滑らかに動かない。
● 常にブレーキが効いている。

発進のしかた

乗る前に…

● **電動アシスト自転車に乗る前は必ず乗車前点検を励行しましょう。**
（乗車前点検の点検項目はP38～P50をご参照ください。）

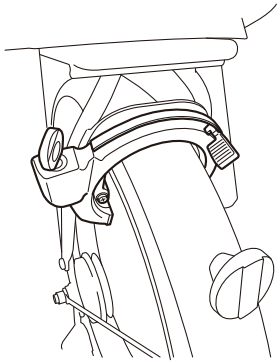
1 **後輪錠を解除しましょう。**
キーは後輪錠に付けたまま走行します。

⚠警 告

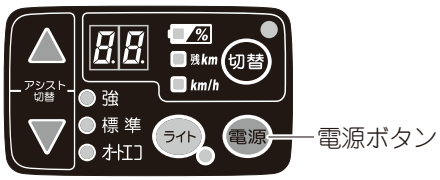
バッテリーロックのキーは必ず抜いてください。足が当たってケガをするおそれがあります。

⚠注 意

走行中に車輪に巻き込まれやすいようなキーホルダーは付けないでください。



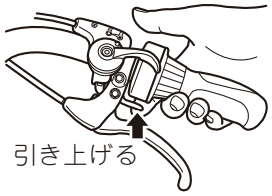
2 **ペダルに足をかけないでメインスイッチの電源ボタンを押して、電源を入れます。必要に応じアシストモードの切替をします。**



要 点

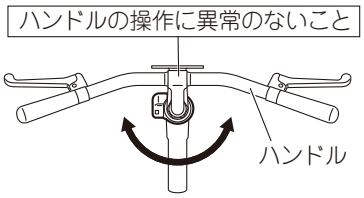
- メインスイッチの電源を入れてすぐに（約2秒以内）走行を開始すると、アシストが弱くなる場合があります。また、走行中にメインスイッチの電源を入れたときも同様に、アシストが弱くなる場合があります。（いずれも故障ではありません。）ペダルから足を離した状態で、再度メインスイッチの電源を入れ、少し待ってから（約2秒後）走行を開始してください。
- メインスイッチの電源を入れても、ペダルに踏力をかけずに自転車が停車した状態が5分間以上継続した場合、バッテリー消費を軽減するために自動的に電源が切れる機能を備えています。【自動電源オフ機能】
ただし、ペダルに踏力がかかっていない状態であっても、自転車を押して歩くなど、自転車が動いていれば電源は切れません。
- 自動電源オフ機能が作動した後でもメインスイッチの電源ボタンを押すと、再び電源が入ります。

3 **テモトデロックを解除しましょう。（P69）**
解除レバーを人差し指で引き上げます。



⚠警 告

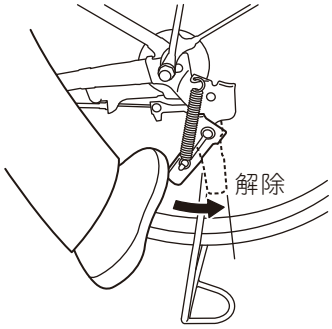
解除レバーを引き上げた後、ハンドルを回してテモトデロックが完全に解除されているかを確認してください。



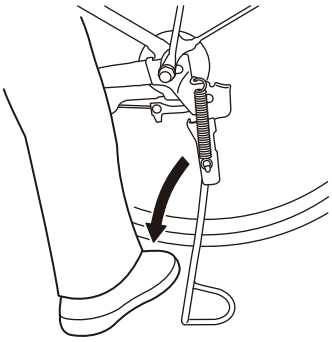
4 **スタンドをはね上げます。**

スタンドのはね上げ方

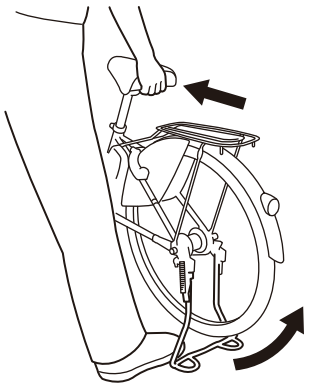
①両手で自転車を支え、ロックレバーを足で後へ押して、ロックを解除します。



②解除したら、必ずロックレバーから足を離します。

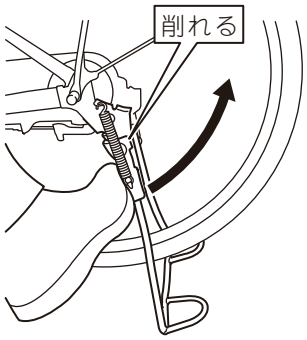


③スタンド下部を足で押さえて自転車を前へ押し、スタンドをはね上げます。



⚠注 意

- **後輪錠を開錠してから、スタンドをはね上げて（解除）ください。**
  ※施錠したまま自転車を動かすと、カンヌキがスポークやバルブとぶつかり、破損するおそれがあります。
- **ロックレバーを押しながらスタンドをはね上げないでください。**
  部品が削れてくぼみができ、動きが悪くなるおそれがあります。



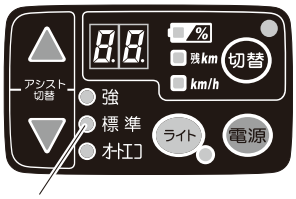
発進のしかた

5 **サドルにまたがり、ペダルをゆっくり踏み込みます。**
サドルにまたがり、ペダルに片足を乗せ発進の準備をします。走り出す前に前後左右の安全を確かめ、発進の合図をしてからペダルをゆっくり踏み込みます。電動アシストシステムは踏み込んだ瞬間から作動します。走行中電動アシストシステム作動時はモーターが回転しているため、モーター音がします。

⚠警 告

- **けんけん乗り（片足でペダルをこぎながら助走し、反動をつけてサドルにまたがる乗りかた）はしないでください。転倒や接触によるけがのおそれがあります。**

- **空き地や公園など安全な場所でよく練習し、電動アシストの特徴に充分に慣れてから一般道路でお乗りください。また、慣れるまでは「標準モード」でスタートしましょう。**



⚠注 意

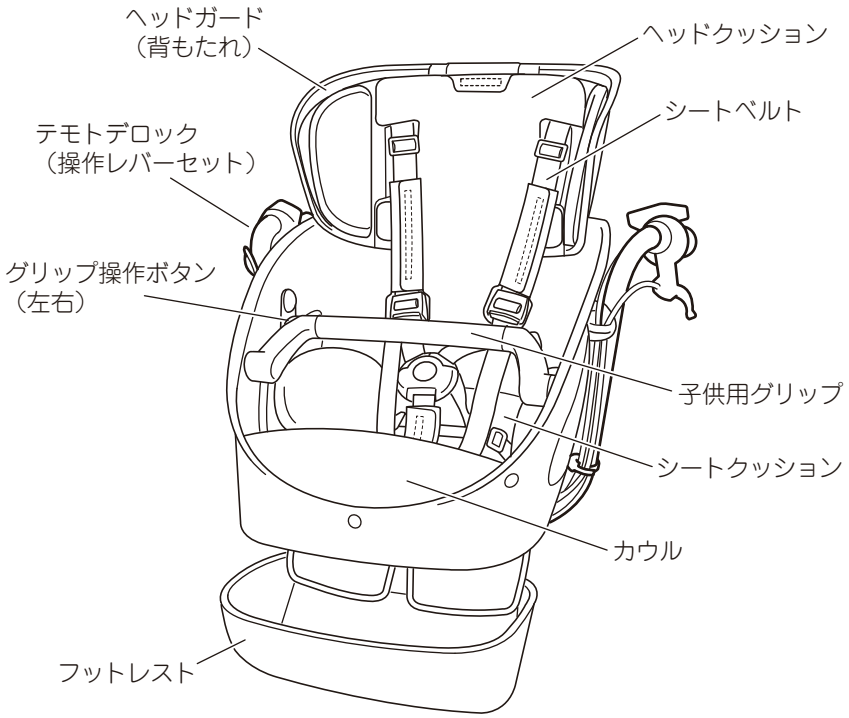
電動アシストシステム作動中に後進すると、重たい場合があります。一旦、ペダルから足を離して数秒間待ってください。通常に後進できます。

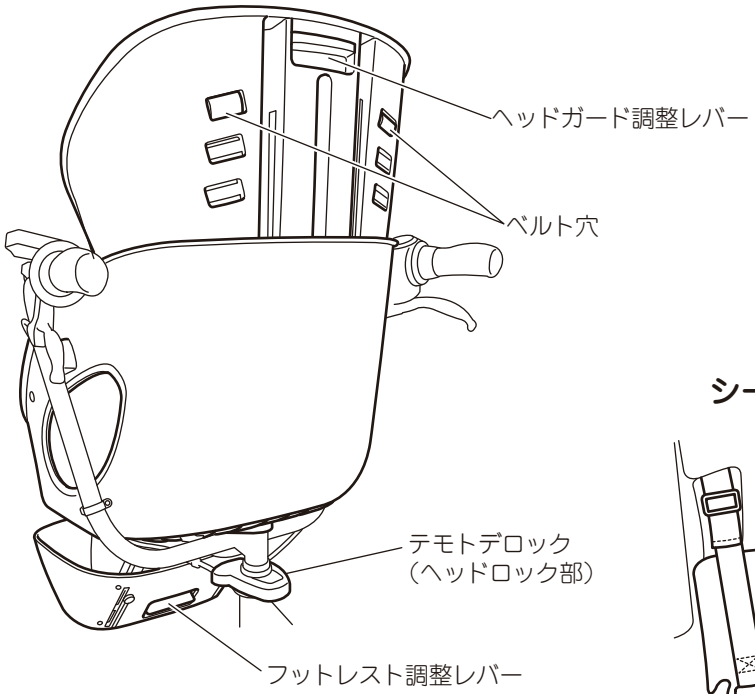
要 点

メインスイッチの電源入切にかかわらず、停止した状態からペダルをお好みの位置に合わせるため、ペダルを逆回転させてから正回転側に踏み込むと「カチッ」と音が出ます。これは電動アシストシステムのワンウェイクラッチ（フリー機構）が働いたもので異常ではありません。

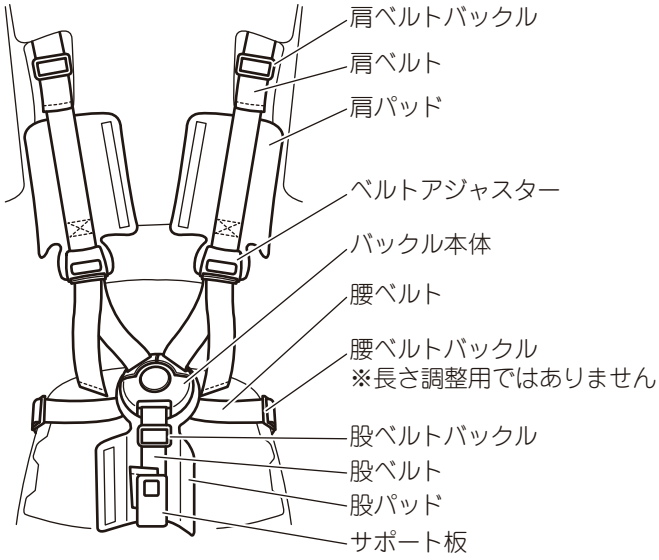
チャイルドシートの使い方

1. 各部の名称





シートベルト詳細



2. クッションの組み付け方法

■クッションの取り付け方法

① ヘッドクッションの取り付け

肩ベルトをクッションのベルト穴のカットから通し、肩ベルトをクッションのベルト穴に合わせながら、クッション裏側の面ファスナーとヘッドガードの面ファスナーの位置を合わせて組み付けます。

② シートクッションの取り付け

股ベルトをバックル本体およびサポート板と共に、クッションのベルト穴に通し、クッション裏側の面ファスナーと本体の面ファスナーの位置を合わせ組み付けます。

③ 肩パッドの取り付け

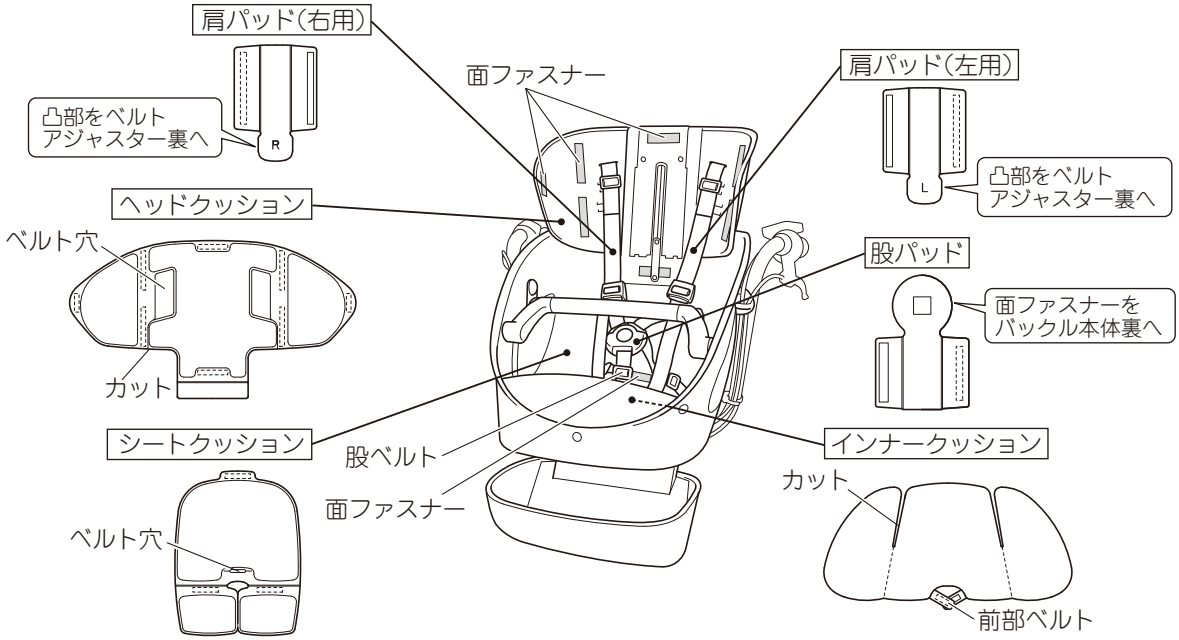
肩パッドの凸部をベルトアジャスター裏側に合わせ、肩ベルトの裏側より覆います。

④ 股パッドの取り付け

股パッドの面ファスナーをバックル本体裏の面ファスナーの位置を合わせ、股ベルトとサポート板を裏側より覆います。

⑤ インナークッションの取り付け

お子様の体格に合わせ、ご使用ください。前部ベルトを股ベルト（パッド）に巻き付ける様にシートクッションの上に重ねて置いてください。腰ベルトはカットを通して取り出してください。



⚠注 意

雨降り時にはクッションに水が染込むことがあります。クッションが濡れたときは、クッションを乾かしてから使用してください。

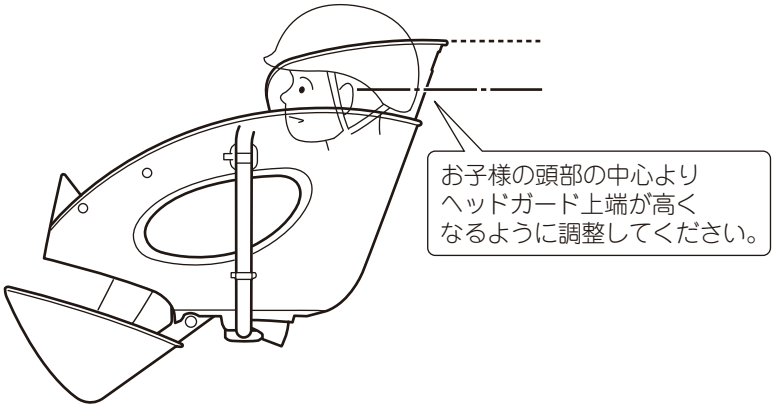
3. チャイルドシートの操作方法

■ヘッドガード（背もたれ）の使い方

⚠注 意

ヘッドガードの高さ調整の際は、ヘッドガードと本体の隙間で手を挟まないように注意してください。

● ヘッドガードはお子様の体格に合わせて高さを調整してください（可動範囲は約14cm）。



① ヘッドガード調整レバーを握り、ヘッドガードを上下させて、適切な高さに調節します。

② ヘッドガードを適切な高さに調節したら、ヘッドガード調整レバーから手を離します。

③ ヘッドガードを軽く上下に動かし、確実に固定されたことを確認してください。
ヘッドガードが固定位置でない時は、軽く上下に動かすことにより、カチッと音がして固定されます。

チャイルドシートの使い方

■フットレスト（足のせ）の使い方

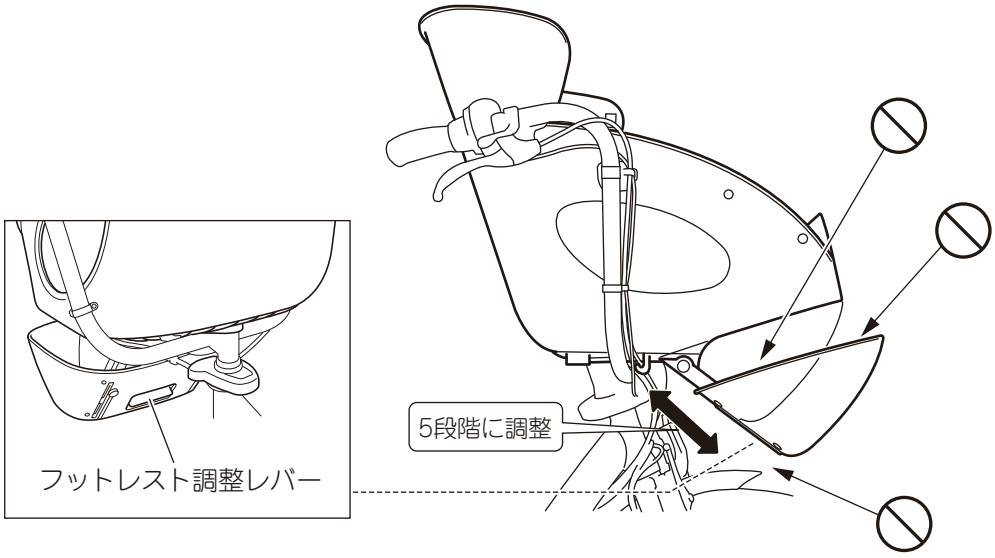
- フットレスト（足のせ）はお子様の体格に合わせて高さを5段階に調整することができます。
- バスケットとしてお使いなるときは、フットレストを閉じてください。

⚠警 告

- **フットレストを閉じるとき、⊘→で指した隙間に手や足をはさまないようにご注意ください。**
- **お子様を乗せているときは、お子様の手や足を隙間に挟まないようにご注意ください。**

⚠注 意

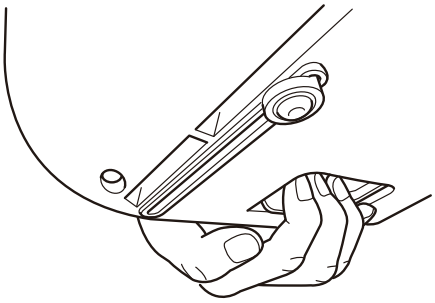
ドロヨケ、タイヤに手をぶつけるおそれが有ります。ゆっくり操作してください。



① フットレスト調整レバーを握り、フットレストを上下させて、適切な高さに調整します。

② フットレストを適切な高さに調整したら、フットレスト調整レバーから手を離します。

③ フットレストを軽く上下に動かし、確実に固定されたことを確認してください。
フットレストが固定位置でない時は、軽く上下に動かすことにより、カチッと音がして固定されます。



チャイルドシートの使い方

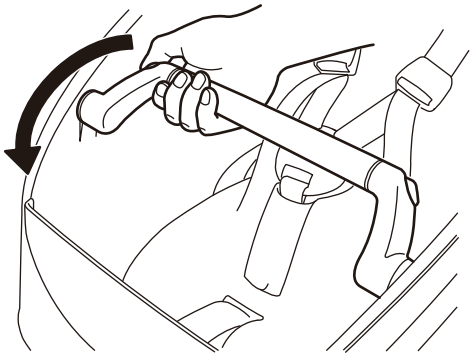
■子供用グリップの使い方

⚠警 告

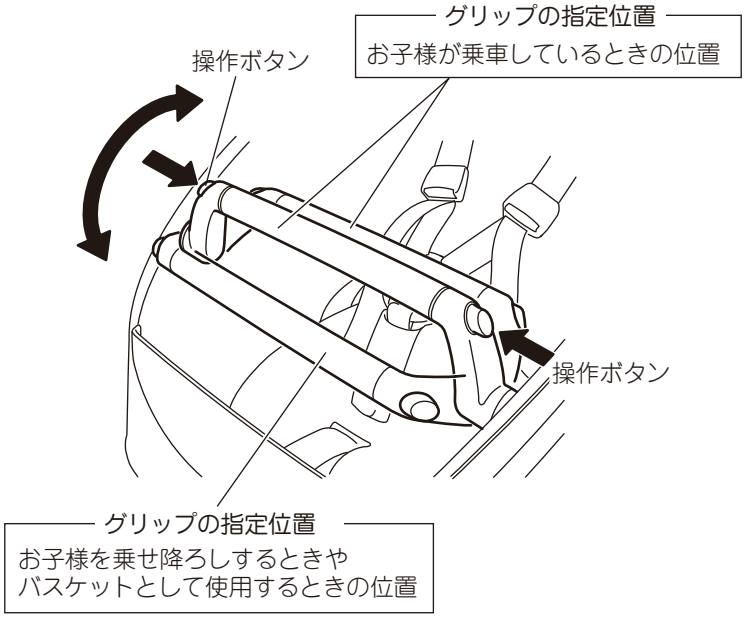
- **グリップは、お子様に合わせて調整し、確実に固定してください。**
- **グリップを持って自転車を持ち上げないでください。こわれて自転車を落とすおそれがあります。**

- お子様が乗っているときはグリップを後側または真中にしてください。
- お子様を乗せ降ろしするときや、バスケットとして使用するときはグリップを前側にしてください。

① 左または右の操作ボタンのどちらか一方を指で押しながら、グリップを回転させるように動かします。



② グリップが固定位置より少し動いたら、操作ボタンより指を離して、そのままグリップを回転させると、次の固定位置でカチッと止まります。



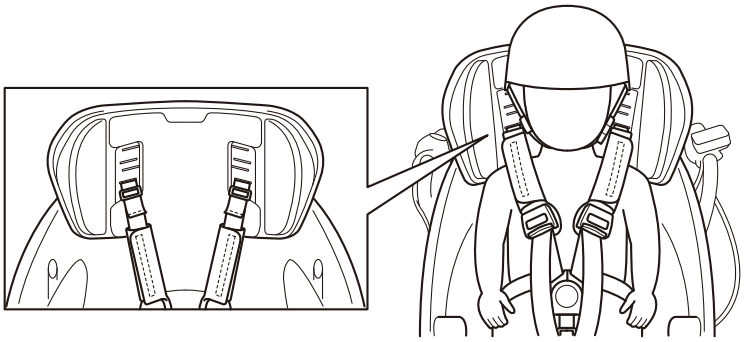
③ 利用状況に合わせてグリップを指定された位置にします。

チャイルドシートの使い方

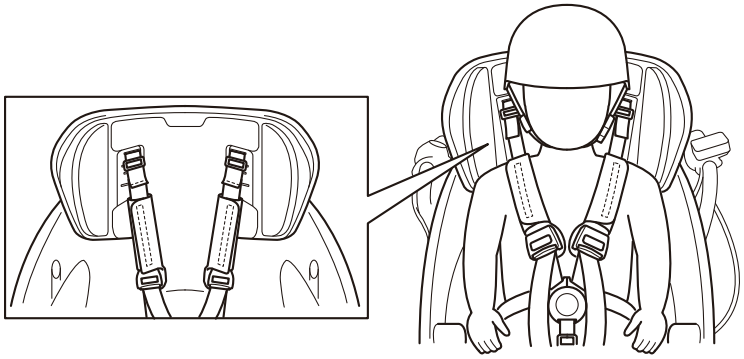
■シートベルトの使い方

シートベルトはお子様の体格や服装に合わせて長さを調整してください。
調整後は確実にシートベルトを固定してください。
お子様の体格によりシートベルトの固定位置が3段階に設定できます。

小さいお子様の使用例



大きいお子様の使用例

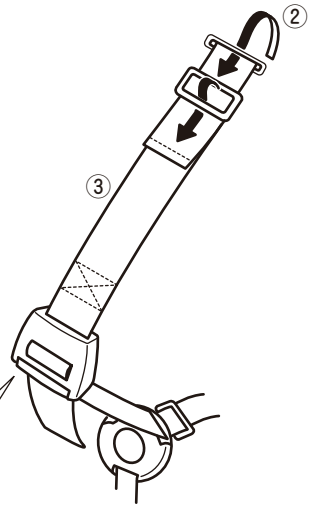


〈シートベルトの固定位置（高さ）を変更する場合〉

① 肩ベルトをバックルおよびヘッドガードベルト穴から外します。

② ヘッドガードの他のベルト穴に肩ベルトを下穴から上穴に通します。

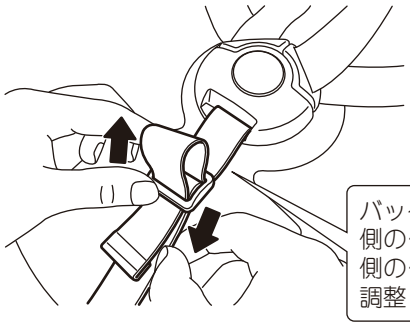
③ バックルへも通し、肩ベルトの長さを調整します。



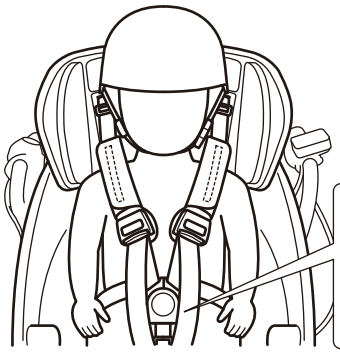
※肩ベルトの長さ目安
肩パッドが肩の上にくるようにして、ベルトアジャスターが胸の前（上図）になるよう調整してください。

チャイルドシートの使い方

● 股ベルトバックルを操作して、股ベルトの長さを調節します。



バックルに通している上側のベルトを緩めて、下側のベルトを引っ張って調整します。

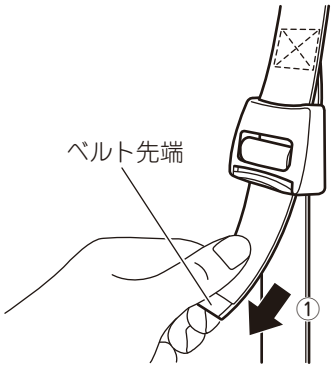


股ベルトの長さは、バックル本体がおなか辺りにくる長さを目安に調整し、股パッドがサポート板から外れないようにしてください。

● ベルトアジャスターを操作して、腰ベルトの長さを調節します。

締める時

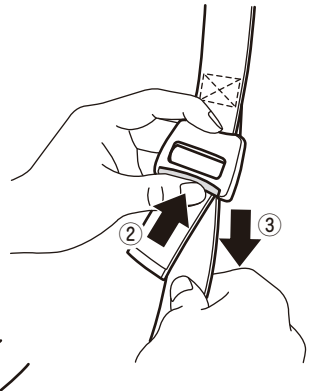
① 腰ベルトのベルト先端を下方に引き出します。



緩める時

② ボタン（赤茶色）を押します。

③ 上記②の状態のままで、もう一方の手で腰ベルトを引き下げます。



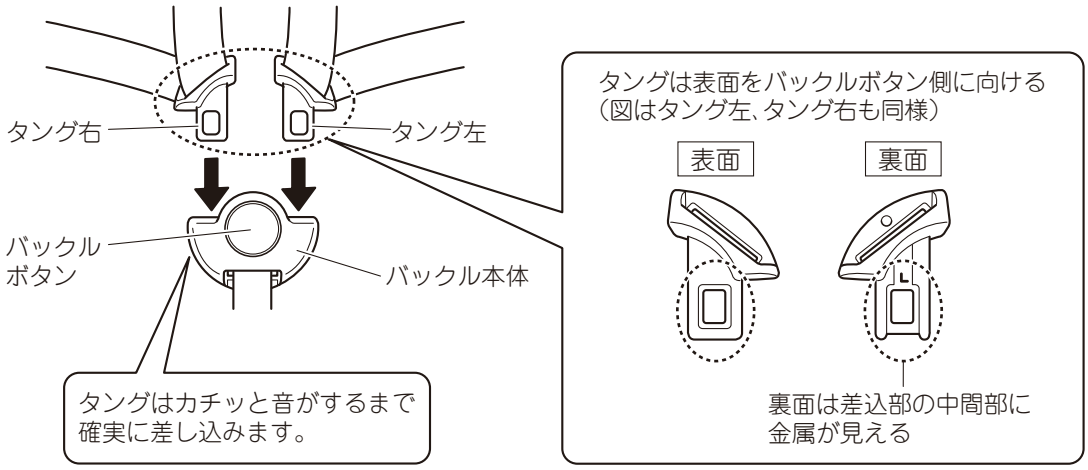
⚠ **シートベルト調整時のポイント**

チャイルドシートの使い方

〈バックルの固定・解除〉

● タングは左右別々に固定し、左右同時に解除することが出来ます。

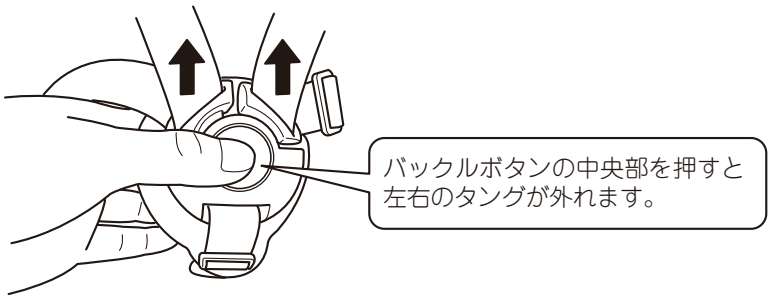
固定する時



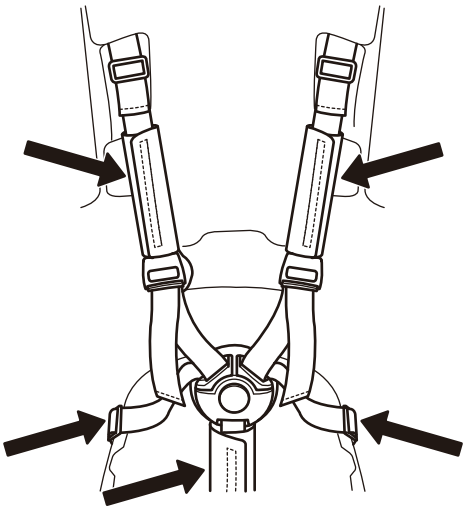
⚠警 告

タングを差し込んだら、左右のタングを軽く引っ張り、抜けないことを確認してください。

外す時



● ベルト長さ調整時及び使用時は肩、腰、股ベルトがねじれていないことを確認してください。

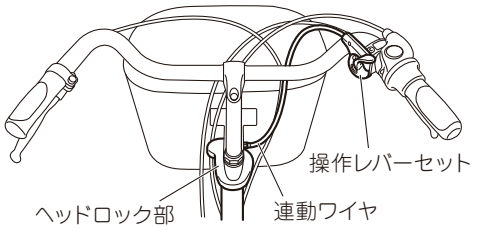


テモトデロックの操作方法

「テモトデロック」は、駐輪時に自転車を安定させるために行なう「ハンドル（ヘッド）の回転をロック（半固定）／解除する操作」を、ハンドル右側のレバー操作で行なえる旋回抑制機構です。

1. 構造・機能

- 「テモトデロック」はハンドル右側の「操作レバーセット」と、ハンドル下の「ヘッドロック部」の2つの部分が「連動ワイヤ」で連動しています。
- 「操作レバーセット」の操作で、「ヘッドロック部」が作動して、ハンドル（及びマエホーク、前輪）が左右に回るのを止める**（半固定）**ことができます。
- 但し「テモトデロック」をかけても、ハンドルに大きな力が加わると、音が出て**ハンドルが回ります。**

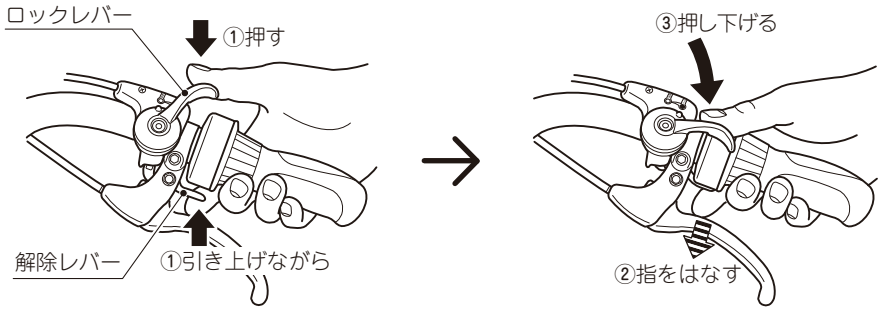


2. 操作方法（ハンドル右側の操作レバーセットを操作します）

1 **駐輪する時**（ハンドルを回らなくする時）

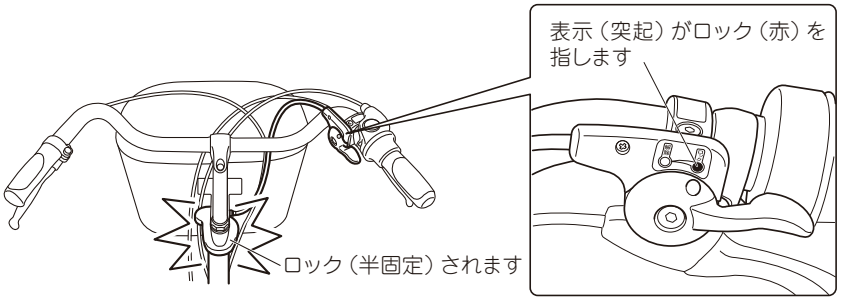
〈操作のしかた〉

① 解除レバーを人差し指で引き上げながら、ロックレバーを押し下げます。（＊1）
② ロックレバーが動き出したら、解除レバーから指をはなします。
③ カチッと止まるまでロックレバーを押し下げます。（＊2）



〈操作すると〉

ハンドルが回らなくなります。（＊3）

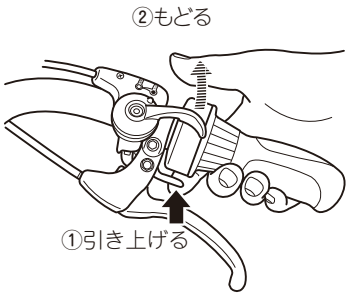


＊1　誤動作防止のため、初めに解除レバーを引き上げないと、ロックレバーが下へ動かせない安全機構になっています。
＊2　レバー操作が重い場合は、ハンドルを少し回転させながら操作してください。
＊3　ハンドルを無理に回すと、音が出てハンドルは回りますが、この状態での走行は危険です。

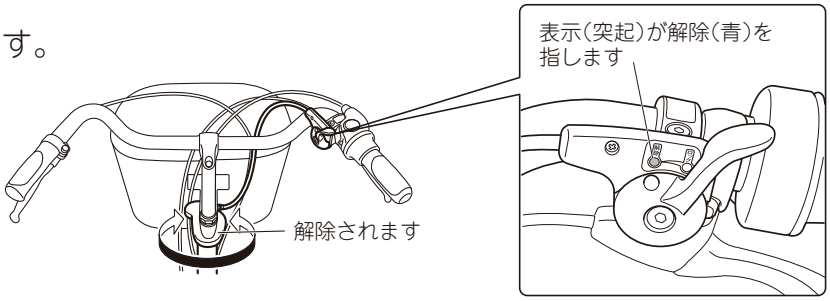
テモトデロックの操作方法

2. 操作方法(つづき)

2 **乗車する時(ハンドルが回るようにする時)**
〈操作のしかた〉
①解除レバーを人差し指で引き上げます。
(②ロックレバーが上へもどります)



〈操作すると〉
ハンドルが回せるようになります。



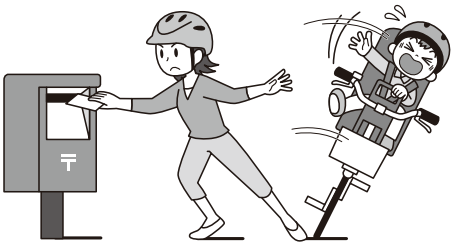
⚠警 告

- **走行する時は、必ずテモトデロックを解除してください。ロック(半固定)したままだと通常ではハンドル操作できません。事故につながる危険があります。**

3. 使用上のご注意

⚠警 告

- **テモトデロックはハンドルの回転を完全に固定するものではありません。テモトデロックをかけても、積載する荷物が重かったり、駐輪場所が不安定な場合には、ハンドルが回って、自転車が動いたり、倒れたりするおそれがありますのでご注意ください。特にお子様を自転車に乗せたまま、自転車から離れないでください。自転車が倒れてお子様が地面にぶつかり、けがをする危険があります。**



- **地面が平らで安定した場所に駐輪してください。地面が傾いていると、自転車が倒れるおそれがあります。特にお子様を乗せ降ろしする場合は、ご注意ください。**
- **安定した駐輪のため、ハンドルは前方(直進方向)に向けて駐輪してください。**

テモトデロックの操作方法

3. 使用上のご注意（つづき）

⚠警 告

- 走行中のロック操作は絶対にしないでください。
  また、お子様を同乗させた時は、お子様がレバーを押したりしないように注意してください。走行中にハンドルの操作ができなくなったり、駐輪中にロック（半固定）したハンドルの回転が解除して、転倒や事故につながる危険があります。
- ロックレバーに買い物袋などをひっかけない。荷物の重みでロックレバー内部が破損したり更に走行中ヘッドがロック（半固定）するおそれがあります。

レバーをさわらせない

⚠警 告

乗車の前は、必ず次の項目を確認してください。
- ロックレバーが上がっていること。
- ハンドルが滑らかに回転すること。
- 解除レバーを操作しないと、ロックレバーを下まで押せないこと。（安全機構動作確認のため）
- 連動ワイヤに異物が引っ掛かったり、リヤブレーキワイヤとのクリップから外れていないこと。
- 不適切な取り扱いや調整は人身事故につながる危険があります。不明な点は、販売店にご相談ください。

❗強 制

次のような場合は、乗車せずに、すぐに販売店にご相談ください。
- 操作レバーセット、ヘッドロック部、連動ワイヤのいずれかが破損している場合。
- 連動ワイヤが、操作レバーセット、ヘッドロック部から外れている場合。
- ロック（半固定）時のハンドル固定力が初期より低下した場合。
  （ロックしてもハンドルが簡単に回ってしまう場合）

【操作レバーセット／解除時】
- ●ハンドル操作に異常を感じた場合。ハンドルがロック（半固定）されている場合。
- ●ロックレバーが上に戻らない場合。
- ●操作レバーセットのインジケータ表示が解除（青）にならない場合。

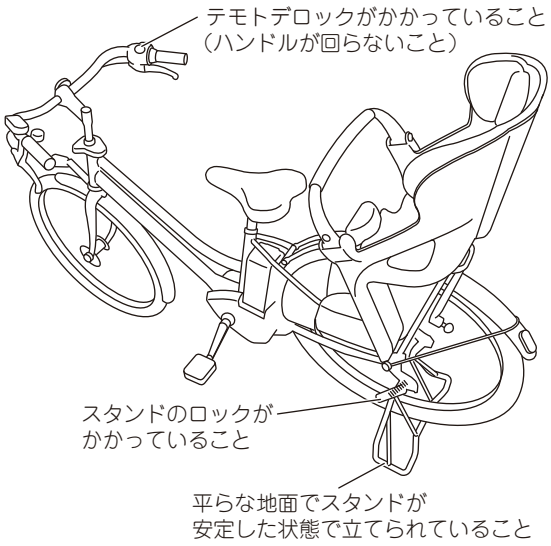
【操作レバーセット／ロック時】
- ●ハンドルがロック（半固定）されない場合。
- ●ロックレバーが下側で固定されない場合。
- ●操作レバーセットのインジケータ表示がロック（赤）にならない場合。

安全な使いかた

お子様をチャイルドシートに乗せる前に確認してください

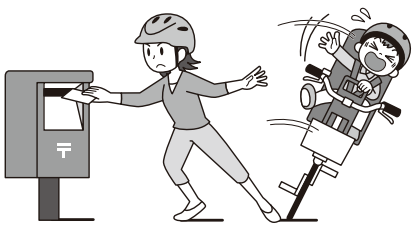
⚠警 告

- スタンドが安定した状態で立って、ロックされているか確認してください。
- テモトデロックが掛かっているか確認してください。
- リヤチャイルドシートおよびキャリヤが確実に固定されていることを確認してください。
- チャイルドシートに破損・変形・ゆるみがないか確認してください。
- ネジやボルト類のゆるみやガタつきがなく、チャイルドシートの取り付けが確実であることを確認してください。ゆるみやガタつきがある場合はすぐに自転車販売店にて調整を受けてください。
- リアキャリヤ、スタンドの取り付けネジやボルト類についても、ゆるみやガタつきがないことを確認してください。ゆるみやガタつきがある場合はすぐに自転車販売店にて調整を受けてください。
- お子様は荷物等よりも後に乗せ、最初に降ろしてください。
- リヤチャイルドシートを使用する時はフットガードが装着されていること。（車輪への巻き込み防止のため）
- お子様を同乗させる場合、車輪などの可動部やサドルのバネに触れさせないでください。車輪に巻き込まれたり、バネに挟まれてけがをするおそれがあります。
- チャイルドシートの取り付けについては自転車販売店で取り付けてください。
- チャイルドシートの取扱説明書をよく読んでご使用ください。
- チャイルドシートを装着し、お子様を同乗すると、車体にふらつきが出てハンドルをとられやすくなるため、自転車に乗りなれてからの同乗をおすすめします。
- お子様を乗せないでご使用する場合は、シートベルトが後車輪に巻き込まれないことを確認してください。



⃠禁 止

- お子様を乗せた自転車が倒れると、お子様が地面にぶつかり、けがの危険がありますので、決してお子様を乗せたまま駐車したり、自転車から離れないでください。
- 「幼児2人同乗自転車適合車」マークのない自転車で2人のお子様を乗せることは、道路交通法で禁止されています。



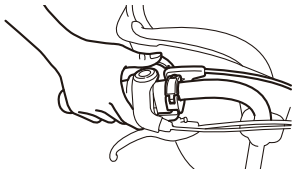
お子様をチャイルドシートに乗せるときは

安全対策をした幼児2人同乗基準適合車でも、お子様の安全な乗せ方、降ろし方を行わないと思わぬケガをする恐れがあります。
お子様2人を同乗させる場合は、次の手順で行ってください。【ブリヂストンサイクル推奨例】
お子様1人を乗せる場合は、下記⑤⑥または⑦⑧を省略してお読みください。

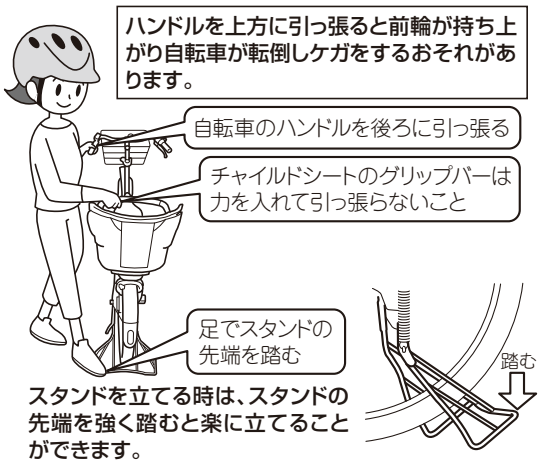
⚠警 告

● **お子様を乗せる際は、必ず荷物を積んだ後に乗せてください。**

① **お子様を乗せる前に、「テモトデロック」を操作し、ハンドルが回転しないように必ず※1ロック（半固定）してください。**

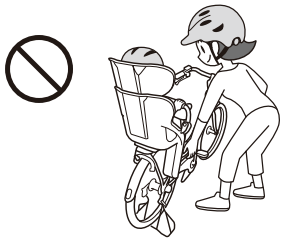


② **自転車が転倒しないように、※2安定性のよい平らな場所を選び、スタンドがしっかり立っていること、スタンドのロックがかかっていることを確認してください。**
スタンドを立てる際は、チャイルドシートのグリップバーを引っ張らずに、自転車のハンドルを引っ張りながらスタンドの端を踏んで、てこの原理を利用して立ててください。



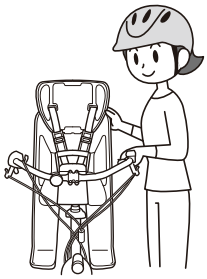
スタンドを立てる時は、スタンドの先端を強く踏むと楽に立てることができます。

※3自転車を持ち上げる必要があるときは、リヤチャイルドシート（後幼児座席）のフットレストやグリップバーをもって持ち上げないでください。



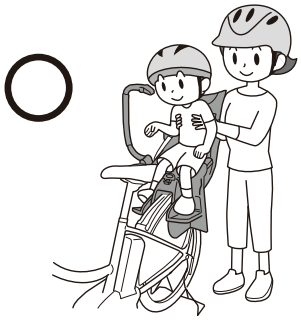
③ **お子様にヘルメットを着用させてください。**

④ **保護者は自転車が倒れそうになった場合でも、すぐに手で支えられる位置に立っているようにしてください。**

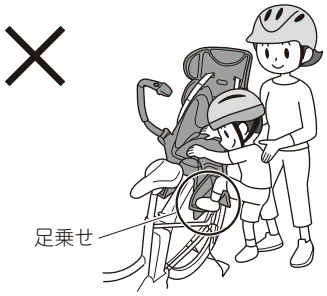


⑤ **まず初めに年長のお子様から先に、必ずしっかりと抱いて※4リヤチャイルドシート（後幼児座席）に乗せてください。**

自転車を炎天下に放置した場合は、お子様をチャイルドシートに乗せる際、やけどに十分注意してください。



お子様を抱いて乗せ降ろしてください。
お子様一人でチャイルドシートに乗り降りしないよう注意してください。自転車が倒れる恐れがあります。

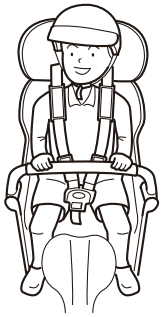


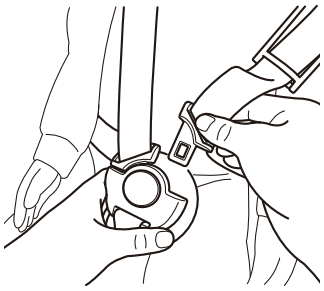
フットレストをステップ（踏み台）として使用しないでください。

お子様をチャイルドシートに乗せるときは(つづき)

⚠警 告

⑥ お子様の後頭部をカバーするようにヘッドガードを調整し、シートベルトを確実に装着してください。





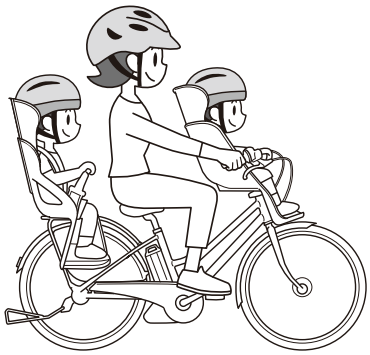
お子様がチャイルドシートに着座したとき、ヘッドガード上端が耳の上より高くなるように調整してください。

⑦ 次に年少のお子様をしっかりと抱いてフロントチャイルドシート(前幼児座席)に乗せてください。

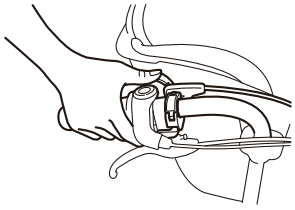
⑧ リヤチャイルドシートと同様にヘッドガードを調整し、シートベルトを確実に装着してださい。
フロントチャイルドシートのヘッドガードの高さと自転車乗員の目線位置との高低差によっては、前方の視界に影響がでることがあります。
安全な場所で視界を確認し、運転の際は前方の障害物によく注意してください。

⑨ お子様を乗せるとき、乗せたあとは、必ず正しい姿勢(正しく着座)であることを確認し、特に足が車輪に巻き込まれることのないように注意してください。(③、⑥、⑧参照)

⑩ スタンドを上げてから、保護者が自転車に乗ってください。
※3自転車を持ち上げる必要があるときは、リヤチャイルドシート(後幼児座席)のフットレストやグリップバーをもって持ち上げないでください。



⑪ ※5ハンドルグリップをしっかり握ってから、「テモトデロック」を操作し、最後にロックを解除してください。



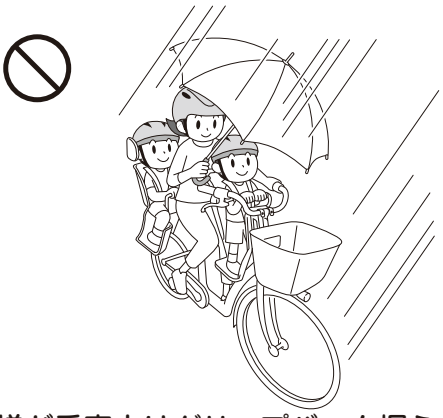
※1 「テモトデロック」はハンドルの回転を完全に固定するものではありません。
※2 傾いた場所で「テモトデロック」を解除した場合、路面の傾き等により不用意に自転車が動き転倒するおそれがあります。
※3 想定外の負荷により、フットレストやグリップバーが破損する場合があります。
※4 お子様をリヤチャイルドシートに乗せる際は、フッドガード(足のせ部)に強い力を加えないでください。
※5 バランスを崩した際にハンドルグリップから手が離れると、とっさに指をレバーのすき間などに挟むおそれがありますので、ハンドルグリップをしっかり握ってください。

安全な使いかた

走行時は

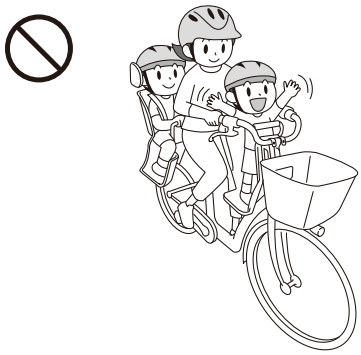
⚠警 告

- 必ず付属のシートベルト（腰ベルト、肩ベルト及び股ベルト）を使用してください。
- シートベルト等が車輪に巻き込まれないように注意してください。
- 傘を差しながらの片手運転など、危険な行為は絶対にしないでください。

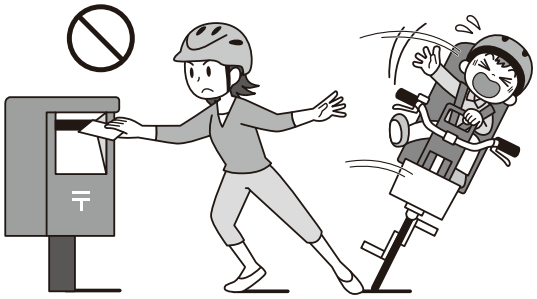


- お子様が乗車中はグリップバーを握らせてください。

- お子様が眠らないように注意してください。
- 使用中、お子様の手足が届く範囲に自転車用錠がある場合、錠が作動して思わぬ事故につながるおそれがありますので、十分注意してください。
- お子様が走行中にベルトバックルを操作しないように十分注意してください。
- 段差がある場所では押し歩きをしてください。ハンドルを取られやすく、転倒のおそれがあります。やむをえず、乗車して走行する場合は、ハンドル操作などに十分に注意をしてください。
- 走行中にお子様がチャイルドシートの中で立ち上がったり暴れたりしないよう、注意してください。



- 使用に当たっては交通法規を守ってください。
- お子様を乗せたまま自転車から短時間であっても手を離さないでください。自転車が倒れてお子様がケガをするおそれがあります。



幼児2人同乗時の注意

⚠警　告（危険です、必ずお守りください！）

- お子様を2人同乗させて自転車に乗るときはスニーカーなど、かかとの低い靴をはいてください。また、スリッパや足から脱げやすい靴ははかないでください。
  ペダルから足を踏み外すと、転倒する危険があります。

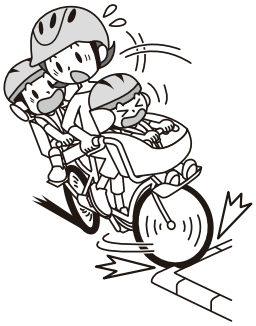
- フロントチャイルドシートによって、前方（特に下側）が見えにくくなります。このため、安全な場所で視界の確認をしてから使用してください。また、見える範囲の前方の障害物によく注意してください。

- お子様を2人同乗させた時は、自転車は同乗させない時に比べ運転しづらくなり、転倒する危険が増します。
  - ・お子様の乗せ降ろしや自転車の押し歩き・走行を安全な場所で練習してから使用してください。
  - ・発進時や低速走行時には、ハンドルが振れることがあるので、特に注意してください。

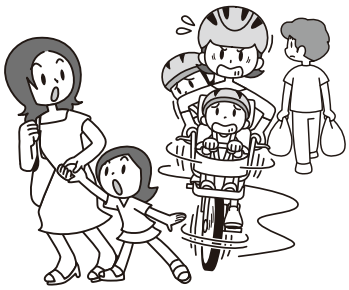
- 傾斜や溝がある場合はハンドルをとられやすいので、押して歩くか、ゆっくり注意して通過してください。

- 小学生以上のお子様を同乗させることは道路交通法違反となり、違反の場合はSGマーク制度の賠償外となる場合があります。
  ※ SGマーク制度は、チャイルドシートの欠陥によって発生した人身事故に対する補償制度です。

- お子様を2人同乗させた時は、自転車全体の重さが増えるので、ハンドル操作に大きな力が必要になり、押し歩き時にもバランスを崩し、自転車の立て直しができずに転倒しやすくなります。このため、下記に注意してください。
  - ・ハンドルを急に切らないでください。
    ハンドルを大きく切った際に、前輪が前または後に意図しない回転をして転倒することがあります。傾斜面や路面の凹凸があるところでは、特に起こりやすくなります。



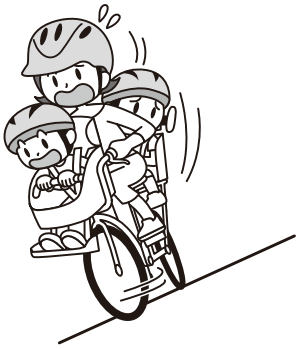
  - ・歩行者などとすれ違う際によけるときは、ハンドル操作などに注意してください。
    狭いところを押し歩いたり、歩行者や自転車と接触したり、同乗させているお子様の動き、路面の凹凸傾斜などによりバランスをくずしやすくなります。



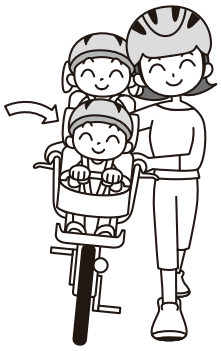
幼児2人同乗時の注意（つづき）

⚠警　告（危険です、必ずお守りください！）

● バランスをくずしにくい押し歩きの方法
押し歩き時には同乗のお子様の動きや路面の凹凸・傾斜などによるわずかなバランスのくずれによって、自転車の立て直しができずに転倒することがあるので、お子様を自転車から降ろして押し歩きをしてください。
やむをえず、お子様を同乗させて押し歩きを行う場合には、転倒の危険がありますので、以下の事項を考慮して慎重に押し歩きを行ってください。

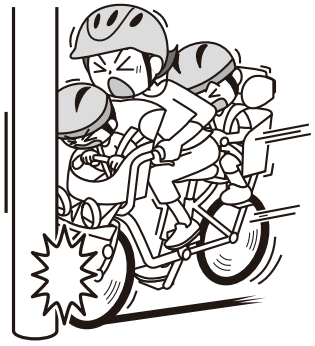


・自転車は垂直より少し手前に傾けて、ハンドルを握り、ブレーキがすぐにかけられるようにしてください。



・同乗のお子様が動かないように注意するとともに、路面の凹凸・傾斜などに注意して、バランスをくずさないようにしてください。
・押し歩きのための十分な空間がある場所であることを確認し、混雑した場所ではバランスをくずしやすいので、お子様を同乗しての押し歩きはやめてください。

● お子様を2人同乗させた時に衝突などの事故を起こした場合、自転車全体の重さが増えているので、同乗させないときに比べて衝突時の衝撃が大きくなります。このため、衝突などの事故を起こした場合は、同乗のお子様、運転者本人の被害が大きくなります。
また、歩行者や物に衝突などの事故を起こした場合も、同じく歩行者や物の被害（ケガ）が大きくなります。



※以上のことは、お子様を1人のみ乗せた場合も同じですので、注意してください。

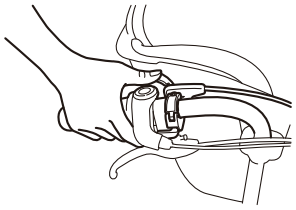
お子様をチャイルドシートから降ろすときは

安全対策をした幼児2人同乗基準適合車でも、お子様の安全な乗せ方、降ろし方を行わないと思わぬケガをする恐れがあります。
お子様2人を同乗させた場合は、次の手順で行ってください。【ブリヂストンサイクル推奨例】
お子様1人を降ろす場合は、下記⑤または⑥を省略してお読みください。

⚠警 告

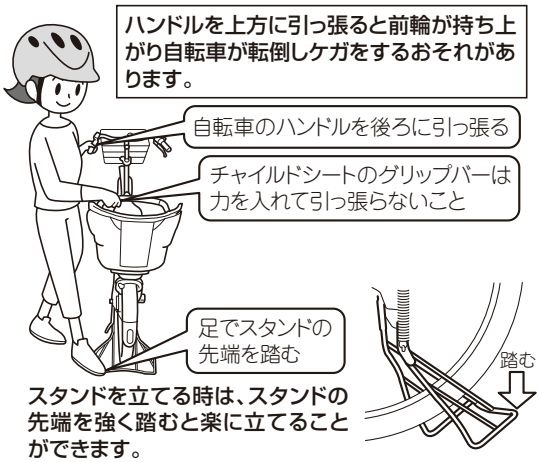
- **お子様を降ろす際は、必ず荷物を降ろす前にお子様を降ろしてください。**

① お子様を降ろす前に、「テモトデロック」を操作し、ハンドルが回転しないように必ず※1※2ロック（半固定）してください。



② 保護者が自転車から降りてください。

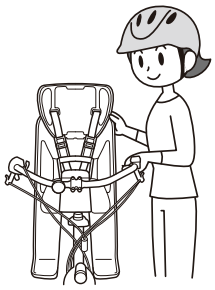
③ 自転車が転倒しないように、※3安定性のよい平らな場所を選び、スタンドがしっかり立っていること、スタンドのロックがかかっていることを確認してください。
スタンドを立てる際は、チャイルドシートのグリップバーを引っ張らずに、自転車のハンドルを引っ張りながらスタンドの端を踏んで、てこの原理を利用して立ててください。



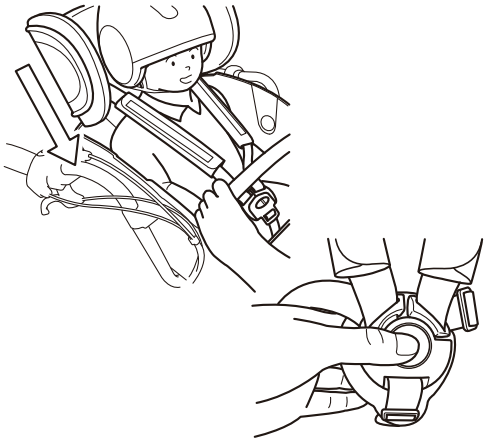
スタンドを立てる時は、スタンドの先端を強く踏むと楽に立てることができます。

※4自転車を持ち上げる必要があるときは、リヤチャイルドシート（後幼児座席）のフットレストやグリップバーをもって持ち上げないでください。

④ 保護者は自転車が倒れそうになった場合でも、すぐに手で支えられる位置に立っているようにしてください。



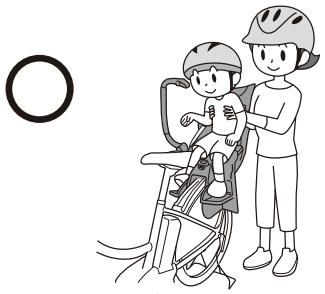
⑤ フロントチャイルドシートのヘッドガードを下げ、シートベルトを外して、年少のお子様から先に、しっかり抱いて降ろしてください。



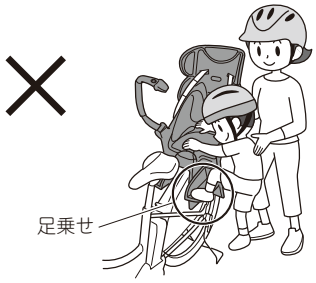
お子様をチャイルドシートから降ろすときは（つづき）

⚠警 告

⑥ 次にリヤチャイルドシートのヘッドガードを下げ、シートベルトを外して、※5年長のお子様をしっかり抱いて降ろしてください。



お子様を抱いて乗せ降ろししてください。
お子様一人でチャイルドシートに乗り降りしないよう注意してください。自転車が倒れる恐れがあります。



足乗せをステップ（踏み台）として使用しないでください。

⑦ お子様のヘルメットは最後に外してください。

※1 「テモトデロック」はハンドルの回転を完全に固定するものではありません。
※2 バランスを崩した際にハンドルグリップから手が離れると、とっさに指をレバーのすき間などに挟むおそれがありますので、ハンドルグリップをしっかり握ってください。
※3 傾いた場所で「テモトデロック」を解除した場合、路面の傾き等により不用意に自転車が動き転倒するおそれがあります。
※4 想定外の負荷により、フットレストやグリップバーが破損する場合があります。
※5 お子様をリヤチャイルドシートから降ろす際は、フッドガード（足のせ部）に強い力を加えないでください。

保管のしかた

⚠警 告

シートベルトは消耗品です。異常がなくても2年に1度は交換してください。（有料）
なお、シートベルトの交換につきましては、ご購入いただいた販売店へお問い合わせください。

⚠注 意

- 駐輪時等で、自転車を持ち上げる必要があるときに、フットレストやグリップバーをもって持ち上げないでください。想定外の負荷により、フットレストやグリップバーが、破損する場合があります。

- チャイルドシートは直射日光をさけて駐輪、保管し、雨ざらしにしないでください。早期劣化の原因となります。
- 雨降り時にはクッションに水が染込むことがあります。クッションが濡れたときは、クッションを乾かしてから使用してください。

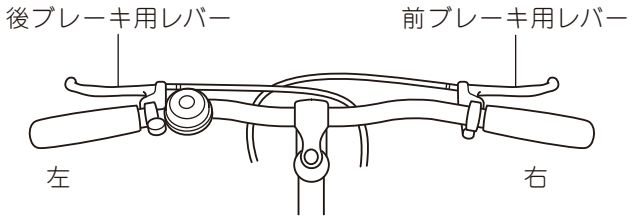
ブレーキ操作のしかた

ブレーキをかける時は、前後ブレーキを両方ともかけてください。

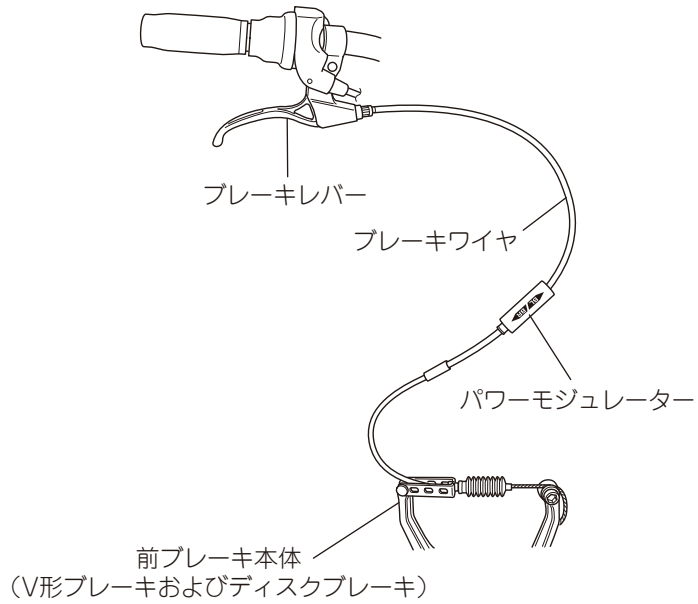
⚠注 意

前ブレーキまたは後ブレーキだけ強くかけると、前輪または後輪がロックして操縦困難になったり、車体後部が持ち上がって転倒するおそれがあります。

できるだけ、急ブレーキはかけないように走行し、日ごろからブレーキのききぐあいを確認しておきましょう。



◆ パワーモジュレーターについて（一部車種の前ブレーキに装着）



⚠注 意

パワーモジュレーターは、ある一定範囲のブレーキレバー入力に対して、ブレーキレバーの引き量を増やすことにより、ブレーキのコントロールをしやすい状態にする装置です。パワーモジュレーターは車輪のロック防止装置ではありません。
パワーモジュレーターの可動範囲を超えた場合には、通常のブレーキとなり、車輪がロックする場合があります。パワーモジュレーターの機能・特性を十分ご理解ご体験の上、ご使用ください。

変速のしかた

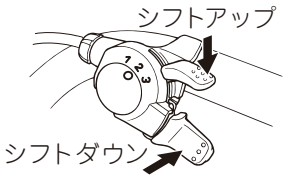
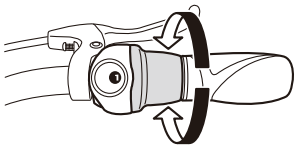
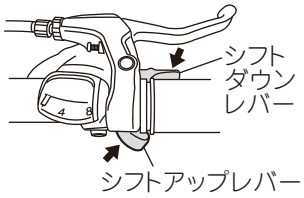
変速機の使い方

変速機は、「走る速さ」や「坂道」「風向き」などの走行条件の変化に応じてギヤ比を変え、ペダルの踏む速さと重さを一定にして、疲れを少なくすることができます。

変速グリップの使いかた

1 **走行中の場合は、ペダルをこぐ足を止めます。**

2 **変速グリップは主に３種類あります。主なシフトレバーの操作方法は次の通りです。**

変速機の種類	内装3段	内装3段 内装5段 内装8段	内装8段
シフトレバーの種類と操作方法	ダブルレバーA型 	グリップシフター型 	ダブルレバーB型 

⚠警　告

- **交通量が少ない場所など安全な状況で操作するようにしてください。**
- **走行中に変速グリップの操作を行う場合は、変速グリップの操作に気をとられて、前方不注意にならないように注意してください。**

要　点

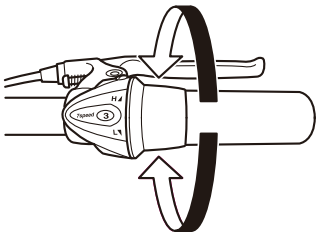
- ペダルをこいでいる状態では変速グリップを操作しても変速できないことがあります。無理に変速グリップを操作すると、異音がしたり変速装置が故障する場合があります。上り坂の手前で変速するようにしましょう。
- 空き地や公園などで充分に練習し、変速操作に慣れておきましょう。

道路状況に合わせて早めに変速することを心がけ、適切なシフト位置で走行するようにしましょう。

変速のしかた

適切なシフト位置

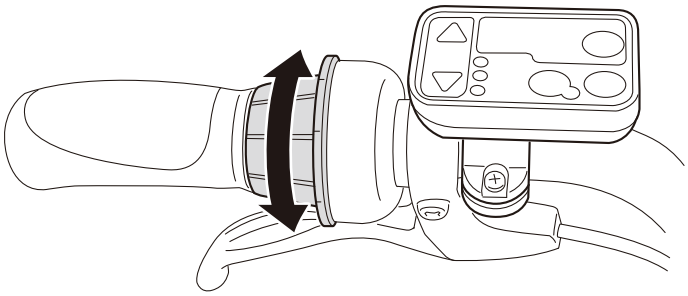
下表は、あくまで参考です。

走行状況の例 （ギヤの重さ）		スタート時、低速走行時、 上り坂、向かい風 （軽くしたいとき） ←	高速走行時、 下り坂、追い風 （重くしたいとき） →
シフト位置 （シフトレバーの表示） 	3段	軽　　中　　速 1（スタート）　2　3	
	5段	1　2　3　4　5	
	8段	1　2　3　4　5　6　7　8	

グリップ式ベルの使い方（グリップ式ベル装着車のみ）

グリップ式ベルの使い方

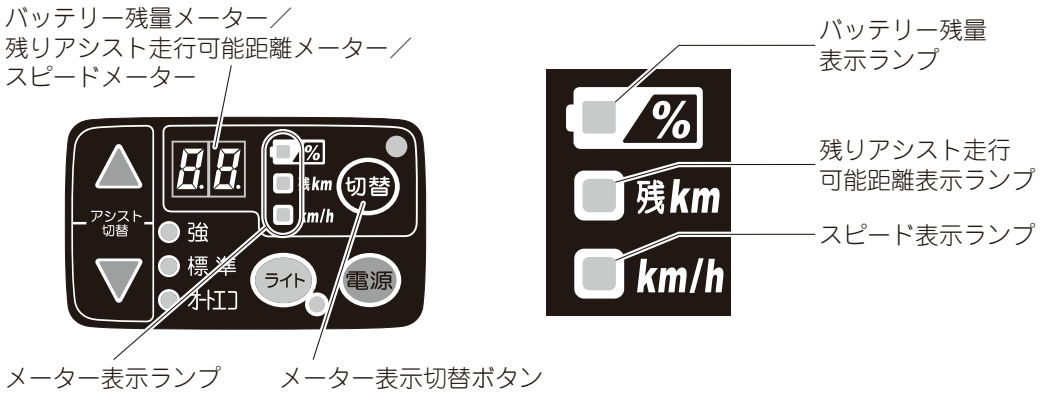
グリップ式ベルはハンドルの左側に装着されています。
グリップを回すとベルが鳴ります。



メインスイッチのメーターについて

バッテリー残量メーター／残りアシスト走行可能距離メーター／スピードメーターの表示と切替

バッテリー残量メーター、残りアシスト走行可能距離メーターまたはスピードメーターのいずれかを表示することができます。
バッテリー残量メーターはバッテリー残量の目安を、残りアシスト走行可能距離メーターはバッテリー残量でアシスト走行ができる距離（キロメートル）の目安を表示します。また、スピードメーターは走行速度（時速）を表示します。メーター表示切替ボタンを押すごとに、メーターの表示が切り替わり、バッテリー残量表示ランプ、残りアシスト走行可能距離表示ランプまたはスピード表示ランプのいずれかが点灯します。
バッテリー残量の目安については「バッテリー残量の確認」をご参照ください。（P51～P52）



⚠警　告

メーター表示の切替の操作は走行中でも行えますが、前方不注意にならないようにしてください。

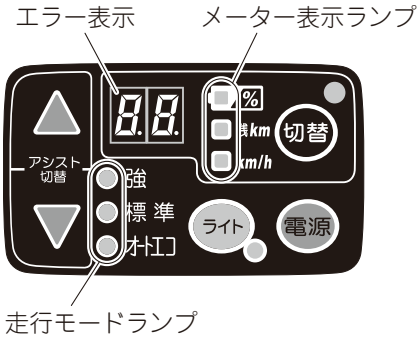
要　点

- 残りアシスト走行可能距離は、走行状況（坂道、向かい風など）やバッテリーの劣化状況によって変化します。
- 残りアシスト走行可能距離が表示された状態でアシストモードを切り替えると、アシスト走行ができる距離の目安は変化します。
- 残りアシスト走行可能距離は1km単位で表示します。残りアシスト走行可能距離表示が“0”であっても、バッテリー残量が残っている場合はアシストします。
- スピード表示しているときにバッテリー残量が20%、10%、0% になった場合は、メーター表示は自動的にバッテリー残量メーターに切り替わります。

メインスイッチのメーターについて

自己診断機能

電動アシスト自転車には、電動アシストシステムの自己診断機能を装備しています。
メインスイッチの電源を入れたとき、電動アシストシステムに故障や異常があれば異常表示または異常点滅をして異常をお知らせします。
異常表示・異常点滅の種類や対処方法については「メインスイッチが異常表示･異常点滅する」をご参照ください。（P105）



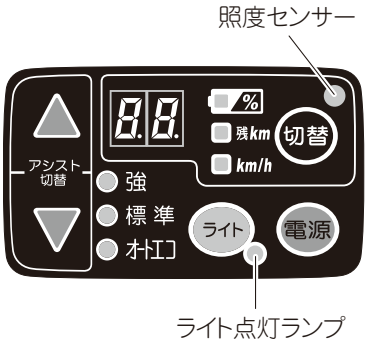
⚠警 告

異常表示がおきたときには、すみやかに対処方法をご実施ください。対処方法を実施してもなお同じ症状がでる場合は、ご使用を止め、販売店で点検をお受けください。

前照灯について

オートライトシステム（前照灯の自動点灯・自動消灯）

この電動アシスト自転車はオートライトシステムを装備しています。
照度センサーが周囲の明るさ（照度）を検出し、前照灯が自動で点灯・消灯します。前照灯が点灯しているときは、ライト点灯ランプも点灯します。



⚠警 告

前照灯が点灯した状態でバッテリー残量が減少しアシスト走行ができなくなると、前照灯はしばらくしてから消灯します。バッテリー残量が充分あることをご確認の上ご使用ください。

⚠注 意

前照灯の取付角度を左右に調整することはできません。無理に曲げたりして調整しないでください。破損の原因となります。

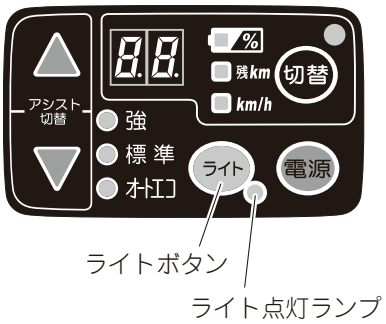
要 点

- 照度センサーについた汚れはこまめにふき取ってください。照度センサー部が汚れていると、周囲の明るさ（照度）を検出しにくくなり、周囲が明るくても前照灯が点灯することがあります。
- 照度センサーをカバーなどで覆うと、周囲の明るさ（照度）を検出できないため、オートライトシステムが正常に作動しません。
- 電源が切れているときは、オートライトシステムは作動しません。
- アシストをオフにした状態で前照灯を使用して走るときや、押し歩きをしながら前照灯を使用するときは、電源を切らずに走行モードをアシストオフモードに切り替えてください。電源を切ると、オートライトモードが作動しません。
- 前照灯が点灯しているときに電源ボタンを押して電源を切ると、前照灯は消灯します。
- 前照灯の取付角度を上下に調整する必要がある場合は、販売店にご相談ください。

前照灯について

前照灯の手動操作

ライトボタンを押すごとに、前照灯が点灯と消灯を繰り返します。前照灯が点灯しているときは、ライト点灯ランプも点灯します。



⚠警 告

前照灯が点灯した状態でバッテリー残量が減少しアシスト走行ができなくなると、前照灯はしばらくしてから消灯します。バッテリー残量が充分あることをご確認の上ご使用ください。

要 点

- 手動操作で前照灯を点灯または消灯させた場合、メインスイッチの電源を切り、再度電源を入れるまでオートライトシステムは無効になります。
- 電源が切れているときは、ライトボタンを押しても前照灯は点灯しません。
- アシストをオフにした状態で前照灯を使用しながら走るときや、押し歩きをしながら前照灯を使用するときは、電源を切らずに走行モードをアシストオフモードに切り替えてください。
- 前照灯が点灯しているときに電源ボタンを押して電源を切ると、前照灯は消灯します。

荷物の積載

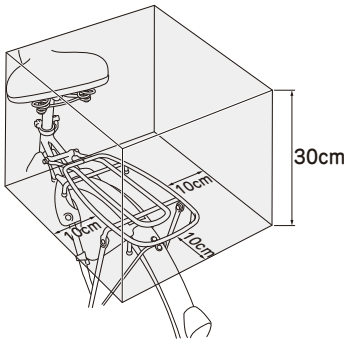
荷物の積みすぎには注意しましょう

本電動アシスト自転車の最大積載重量（乗員の体重と積載重量の合計）は90kgです。また、フロントバスケットおよびリヤキャリヤそれぞれの最大積載重量と積載物の大きさの限度は下表のとおりです。
荷物を積みすぎるとアシスト走行時にバッテリーに過大な負荷をかけてしまいアシスト走行可能な距離が短くなる可能性があります。また、常に重い荷物を積んだ状態で走行しているとタイヤなどの部品の消耗が早くなる場合があります。

● **荷物の積載条件**

・荷物の重量

最大積載重量	フロントバスケット	3kg（荷物のみ積載可能）
	リヤキャリヤ	27kgまで ※この自転車には、MAX27kg表示のリヤキャリヤが標準装備されています。 ※バスケットを装着する場合、バスケットの重量と荷物の重量の合計が27kg以下となる範囲内でご使用ください。



・荷物の大きさ

大きさの限度	フロントバスケット	バスケット内に収まる大きさまで	
	リヤキャリヤ	幅	リヤキャリヤの左右それぞれ10cmまで
		長さ	リヤキャリヤの後端から10cmまで
		高さ	リヤキャリヤ積載面から30cmまで

※積載可能な荷物の大きさはフロントバスケットまたはリヤキャリヤを装着した場合に適用します。

⚠警 告

- **荷物の大きさや重さが表の内容を超えて積載すると、自転車の安定性が損なわれ、転倒・事故を起こすおそれがあります。表の内容を超えないでください。**
- **積載条件を超えない荷物でも、通常より重い荷物を積載するときは、荷物を積まない場合や子供を同乗していない場合に比べて、操舵性や制動性能が異なります。安全の確保できる場所で、十分練習してから乗車しましょう。個人差がありますので、積載可能な条件の範囲であっても、運転に不安を感じる場合は使用しないでください。**
- **フロントバスケットまたはリヤキャリヤに荷物を積むときは、左右のバランスをとって積んでください。また、荷物がずれたり動いたりしないよう、しっかりと固定してください。荷物が動くと走行が不安定になり、転倒などの事故につながるおそれがあります。**
- **リヤキャリヤに荷物を積む時は、固定用のひも・ベルトでしっかりと固定し、ひも・ベルトがたるまないようにしてください。（車輪への巻き込み防止）**
- **個人差があるため、表に記載の積載条件内の場合でも、運転に不安を感じた場合は、そのまま使用しないでください。**

荷物の積載

荷物の積みすぎには注意しましょう（つづき）

⚠注 意

- 空荷や幼児を同乗していない場合の制動時は、荷物積載時等に比べて、操舵性や制動性能が変化します。（予め安全な場所で制動力の違いを確認してからご使用ください）
- 荷物を積載するときは、フロントバスケット、リヤキャリヤ以外は使用しないでください。
- 幼児を同乗させると、同乗させていない場合と同じ要領でブレーキを操作をしても自転車が停止するまでの距離が延びますので、十分に注意してください。

チャイルドシートについて

- フロントチャイルドシート

チャイルドシートの取り付け可否	○（装着可） ※体重：15kg以下、身長：100cm以下のお子様用のチャイルドシートが取り付け可能

- リヤチャイルドシート

標準装備のリヤキャリヤのクラス	MAX27kg表示 最大積載重量：27kg
チャイルドシートの取り付け可否	○（装着可） ※体重：22kg以下、身長：115cm以下のお子様用のチャイルドシートが取り付け可能。但し、チャイルドシートとお子様の体重、お子様の着衣、荷物等の合計が27kg以下の範囲でご使用できます。

⚠警 告

- 標準装備よりも大きな容量のリヤキャリヤに取り替えても、自転車の積載条件は表記のとおりです。表記条件を超える、荷物を積載したりお子様を同乗させると、走行安定性が損なわれ、転倒・事故を起こす恐れがあります。表記の内容を超えないでください。
- 当社推奨のオプション品を必ずご使用ください。

⚠注 意

- チャイルドシートにより適正使用条件は異なりますので、取り付けるチャイルドシートの取扱説明書を必ずご確認ください。
- この自転車に同乗できるお子様は2名までです。

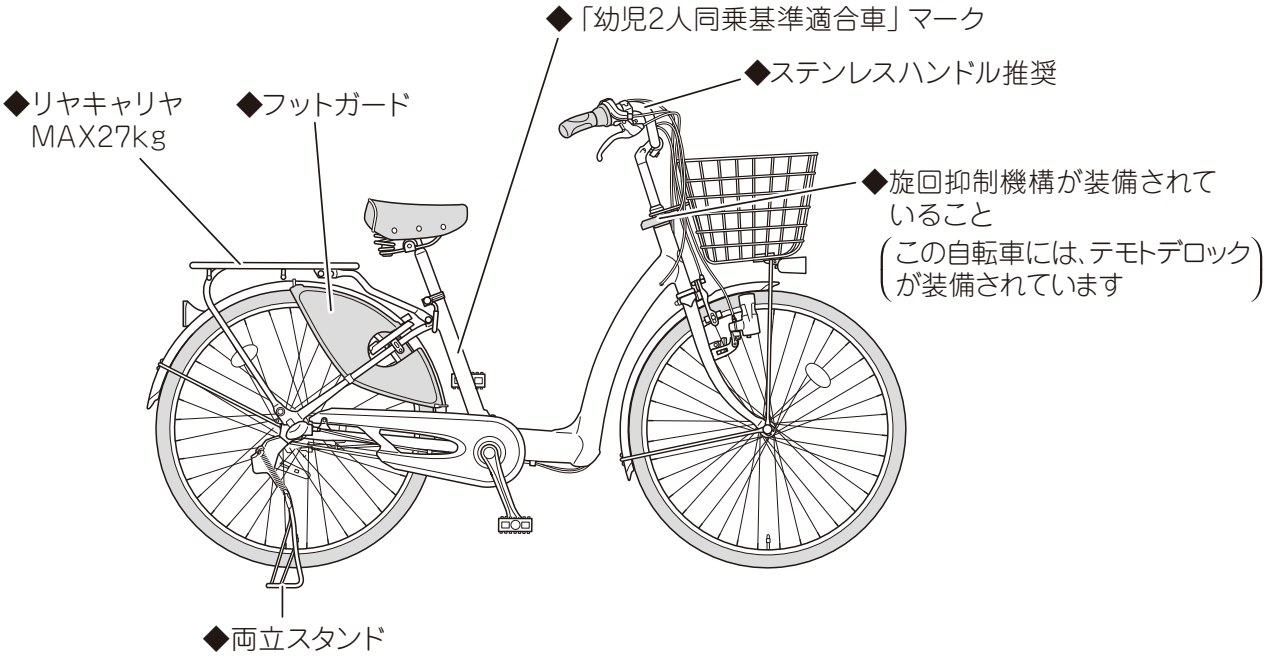
チャイルドシートについて

チャイルドシート取り付けの条件

幼児2人を同乗させる場合は、「幼児2人同乗基準適合車」マークが貼られた自転車に、弊社指定のチャイルドシートを装着していただくことが、条件となっています。

自転車

- 両立スタンドが装備されていること。
  （乗せ降ろし時の安定のため）
- フットガードが装着されていること。
  （車輪への巻き込み防止のため）
- 幼児2人を同乗される場合は「BAAマーク」の下に、「幼児2人同乗基準適合車」マークが車体に貼られていること。
  （この自転車には「幼児2人同乗基準適合車」マークが貼られています。）



←「BAAマーク」

←「幼児2人同乗基準適合車」マーク

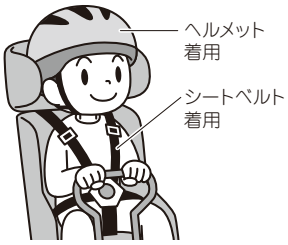
＊ チャイルドシートとお子様の重量の合計が27kg以下までご使用できます。

チャイルドシートについて

別売品、標準搭載品どちらのチャイルドシートをご使用の時も、次の点にご注意ください
※チャイルドシートは車体専用設計になっております。装着する際は販売店にご相談ください。

⚠警 告

取り付けの前に下記条件を満たしているかご確認ください。



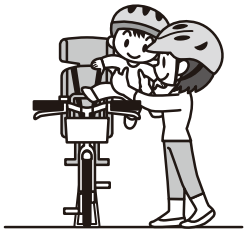
- 両立スタンドが装備されていること。（乗せ降ろし時の安定のため）
- リヤチャイルドシートを使用する時はフットガードを必ず装着してください。（車輪への巻き込み防止のため）
- チャイルドシートが確実に自転車に固定され、破損していないことを確認してから使用してください。
- 不意の衝突や転倒の衝撃からお子様を守るため、同乗させるお子様には必ず自転車用の幼児用ヘルメットを着用させてください。
- お子様を同乗させる場合、車輪などの可動部やサドルのバネに触れさせないでください。車輪に巻き込まれたり、バネに挟まれてけがをするおそれがあります。
- チャイルドシートは、適正な取り付けのため、自転車販売店で取り付けてください。
- チャイルドシートの取扱説明書をよく読んでご使用ください。
- チャイルドシートを装着し、お子様を同乗すると、車体にふらつきが出てハンドルをとられやすくなるため、自転車に乗りなれてからの同乗をおすすめします。

⚠警 告

お子様を同乗させて段差の乗り上げや、段差を下りたりすると、段差走行時の衝撃でバランスを崩して転倒する危険があります。やむをえず乗車して走行する場合は、ハンドル操作等に十分に注意をしてください。

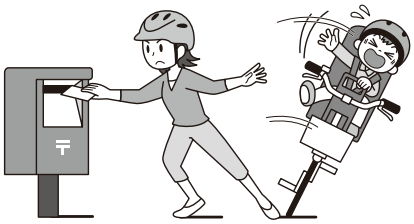
(!) 強 制

- シートベルトを着用して、お子様がチャイルドシートから落ちないようにしてください。
- お子様の乗せ降ろしは地面が平らな場所で行ってください。
- お子様には靴をはかせてチャイルドシートに乗せてください。



⊘ 禁 止

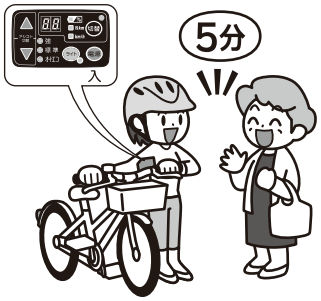
お子様を乗せた自転車が倒れると、お子様が地面にぶつかり、けがの危険がありますので、決してお子様を乗せたまま駐車したり、自転車から離れないでください。



アシストが作動しない環境

こんなときは電動アシストシステムは作動しません。

- 時速24km以上のスピードで走っているとき
- ペダルをこがないとき
- バッテリー残量がなくなったとき
  （メインスイッチのバッテリー残量メーターの0の表示が速い点滅をしてお知らせします。）
- メインスイッチの電源を入れても、ペダルに踏力をかけずに自転車が停車した状態が5分以上継続したとき。【自動電源オフ機能】
  ※ただし、ペダルに踏力がかかっていない状態であっても、自転車を押して歩くなど、自転車が動いていれば電源は切れません。
  ※自動電源オフ機能が作動した後でもメインスイッチの電源ボタンを押すと、再び電源が入ります。



駐輪のしかた

1 **自転車を停車させます。**
自転車が完全に停止してから、ブレーキを握ったままゆっくりと降車し、平坦で安定のよい場所に自転車を停車させます。
サドルまたはリヤキャリヤをもってスタンドを立て、ロックをかけます。

⚠警 告

駐輪するときは、平坦で硬い路面に駐輪してください。また、駐輪後に自転車から離れるときは、自転車が安定して動かないことを確認してください。
傾いた路面や、砂利などの柔らかな路面に駐輪すると、自転車が動き出したり、転倒したりして事故につながるおそれがあります。

⚠注 意

- **走行直後のブレーキドラム部に手を触れないでください。**
  ブレーキを頻繁に使用した場合、ドラム部が高温になることがあります。
- **スタンドを立てたら、必ずロックレバーがかかっていることを確認してください。**
- **自転車ラック（駐輪ラック）へ駐輪する場合は、駐輪レーン上の車輪止めの形状によって、スピード（車速）センサーが車輪止めに接触し、スピード（車速）センサーが変形したり破損するおそれがあります。接触する場合は、駐輪レーン付自転車ラックのご利用はお控えください。**

2 **メインスイッチの電源を切ります。**
メインスイッチの「電源」ボタンを押して、電源を切ります。

要 点

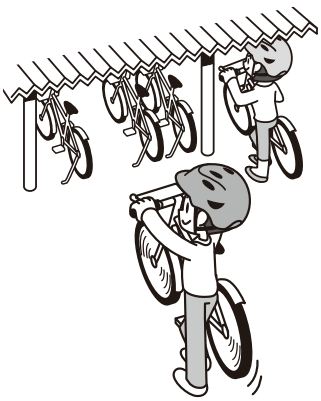
電動アシスト自転車は前進に比べ後進時はわずかに重くなります。

3 **後輪錠をかけましょう。**
駐輪時や保管時には、盗難予防のために必ず後輪錠をかけましょう。

要 点

駐輪は必ず決められた場所へ

- 駐輪は、歩行者や自動車の迷惑にならない場所を選びましょう。
- 駐輪禁止の場所には停めないでください。
- 駐輪時は盗難予防のため、必ず後輪錠をかける習慣をつけましょう。
- 予備キーは紛失しないように別の場所に大切に保管してください。



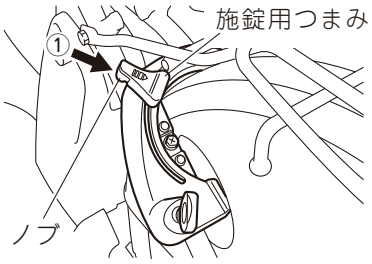
メインスイッチの電源は切ってください

- メインスイッチの切り忘れは、バッテリーの放電をはやめます。このため次回乗車時に充電不足により電動アシストシステムが作動しなくなることがあります。

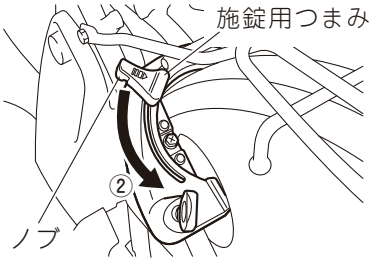
後輪錠の使いかた

かけかた

1 **施錠用つまみのノブを①の矢印の方向へ押します。**



2 **ノブを押しながら、施錠用つまみを②の方向へ「カチッ」と音がするまで押し下げてロックします。**

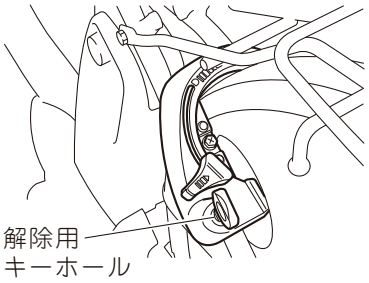


要　点

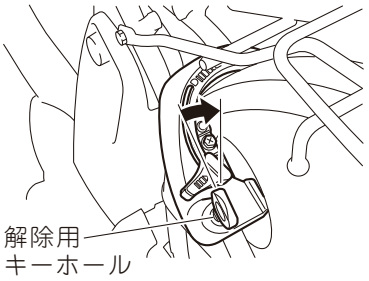
施錠後はキーを抜き取りましょう。

解除のしかた

1 **キーを解除用のキーホールに差し込みます。**



2 **ロックが解除される（施錠用つまみが上がる）まで、キーを右にひねります。**



⚠注　意

後輪錠を施錠したまま、スタンドを上げたり、自転車を無理に動かさないでください。後輪錠やスポークが破損するおそれがあります。

要　点

解除したらキーは抜けません。キーを付けたまま走行してください。

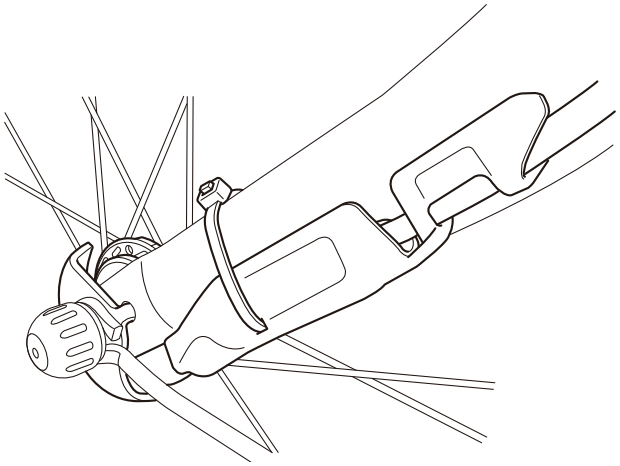
スペアキーについて

(!) 強　制

スペアキーは大切に保管してください。また、キーNo.は控えてください。
（スペアキーをご注文する時にキーNo.が必要になります）

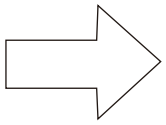
S.P.E.C.3／スピード(車速)センサーについて

この電動アシスト自転車は、変速機の変速位置ごとに最適なアシスト力を供給する独自のアシスト制御機能[S.P.E.C.3](スペックスリー／Shift Position Electric Control × 内装3段変速)を装備しています。
[S.P.E.C.3]は、前輪に取り付けられているスピード(車速)センサーにより走行速度を検出し、モーター回転数との関係から選択している変速位置を読み取っています。
そして走行速度からアシスト力を出力するように設定していますので、どの変速位置で走行していても、最適なアシスト力が発揮されます。

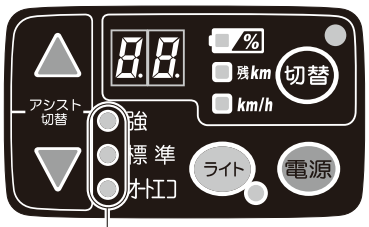


S.P.E.C.3／スピード(車速)センサーが正しく機能できていない場合

走行するとメインスイッチのモードランプ(「強」「標準」「オートエコ」のいずれか)が点滅し、アシスト力が弱くなります。



販売店にご相談ください



モードランプ(「強」「標準」「オートエコ」のいずれか)が点滅

お手入れのしかた

各部のお手入れ

⚠注 意

水洗いについて

電動アシスト自転車は日常防水性能を備えていますが、スチーム洗車をしたり水道ホースでの洗車など直接圧力のかかることはしないでください。直接電動アシストシステム部やバッテリー部にかけると、すきまから電動アシストシステム構成部品の内部に水が入り、故障の原因となることがあります。万一、電動アシストシステム機構が水に浸かった場合は、販売店で点検を受けるようにしましょう。

● **金属部のお手入れ**

スポークなどの金属部は、防錆剤を布に吹きつけてふきます。

⚠警 告

ブレーキの制動面やタイヤ、リムなどに防錆剤やワックスなどの油脂類を付着させないでください。油脂類が付着するとブレーキのききが悪くなり、衝突・けがのおそれがあります。

● **フレームなどの金属塗装部のお手入れ**

金属製の塗装された部分は、汚れをしっかり取り除き乾いたタオルに少量のワックスをつけてみがきます。油は光沢をなくしますので、塗装部にはつけないでください。

⚠注 意

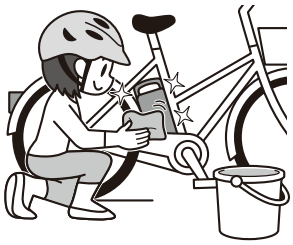
タイヤ・ブレーキシューなどのゴム類には絶対にワックスを付着させないでください。（ワックスなどでタイヤをみがくとヒビ割れの原因となります。）

● **バッテリー部のお手入れ**

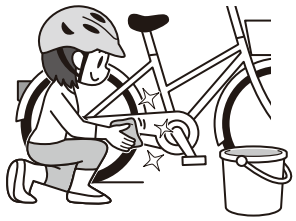
バッテリーケースの汚れは、水を含ませ固く絞ったタオルなどでふき取るようにしましょう。
ホースなどで直接水をかけたりしないでください。

⚠注 意

底部の接点をヤスリで磨いたり、針金などでそうじしないでください。故障の原因となるおそれがあります。



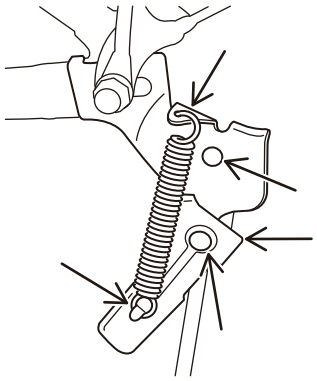
各部のお手入れ（つづき）



● **樹脂カバー類のお手入れ**
樹脂製のカバー類は、水を含ませ固く絞ったタオルなどで汚れを取り除きます。

⚠注 意

ガソリン、灯油、アルカリ性および強酸性のクリーナー、その他の溶剤などを付着させないでください。ヒビ割れなどの原因になります。



● **スタンドのお手入れ**
矢印の部分に定期的に注油を行い、スタンドのロック動作を確認するようにしてください。

⚠注 意

泥やほこりが付着したり、油が切れてきますと、自動ロックなどの動作が鈍くなることがあります。

● **アルミ製リムのお手入れ**
アルミ製リムに泥や砂が付着したら、ふき取ってください。（油など汚れのない布を使用してください。）

⚠注 意

アルミ製リムはステンレス製リムに比べて傷つきやすいので、泥や砂が付着したままだと、ブレーキ作動時にリムが削れたり、リムが汚れやすくなります。

お手入れのしかた

お手入れのしかた

⚠警 告

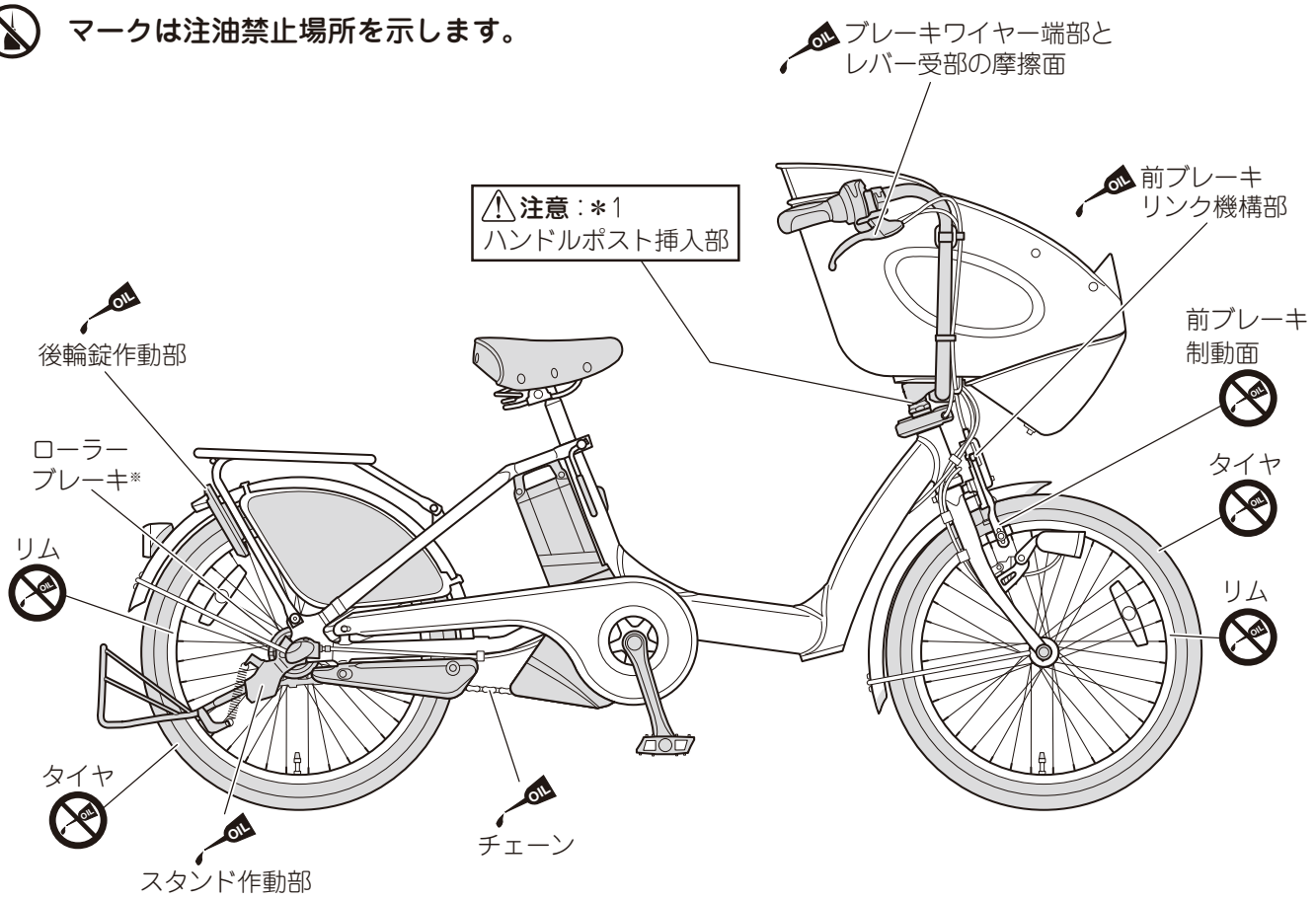
ブレーキの制動面やタイヤ、リムには注油しないでください。ブレーキが効かなくなり、衝突・けがのおそれがあります。

⚠注 意

- **注油は決められた場所に少量を注油します。多すぎると、ホコリを付着させ、故障の原因になります。**
- **注油は自転車用油を使用してください。食用油は使用しないでください。**

マークは注油場所を示します。（1～2か月に1回程度）

マークは注油禁止場所を示します。



※ローラーブレーキは販売店で専用グリスの補給が必要です。（P107）

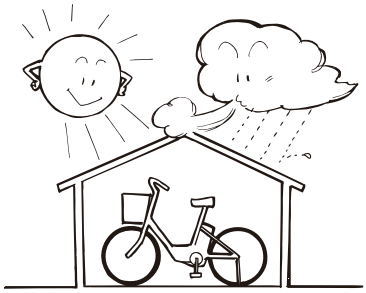
⚠注意：● 樹脂部品や塗装部品に、シンナー・ベンジンなどの有機溶剤やガソリンなどの石油類薬品、酸性・アルカリ性の洗剤などは使用しないでください。変形、変色や、ひび割れ、塗装がはがれることがあります。

＊1 ハンドルポスト挿入部には、潤滑剤（浸透性の油）を注油しないでください。固定力が低下してハンドル操作できなくなるおそれがあります。但し錆びによる固着防止のために、挿入部にグリスを薄く塗布するのは可能です。

保管のしかた

日々の保管のしかた

● **保管場所は慎重に選びましょう。**
- 平坦で安定のよいところ
- 風通しがよく、湿気のないところ
- 雨つゆや直射日光が当たらないところ



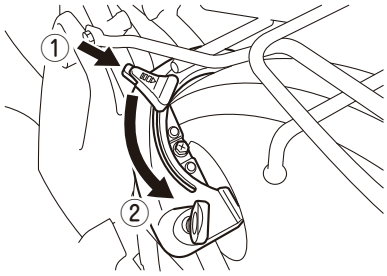
● **メインスイッチの電源を切っておきましょう。**

⚠注 意

メインスイッチの切り忘れは、バッテリーの放電をはやめます。このため次回乗車時に充電不足により電動アシストシステムが作動しなくなることがあります。

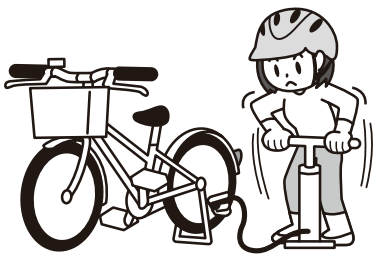
● **後輪錠をかけましょう。**
保管するときは、いたずらや盗難を予防するために必ず後輪錠をかけましょう。（P94）

後輪錠



● **電動アシスト自転車にカバーをかけましょう。**
保管するときは、ほこりや水を防ぐために専用サイクルカバー（別売）をかけましょう。

● **タイヤに充分な空気を入れましょう。**
保管するときは、タイヤの傷みを防ぐために充分な空気を入れましょう。

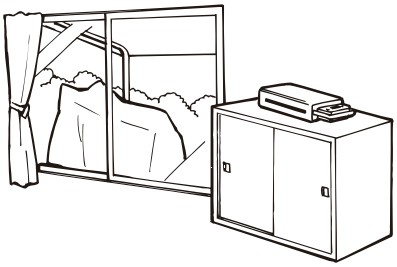


保管のしかた

長期間保管するときのバッテリーの取り扱い

長期間（1か月以上）電動アシスト自転車を使用しないときは、以下の要領でバッテリーを保管してください。

● 車両から取り外し、室内の涼しく（15～25℃）
湿気のない場所で保管してください。



⚠注 意

車両から取り外しておく場合、車両側のバッテリー装着部にほこりなどが付着しないよう、また端子などに水滴がついて錆びないように、サイクルカバー（別売り）をかけましょう。

● バッテリーの残量を1～2灯の状態にして保管ください。

● 月に一度はバッテリー残量を確認してください。
1灯点滅になっていれば10分程度充電し、残量が著しく低下しないようにしてください。

要 点

● バッテリーは「満充電（F）」または「空（E）」の状態で放置すると劣化が早まります。
● 保管時も自己放電によりわずかずつ放電し、容量が低下します。

長期間保管して再使用するとき

長期間（1か月以上）保管して再び使用する場合は、使用する前日に必ず充電をしてから乗るようにしましょう。（通常の充電よりも若干時間がかかる場合があります。）
また6か月以上保管して再び使用する場合は、販売店で点検・整備（有料）をお受けになってからご使用ください。

自転車を廃棄するとき

● **自転車を廃棄するときは、各地区のゴミ分別や回収のルールに従ってください。**
● **バッテリーは資源リサイクル可能です。寿命がきて使用済みになったバッテリーは販売店で回収・リサイクルしてもらってください。**

もしもこんなときは

ペダルが重い・アシストしない

症状および確認内容	対処方法	ページ
メインスイッチの電源は入っていますか？	電源を入れてください。	57
オートエコモードプラスになっていませんか？	オートエコモードプラスの特徴です。平らな道や下り坂など、ペダルを踏む力が弱くなると、アシストが停止します。 ⇒ 必要に応じて標準モードまたは強モードに切り替えてください。	54
アシストオフモードになっていませんか？	アシストオフモードの特徴です。アシストは停止しています。 必要に応じて走行モードを切り替えてください。	54 55
バッテリーは確実に取り付けられていますか？	充電済のバッテリーを確実に取り付けてください。	33
バッテリー残量メーターは0（ゼロ）の速い点滅をしていませんか？	バッテリーの容量が0（ゼロ）です。充電をしてください。	52
タイヤの空気圧が低くありませんか？	自転車用空気入れを使用し、適切な空気圧まで空気を入れてください。	41
メインスイッチの電源を入れてから、停車したまま5分以上ペダルに踏む力をかけない状態が続いていませんか？	自動電源オフ機能が作動しました。再度、電源を入れなおしてください。	57
気温が高いところで使用していませんか？ または走行負荷が大きい走りかた（長い坂道や重い荷物を積載）をしていませんか？	バッテリーまたはドライブユニットの温度が上がったための制御で、異常ではありません。温度が下がれば回復します。電動アシスト自転車への負荷を軽くし、バッテリーやドライブユニットを少し休ませてから再度使用してください。 ⇒通常使用している変速位置よりシフトダウンしてご利用いただくと、症状がでにくくなります。（例：<2速>→<1速>）	81
気温が低いところで使用していませんか？	気温が暖かくなると回復します。また、バッテリーを温度が15～25℃の室内で保管しておいて使用すると、この症状を軽くすることができます。	—
メインスイッチが異常表示や異常点滅をしていませんか？	「メインスイッチが異常表示・異常点滅する」をご参照ください。	105

ペダルが重い・アシストしない（つづき）

症状および確認内容	対処方法	ページ
走行中にメインスイッチの表示が全て消灯した。	電動アシストシステム内部のトラブルが考えられます。ご使用を止め、販売店で点検をお受けください。	—
電源ボタンを押しても電源が入らない。		

走行距離が短い

症状および確認内容	対処方法	ページ
バッテリーは満充電されていますか？	満充電になるまで充電してください。 バッテリーが十分充電できていないと、走行距離が短くなります。ただし、バッテリーが満充電されていてもバッテリー寿命によってバッテリー容量が低下している場合は、走行距離が短くなります。	35 53
タイヤの空気圧は適正ですか？	適正な空気圧になるようにタイヤに空気を充填してください。 タイヤの空気が減っていると、走行抵抗が大きくなり、走行距離が短くなります。	41
重い変速位置ばかりの使用や、坂道での連続使用をしていませんか？	平地、坂道等の走行条件に合った走行モードと変速シフト位置でご利用ください。 高負荷運転となり、バッテリー消費が早くなります。	54
温度が高いところや低いところで使用していませんか？	気温が適温（15～25℃）になると回復します。 真夏や真冬はバッテリー性能が落ちることがあります。 特に冬場は使用される直前まで、バッテリーを室内などの温かい場所に保管されることをお勧めします。	23
車輪はスムーズに回りますか？	乗車前点検を実施し、調整が必要な場合は、お買い上げ販売店にご相談ください。 前後ブレーキが掛かった状態など、車輪がスムーズに回らない場合は、走行抵抗が大きくなり、走行距離が短くなります。	38～50
信号や交差点等、発進、停止を多く繰り返していませんか？	発進時には大きな電力を使用するため、バッテリー消費が早くなります。	—

走行距離が短い（つづき）

症状および確認内容	対処方法	ページ
バッテリーが劣化していませんか？	一充電当たりの走行距離が著しく短くなり、回復する兆しがない、また上記に該当しない場合は、バッテリー交換時期といえます。バッテリーを交換してください。	24～25

充電できない

症状および確認内容	対処方法	ページ
電源プラグはしっかり接続されていますか？　また、バッテリーは確実に接続されていますか？	もう一度、接続をやりなおして充電してください。	34
充電器の充電ランプは点灯していますか？	もう一度、接続をやりなおして充電してください。	34
バッテリーのバッテリー残量ランプは点灯していますか？		
充電中に、充電器の充電ランプが緑色に点滅し、バッテリーのバッテリー残量ランプが4灯同時に点滅する。 ● 緑ランプ点灯・・・・・充電中 充電完了後に自動消灯 ● 緑ランプ点滅・・・充電待機 ● 赤ランプ点滅・・・・・・異常	故障ではありません。バッテリー内部の温度が過度に高いか、または過度に低くなっていて、充電待機の状態です。バッテリー内部温度が充電に適した温度になると充電が開始されます。	35
バッテリーを充電器に接続したとき、充電器の充電ランプが緑色に点滅し、バッテリーのバッテリー残量ランプの1灯目が点滅する。 ● 緑ランプ点灯・・・・・充電中 充電完了後に自動消灯 ● 緑ランプ点滅・・・充電待機 ● 赤ランプ点滅・・・・・・異常	故障ではありません。充電開始前の準備状態です。しばらくすると充電が開始されます。	35

もしもこんなときは

異音・異臭あるいは煙がでる

症状および確認内容	対処方法	ページ
電動アシスト機構から普段と異なる音や異臭、煙がでる。	ご使用を中止してただちにメインスイッチの電源を切り、販売店で点検をお受けください。	—
充電器から異音や異臭、煙がでる。	充電を中止してただちに充電器の電源プラグを抜き、販売店で点検をお受けください。	34

充電器が熱い

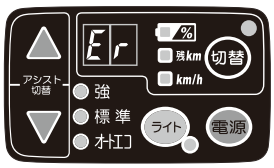
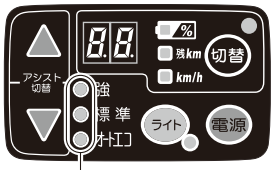
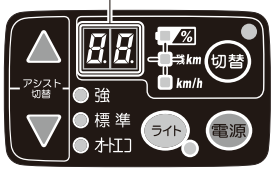
症状および確認内容	対処方法	ページ
手で触れることができる程度。	充電中は多少の熱(約40～60℃)を持ちますが、故障ではありません。	—
手で触れることができないほど熱い。	使用を中止してただちに充電器の電源プラグを抜き、販売店で点検をお受けください。	—

バッテリー残量メーター／バッテリー残量ランプが表示しない

症状および確認内容	対処方法	ページ
アシストはするが、メインスイッチのバッテリー残量メーターが消灯している。	バッテリーを取り外し、バッテリーの接続端子を乾いた布や綿棒で清掃してください。清掃後、バッテリーを取り付けてください。	32
充電したが、メインスイッチのバッテリー残量メーターが“FL”表示しない。	メーター表示切替ボタンを押して、バッテリー残量メーターに切り替えてください。	84
	温度が15～25℃の室内で、もう一度充電してください。	23
充電終了後、バッテリーのバッテリー残量表示ボタン“☝”を押してもバッテリー残量ランプが全部点灯しない。	再度、接続しなおして充電してください。 ⇒ 充電の途中で、電源プラグまたはバッテリーが抜けたおそれがあります。	34
バッテリーのバッテリー残量表示ボタン“☝”を押してもバッテリー残量ランプが表示しない。	故障ではありません。新品または長期保管されたバッテリーは、バッテリーのバッテリー残量表示ボタン“☝”を押しても表示しません。充電すると表示します。	—

もしもこんなときは

メインスイッチが異常表示・異常点滅する

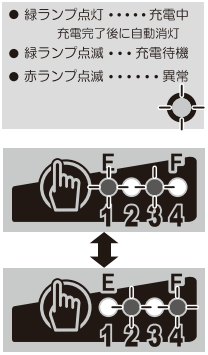
症状および確認内容		対処方法	ページ
	バッテリー残量メーターが“Er”と表示する。	エラー信号または電動アシストシステム内部のトラブルが考えられます。 自動的に全てのランプ類が消灯するまで5分間放置してください。消灯を確認した後、再度電源を入れてください。 電源を入れなおしても同じ症状がでる場合は、ご使用を止め、販売店で点検をお受けください。	85
	走行モードランプとメーター表示ランプが交互に速く点滅する。		
 走行モードランプ	選択されている走行モードランプが点滅する。	スピード（車速）センサーが正しく信号を検出できない状態が続くと点滅します。 しばらく走行を続けるか、電源を入れなおしてください。 同じ症状がでる場合は、ご使用を止め、販売店で点検をお受けください。	85
消灯 	残りアシスト走行可能距離メーターが消灯する。	アシストオフモードになっていませんか？ アシストオフモードの特徴であり故障ではありません。	55

バッテリー残量ランプが異常表示・異常点滅する

症状および確認内容		対処方法	ページ
 4灯同時速い点滅 <0.1秒間隔>	バッテリーを充電器に接続してから約2秒間、バッテリー残量ランプが4灯同時に速く点滅（約0.1秒間隔）し、その後充電中の表示に切り替わる。	故障ではありません。長期使用のお知らせ機能が作動しています。引き続きお使いいただけますが、一充電あたりの走行距離が短く、アシスト力が弱く感じる場合はバッテリーの交換時期です。販売店でバッテリーを交換してください。	24

もしもこんなときは

充電中にランプが異常点滅する

症状および確認内容		対処方法	ページ
	充電中に、充電器の充電ランプが赤色で点滅し、バッテリーのバッテリー残量ランプ1灯目と4灯目が同時に点滅する。	保護機能が作動して使用できない状態になっています。販売店でバッテリーを交換してください。	—
	充電中に、充電器の充電ランプが赤色で点滅し、バッテリーのバッテリー残量ランプ1灯目と3灯目、2灯目と4灯目が点灯し、交互に点灯と消灯を繰り返す。	接続端子の接触不良が考えられます。 バッテリーを一旦充電器から取り外し、端子部分を清掃してから再度充電器へセットしてください。 同じ症状がでる場合は、ご使用を止め、販売店で点検をお受けください。	—

オートライトシステムが作動しない

症状および確認内容	対処方法	ページ
メインスイッチの電源は入っていますか？	電源を入れてください。	86
照度センサーが汚れていませんか？	照度センサーの汚れをふき取ってください。	
照度センサーをカバーなどで覆っていませんか？	照度センサーが周囲の明るさ（照度）を検出できないため、オートライトシステムが正常に作動していません。照度センサーを覆っているものを取り除いてください。	
ライトボタンを押しましたか？	故障ではありません。ライトボタンを押して前照灯を点灯または消灯させた場合、メインスイッチの電源を切り、再度電源を入れるまでオートライトシステムは無効になります。	

もしもこんなときは

スマートコントロールブレーキ（前ブレーキ）

症状および確認内容	対処方法	ページ
● ブレーキの効きが異常に弱すぎる。		
ブレーキシューが磨耗している。	ブレーキシューの山の残りが1mm以下になっていたら、販売店でシューの交換を行ってください。	—
ワイヤーに異物が引っかかり、屈折している。	異物を取り除いて、ワイヤーの曲がりを取ってください。	—
泥の付着等によりブレーキ本体の作動異常が発生している。	販売店にご相談ください。	—
ワイヤーの作動抵抗が大きい。	ワイヤーの錆や汚れが原因と考えられます。販売店でブレーキワイヤーを交換してください。	—
● ブレーキレバーを操作したときに、レバーが完全に戻らない。		
ワイヤーに異物が引っかかり、屈折している。	異物を取り除いて、ワイヤーの曲がりを取ってください。	—
泥等の付着によりブレーキ本体の作動異常が発生している。	販売店にご相談ください。	—
ワイヤーの作動抵抗が大きい。	ワイヤーの錆や汚れが原因と考えられます。販売店でブレーキワイヤーを交換してください。	—

ローラーブレーキ（後ブレーキ）

症状および確認内容	対処方法	ページ
ブレーキの効きが異常に強すぎる。（急激に効く）	この状態は内部のグリス切れが考えられますので、販売店でローラーブレーキ専用グリスをグリス穴から補給してください。	—
ブレーキの効きが異常に弱すぎる。		
ブレーキをかけたとき、キーキー不快な音鳴りがする。		

もしもこんなときは

ペダルをこいだ時の異音（チェーン）

症状および確認内容	対処方法	ページ
強くペダルを踏み込んだ時に後輪付近のチェーンから「ゴロゴロ」と接触音が発生する。	チェーンが錆びていませんか。 チェーンが錆びていたら注油してください。異音が新車時に比べ、大きい場合は販売店に相談してください。	—

後輪錠の施錠・開錠時の動作不良

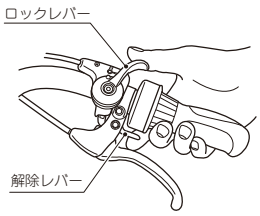
症状および確認内容	対処方法	ページ
● 開錠できない		
カンヌキがスポークやタイヤバルブに当たってツマミを操作できない 。	カンヌキがスポークやタイヤバルブから離れるように、後車輪をゆっくり回転させ、ツマミが戻ることを確認してください。	—
油がきれて動きが悪くなった。	カンヌキスライド部に注油して、ツマミが戻ることを確認してください。	—
キー操作がされていないためツマミを操作できない。	キーを正しく差込み時計方向に回して、ツマミが戻ることを確認してください。	—
● 施錠できない		
カンヌキがスポークやタイヤバルブに当たり、施錠できない。	カンヌキがスポークやタイヤバルブから離れるように、後車輪をゆっくり回転させ、施錠できることを確認してください。	—
セーフティボタンを押していないためツマミを操作できない。	セーフティボタンを押したまま、ツマミを操作して施錠できることを確認してください。	—

もしもこんなときは

テモトデロック

⚠警 告

解除しても、ハンドル操作に音や引っかかりなどの異常があって直らない場合には、乗車せずに販売店にご相談ください。走行中ハンドル操作ができなくなり、転倒や事故につながるおそれがあります。

	症　状	チェック	対　応
操作レバーセット解除時	**ハンドル操作の異常（音がする、引っかかるなど）**	連動ワイヤに異物が引っかかり、連動ワイヤが折れ曲がっている。	**異物を取り除いて、連動ワイヤの曲がりをとってから、再度ハンドルの操作を確認してください。**
		解除レバーが引き上げ切れていない。（ロックレバーが上側にない）	**再度解除レバーを引き上げて、ロックレバーが上側に戻ることを確認後、ハンドル操作を確認してください。**
		内部・連動機構の異常	➡乗車せずに販売店にご相談ください。
	解除レバーを押しても、ロックレバーが上側へもどらない（表示がロック（赤）表示のまま）	内部・連動機構の異常	➡販売店にご相談ください。
		レバーが別部品に接触して動かない。	
操作レバーセットロック時	**ハンドルがロック（半固定）されない。** （表示：ロック（赤） ロックレバー：下側固定）	ハンドルがロック位置より回転方向にずれているため、ロック（半固定）できない	**ハンドルを少し回転させて、ロック（半固定）されるかを確認してください。**
		内部・連動機構の異常	➡販売店にご相談ください。
	ロックレバーが下がらない。 下側に固定されない。 （表示：解除（青） ロックレバー：上側）	解除レバーを「引き上げながら」の操作をしていないため。（安全機構を解除する）	**解除レバーを引き上げながら、ロックレバーを操作して、ロック（半固定）ができるかを確認してください。**
		ロックレバー操作終了後も、解除レバーを引き上げ操作しているため。  	**以下のいずれかの操作方法をして、ロックができるかを確認してください。** **A：解除レバーを引き上げ、ロックレバーが動き出したら、解除レバーの引き上げ操作をやめて、ロックレバー操作を行う。** **B：解除レバーを引き上げ、ロックレバーが下側に突き当たったら、解除レバー操作止め、その後、ロックレバーから指を放す。**
		内部・連動機構の異常	➡販売店にご相談ください。
		レバーが別部品に接触して動かない。	
	ハンドル固定力の低下	内部・連動機構の異常	➡販売店にご相談ください。

定期点検／普通自転車点検整備済みTSマーク

定期点検

点検・整備は販売店で、自転車安全整備士・自転車技士（自転車組立整備士）、またはそれと同等の技能を有する者により受けてください。

● 初回（2ヶ月または100km走行後）点検

お買いあげいただいた電動アシスト自転車は工場で厳密な検査を施した後に出荷されていますが、まれに使用後1～2か月の間に、ボルトなどのゆるみが生じることがあります。この期間内に、お買いあげいただいた販売店に電動アシスト自転車と保証書／点検・整備の記録をお持ちの上、点検・整備を受けてください。また、使用状況などにより部品の交換が必要な場合は、有料となることがありますので、あらかじめご相談ください。
尚、点検整備は有料です。

● 定期点検

いつまでも電動アシスト自転車を大切にお乗りいただくために、異常を感じたら、またはお買い上げいただいてから6ヶ月、12ヶ月、その後は1年毎に販売店で定期点検を受けましょう（有料）。消耗した部品や、異常箇所をそのままにしてお乗りになると大変に危険です。定期点検は人間でいえばいわば人間ドックのようなものです。定期的に点検をすることで、電動アシスト自転車の優れた性能をいつまでも引きだしていただけます。また、定期点検を実施していない場合には保証の適用をうけられないことがありますので、あらかじめご了承ください。

⚠警 告

- **ブレーキは最も重要な機構です。乗車前点検に加え、定期的に販売店での点検を受けるようにしてください。**
- **ブレーキワイヤは消耗品です。異常がなくても2年に1度は交換してください。**

普通自転車点検整備済みTSマークについて（新車には貼付されていません）

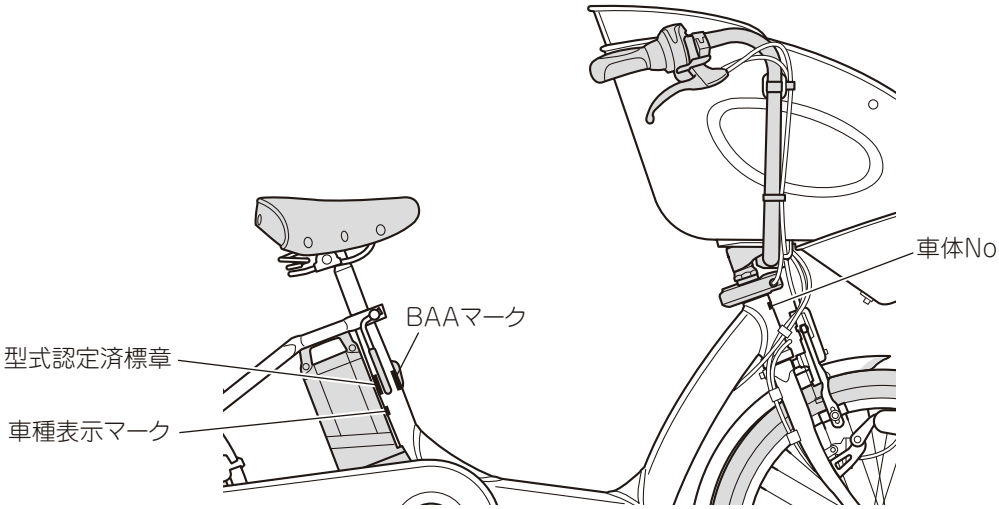
自転車安全整備店で点検整備を行い、基準に適合した安全な自転車にTSマーク（青色TSマーク・赤色TSマークの2種類があります）を貼ることができます。（有償です）
このマークには、傷害補償と賠償責任補償、被害者見舞金（赤色TSマークのみ）が付帯されており、万一の事故の際に利用することができます。詳しくは、お買い求めの販売店、または弊社お客様相談室までご相談ください。

保証制度／基準適合標章（TSマーク）

保証制度

お買い上げいただきました電動アシスト自転車を構成する純正部品に、材質または製造上による不都合が生じた場合は、消耗部品を除き保証書（ロビンフッド手帳）に示す条件に従い、その部品の交換または補修により無料で修理を行います。詳しくは保証書をご覧ください。

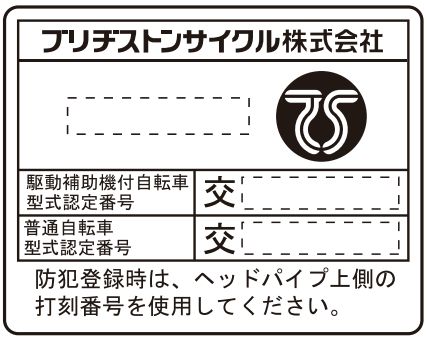
マークの貼付・表示位置



※ 型式認定済標章と車種表示マークはバッテリーを外さないと読めません。
※ 車体No（番号）は、防犯登録する時に使います。
※ マークの貼付位置は、お買い求めいただいた自転車により異なる場合があります。

型式認定済標章（新車に貼付してあるTSマーク）

このマークは、道路交通法の規定に適合し、国家公安委員会の型式認定を取得した製品にのみ表示されるもので、安心して電動アシスト自転車としてご利用頂ける証明です。
このTSマークには、保険は付帯していません。



BAAマーク

電動アシスト自転車には「BAAマーク」が貼付されています。

BAAマークが貼付された自転車は、安全で長持ちする自転車を目標に、社団法人自転車協会が定めた自転車安全基準に基づく型式検査に合格した適合車です。万が一製造上の欠陥で事故が発生した場合は、製造・輸入事業者の責任で補償致します。（社団法人自転車協会が直接利用者の皆様への補償を致すものではありません。）

自転車安全基準の主な内容

制動性能

晴天時・雨天時ともに安全な停止・減速を実現するため、制動性能を確認します。制動確認用車での制動確認は、自転車・チャイルドシートの重量、乗員体重、試験用積載機器調整おもりの重量との合計が100kg±1kgとなるように調整し、調整後、以下に示す重量を加えた重量で確認します。

重量を加える部位	加える重量
チャイルドシート	座面部に容量に相当する重量 （フロントチャイルドシート18kg、 リヤチャイルドシート25kg）

防犯登録／盗難補償／保険について

防犯登録について

法律により防犯登録は義務づけられています。かならず実施してください。

- **制度の意義**
  防犯登録は「自転車の安全利用の促進および自転車駐車場の整備に関する法律第12条第3項」により義務づけられています。これは多発する自転車の盗難、さらに盗難自転車が駅前などに放置され、市民生活に支障を来たす状況を改善することを目的に制定されました。
- **登録のしかた**
  防犯登録はお買い上げの販売店で行います。防犯登録は**有料**です。
- **自転車が盗難にあった場合**
  地元の警察署に盗難届けを出してください。この時防犯登録ナンバーが必要になります。防犯登録ナンバーが不明だと自転車が見つかりにくくなります。防犯登録カードは保管しておいてください。

盗難補償について

- **盗難補償を受けるためには、盗難補償書に記載の期日にまでに、次のいづれかの加入手続きが必要です。**
  ①弊社ホームページから「オンライン登録」で登録する
  ②ロビンフッド手帳に記載のQRコードから携帯電話で「オンライン登録」する
  ③ロビンフッド手帳のブリヂストンサイクル盗難補償カード（ハガキ）に必要事項を記入の上、投函する
  ※お買い上げ日欄が未記入であったり、不実の内容を記入された場合には盗難補償は受けられません。
  ※弊社からお客様へ、ブリヂストンサイクル盗難補償カード（ハガキ）受け取り完了のご連絡は差し上げられませんのでご了承ください。
- **上記、加入手続き前に遭われた盗難に関しては、補償が受けられませんのでご注意ください。**
- **詳細は盗難補償書をご覧ください。**

保険について

- **万が一の事故に備えて、対人対物賠償保険に加入することをおすすめします。（弊社では保険の取扱はしていません）**

スペアキーについて

スペアキーのご注文は、お買い上げ店にキーNoと車種をご指定の上ご注文ください。

⚠注 意

- ご注文からスペアキーの納品には10日以上かかる場合があります。
- 部品の生産終了や在庫切れにより、対応できなくなる場合もあります。
- スペアキーは元のキーに対してつまみの形状などが異なる場合があります。
- お客様の自転車の車体Noなどから、キーNoを弊社で調べることはできません。
  （弊社には1台ごとのキーNoデータはありません。）
- 紛失する前にキーNoを控えておくことをおすすめします。（裏表紙）
- キーNoがわからないと、スペアキーは注文できません。
- 防犯上の理由からスペアキーの対応ができない場合もあります。
- 自転車のスペアキーは、一般に鍵屋さんでは作れません。

有料 点検・整備項目

V＝異常なし　A＝調整・注油　△＝修理　×＝交換　T＝締付　C＝清掃・その他

	点　検　項　目	初回	6か月	1年	2年	3年	4年	5年	6年
車両本体	車体の長さと幅、フレームと前ホークの形状と取付状態								
	ハンドルの取付状態、回転具合とがたつき								
	ブレーキ各部の作動と取付状態、注油の有無								
	ローラーブレーキの鳴き、振動の有無（1年毎専用グリス充てん）								
	ブレーキのききめと各部の摩耗状態、ブレーキの調整								
	ベルの取付状態と鳴り具合								
	前照灯の取付状態と機能								
	前後の車軸の締付とがたつき								
	リムの変形と振れ、スポークの変形･張り具合								
	タイヤの取付状態、摩耗、損傷、空気圧								
	ペダルとギヤクランクの取付状態と回転具合								
	フリーホイルの回転具合と注油の有無								
	チェーンの張りと摩耗、注油の有無								
	変速機の取付状態と作動								
	ロックキーの取付状態								
	前後の泥よけとチェーンカバーの取付状態								
	リフレクタ（反射板）の取付状態と汚れ、損傷（ソーラーテール（リヤリフレクター）は作動を含む）								
	サドルの取付状態と位置								
	スタンドの取付状態と機能								
	キャリヤの取付状態と位置								
	バスケットの取付状態と位置								
電動アシストシステム機構	パワーユニット固定用ボルトのゆるみ								
	電動アシストシステム各部の取付状態と作動								
	電気配線の接続部のゆるみと損傷								
	パワーユニットからのグリス漏れ、異音の有無								
	カバー類固定用ボルトのゆるみ								
	充電コンセントの取付具合と損傷								
	バッテリー残量ランプの表示								
	バッテリーの取付状態とロックの作動								
	バッテリーの固定状態								
	バッテリーの劣化具合								
■実施年月日		・・	・・	・・	・・	・・	・・	・・	・・
■実施者氏名		印	印	印	印	印	印	印	印

メモ

サイクルショップ
どこ
P
日の丸デパート
コープ

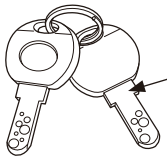
サイクルショップ
どこ
P
日の丸デパート
コープ

お買いあげいただいた電動アシスト自転車の記録

● **キーNo** _____

※スペアキーをご注文する時にはキーNoが必要ですので、お客様が記録しておいてください。

※スペアキーのご注文はお買い上げの販売店へご相談ください。



キーNoはここにあります。

● **防犯登録番号** _____

※防犯登録票より転記してください。

● **車体No** _____

※表示場所はP111参照。

バッテリーと充電器販売のご案内

● **リチウムイオンバッテリーC100 6.2Ah**
注文番号：P6438（ブラック）

● **リチウムイオンバッテリーC301 12.3Ah**
注文番号：P6226（ホワイト）、P6213（ブラック）

● **リチウムイオンバッテリーC400 15.4Ah**
注文番号：P6329（ブラック）

● **充電器**
注文番号：P5850

仕様変更や共通化などにより、注文番号が変更になる場合があります。
ご購入の際は、販売店にご相談ください。

サービスの実施

お買いあげいただいた販売店が点検・修理をはじめ、サービスのご相談などをお受けいたします。

お買いあげいただいた販売店

ブリヂストンサイクル株式会社

〒362-8520 埼玉県上尾市中妻３丁目１－１

お客様相談室

受付時間：9:00～17:00（土・日・祝日及び弊社指定休日は休み）

電　　話：0120-72-1911　FAX：048-772-2340

（国際電話・インターネット電話でのご利用はできません。）

IA01-675
23, I